

ニ陳列シ、普ク觀覽ニ供スル目的ニ有之候處、日露ノ戰役ハ曠古ノ武德振古ノ國威ヲ中外ニ布キ、數多ノ戰利品ハ長ク千古ニ鑑ミ、億兆ヲシテ深ク忠愛ノ思念ヲ惹起セシムルノ要具ニ付、該戰利品及今回戰役ニ關シ紀念トナルベキ品々、右徵古館構内并ニ館内へ開陳致度候間、何卒特別ノ御詮議ヲ以テ適當ノ品々、本會へ御下渡被下度、此段奉願候也

明治三十九年一月四日

陸軍大臣

寺内

正毅殿

神苑會頭男爵

花房

義質

海軍大臣男爵

山本

權兵衛殿

(各通)

九日、客臘許可ヲ得タル 神宮式年御造營材ノ標本四個ヲ受領シ、之ヲ農業館内ニ陳列ス、本材ニ關シ昨日特ニ神宮大宮司ノ通達ヲ受ケ、之ニ對スル保管證ヲ提供ス、大宮司通達ノ文書左ノ如シ。  
神宮式年御造營材ノ標本ヲ農業館へ陳列ノ件、曩ニ被願出候ニ付、内務大臣へ稟請ヲ遂ゲ、客年一月十四日付及指令候處、右標本ハ造神宮使廳ヨリ當廳へ附與ヲ受ケ、貴會ハ單ニ之ヲ保管セラルベキ主意ニ有之、右ハ當初造神宮使廳ヨリ來意ノ次第

モ有之候條、爲念此段申入候也

明治三十九年一月八日

神宮大宮司子爵

三室戸和光

神苑會頭男爵

花房

義質殿

二十六日、地方委員部職員ヲ囑託スル事左ノ如シ。

和歌山縣事務官林俊太郎ニ委員ヲ囑託シ、前委員二名ノ囑ヲ解ク

三十九年度歳入出豫算、并ニ會務要件ニ關シ、評議員會ニ列席ノ爲

メ、滿岡理事ハ本月三十日、太田理事ハ二月五日上京ス。

二月二日、從四位勳三等古莊嘉門ニ評議員ヲ囑託ス。

九日、評議員會ヲ東京市華族會館ニ開キ、左ノ事項ヲ評議ス。

一 三十九年度歳入出豫算

一 職務權限改正ノ件

一 寄附行爲ニ關スル件

一 徵古館建築ニ關スル件

十六日、正五位勳五等後藤松吉郎ニ本會委員ヲ囑託ス、此後、後藤委員、各府縣ヲ巡回シ專ラ地方部寄附金ノ督勵ニ從事ス。  
十八日、歴史編纂委員吉川清三郎ヲ解囑ス、蓋囑託以來、其績未ダ舉ラズ、歲月荏苒、成功或ハ期シ難カラントスルヲ以テナリ。  
本月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

三重縣委員木間潮策三外一名ノ囑ヲ解キ、同縣事務官田中次郎ニ委員ヲ、宇治山田警察署長警視濱田盛義、河越郡書記一名ニ委員ヲ囑託ス

三月十六日、寄附行爲事務協商ノ爲メ、本會委員後藤松吉郎、事務所ニ來リ、十八日、三室戸評議員、太田理事、滿岡專務理事、宇仁田監事等ト五二會館ニ會務ヲ商議シ、翌二十日、京都府及奈良、滋賀、岐阜ノ各縣ニ向フ。

本月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

和歌山縣屬田村和夫ニ委員囑託

福井縣事務官高橋磯八郎ニ委員囑託

愛媛縣屬一名ニ委員ヲ、同縣倉根是翼外六名ニ郡委員長囑託

高知縣內川一貫外二名ニ郡委員長囑託

四月三日、三十八年度會計決算、會務成績、財産目錄等既ニ評議員、監事ノ承認検査ヲ經タルヲ以テ、之ヲ東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞紙ニ掲載シ會員ニ報告ス、其掲載ノ文書左ノ如シ。

明治三十八年中 神苑會會務成績

明治三十八年倉田山ニ移轉改築中ノ事務所及倉庫ハ、漸次竣功ヲ告ルヲ以テ、先ヅ事務所移轉ノ準備ヲ爲セリ、同三月繼續工事ノ重要ナル農業館竣功シ、物品ノ陳列ヲ開始シ、資日館ヲ廢シ、徵古品其他備品ヲ倉田山事務所ノ倉庫ニ保管シ、該館管守及守衛ヲ解囑セリ、同六月繼續工事ノ徵古館倉庫落成セシヲ以テ、之ヲ假徵古館ト稱シ、管守及守衛ヲ命ジ、物品陳列ノ準備ヲナサシム、又事務所ノ移轉ヲ終了シ、內務大臣ノ認可ヲ經テ山田區裁判所ノ登記ヲ了セリ、同七月三十日農業館開館式ヲ舉

行シ、同時ニ假徴古館ノ陳列ヲ終リ、二館共ニ來賓ノ縦覽ニ供シ、翌月三日ヨリ公衆ノ觀覽ニ供シタリ、同十一月十五日

今上陛下 神宮御參拜ノ節、本會ニ於テ調製シタル神苑圖誌及徴古館計畫圖并ニ倉田山全圖及農業館圖ヲ奉獻シ 天覽ヲ仰ギ奉リタリ、而テ 伏見宮殿下ノ台臨ヲ忝フシ、又供奉各大臣來館アリテ其實況ヲ視察セラレタリ、同月二十六日 皇太子殿下行啓ノ節、又神苑圖誌及徴古館計畫圖并ニ倉田山全圖及農業館圖ヲ奉獻シ、台覽ヲ仰ギ奉リタリ、而テ供奉侍從職幹事來館アリテ其實況ヲ視察セラレタリ 本會職員異動ハ、評議員上任一人、同解囑一人、地方委員總長以下囑託者四十七人、解囑者四十七人ナリ

明治三十八年度會計決算

一前年度ヨリ繰越金

一歳

内

神宮司應補助金

三八八五二・二五二

八四九三四三〇

四三〇〇〇〇〇

寄附

事業收入

事務所收入

資財收入

雑收入

合計

一歳

内

奠供費

興業費

事業維持費

事務費

會員費

雑出

一五二七七九〇

六一八八〇四

一五三四六

一八〇一六一〇

二二九八八〇

四七三三四五六八二

二二二六一六一一

二〇〇〇〇

一八三八五四二二

一四〇六七九〇

二二七三九八九

二三一三七〇

四四〇四〇

五日、神宮司廳補助金三十八年度分、壹萬四千參百圓ノ内、神宮別途  
 收入金減少ノ爲メ、補助金下附命令條件第一條第三項ニ依リ、四千  
 參百圓ヲ減シ、金壹萬圓下附ノ旨ヲ通達セラレ、該金員ヲ收受ス。  
 本月、地方官會議ヲ機トシ、二十五日ヲ以テ各府縣知事ヲ華族會館  
 ニ招待スベキコトヲ評決ス、即チ之ガ準備ヲ講シ、本月十三日、先ヅ  
 各地方官ニ書ヲ發スルコト左ノ如シ。

拜啓益御清穆奉敬賀候、陳者、豫而蒙御高配候神苑會事業ノ概況ハ、先般御報告旁得  
 貴意置候通ニテ、來四十二年 兩宮正遷宮式迄ヲ期シ、徵古館ノ建設ヲ完成スルノ  
 見込ヲ以テ、本年秋季ヨリ工事着手ノ筈、現下專ラ手配中ニ有之、就テハ近日地方官  
 會議ニ付御上京ヲ機トシ、來二十五日午後四時、華族會館ニ御來會相願親敷御相談

申上、多年御高配被成下候資金募集上ノ事、一段ノ御配慮相願度ト存候事ニ御座候、  
 抑本件ニ付テハ、故有栖川宮熾仁親王殿下、本會總裁トシテ一再ナラズ懇々御依  
 囑被爲在、現總裁

威仁親王殿下ニハ其御遺志ヲ被爲繼、更ニ各位ニ御懇囑被爲在、爾來各位ニ於テモ  
 篤ク御配慮相成今日ニ及候次第ニ候處、今ヤ日露ノ大戰ハ全捷ヲ以テ其局ヲ結ビ  
 皇軍ハ至大ノ名譽ヲ荷ウテ凱旋シ、

陛下ニハ親敷行幸、以テ平和ノ克復ヲ奉告被遊候テ、前古無比ノ大典ヲ被爲舉候折  
 柄ニ付、本會ガ此歴史博物館タル徵古館ヲ、

皇祖神宮ノ靈地ニ建設シテ獻納スルノ一舉ハ、畢竟臣民致誠ノ本意ヲ表スル、ニ外  
 ナラザル義ニハ候得共、又以テ戰捷ノ餘烈ヲ千載ニ傳フベキ一大好紀念トシテ、最  
 適切ナル義ト存候故、本會ハ之ヲ以テ最終ノ事業トシ、豫定ノ通、必此目的ヲ相達度、  
 各位ニ於テモ多年御高配被下候最終ノ一段トシテ、此際一層ノ御盡力煩シ度、此段  
 御案内旁御出京ニ先立、豫メ御依頼申上置度、如此御座候 敬具

明治三十九年四月十三日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

各府縣委員總長苑囑託未濟ノ分ハ知事宛トセリ

追テ來二十四日ヲ期シ御上京ト承候故本文ノ通、二十五日ヲ以テ御會合相願候事ニテ當日ハ 總裁殿下ニモ御臨席ノ筈ニ有之尙委細御着京ノ上御打合可仕候得共、豫メ御案内迄、本文申上置候事ニ御座候也

凡ソ參宮ノ公衆ヲシテ、倉田山ニ於ル本會事業ノ現況ヲ知ラシメント欲シ、徵古館計畫圖、假徵古館、農業館、本會事務所等ノ建造物ヨリ、倉田山新設道路ノ關聯ヲ示スベキ地圖ニ至ル迄、其眞景若クハ圖畫ヲ撮影セル額面ヲ製シ衆目ニ觸レ易キ山田、二見ノ電車待合所ニ揭示ス。

十四日、地方部職員中、愛媛縣屬加藤莊次郎ニ同縣委員ヲ囑託シ、近藤忠敏ノ囑託ヲ解キ、伊藤忠三ニ岐阜縣委員ヲ囑託シ、大野薰外十一名ニ同縣羽島郡外十一郡ノ各委員長ヲ囑託シ、退官若クハ轉任ノ十一名ニ對スル囑託ヲ解ク。

二十三日、農業館監督田中理事ノ提議ニ由リ、同館列品中ノ肥料荷造改良圖、及食鹽荷造改良圖、各一幅ヲ參考的出品ニ供センガ爲メ、秋田縣主催ニ係ル北海道外奥羽六縣物産共進會ニ之ヲ發送ス。二十五日、原内相、地方局長及道廳府縣ノ長官ヲ東京市華族會館ニ招待ス、滋賀、宮崎兩縣知事ヲ除キ餘ハ悉ク會同セリ、總裁殿下御恙アリテ台臨アラセラル、ヲ得ズ、伊藤別當御名代トシテ臨席シ、花房會頭、周布副會頭、小松原評議員、土方評議員、滿岡理事、後藤委員等列席ス、一同會議席ニ整列スルヤ、伊藤別當ハ 殿下ノ令旨ヲ朗讀セラル。

令旨

曩ニ威仁、神苑會總裁ノ任ニ膺リテヨリ以來、本會ノ事業順次進行シテ、成績ノ見ルベキモノアルハ、諸子ノ容易ナラザル配慮ニ

因ル者多シ、今ヤ進テ徵古館ノ建築ニ着手シ、來四十二年正遷宮  
ヲ期シ、之ヲ落成セシメントスルニ方リ、更ニ諸子ノ盡力ヲ煩ハ  
シ、地方有志ノ贊同ヲ需メ、以テ積年ノ計畫ヲ完了シ、本會最終ノ  
局ヲ收メントス、諸子庶幾クハ能ク此意ヲ諒シ、以テ始終ヲ全ク  
センコトヲ

明治三十九年四月二十五日

神苑會總裁 威 仁 親 王

原内相、一同ニ代リ奉答シテ曰ク、神苑會ノ事業ニ關シ、今謹テ令旨  
ヲ拜ス、生等戮力協議以テ本日ノ隆旨ニ副ヒ奉ラシコトヲ期セン  
ト、次デ評議員土方伯所感ヲ演ラル。

老生ノ神苑會ニ於ルヤ、緣故最モ深キ者アリ、創立以來今日ニ至ル迄敢テ微力ヲ盡  
ス所ナシトセンヤ、初明治二十一年、伊勢出張ノ際、事業ノ現況ヲ視、且其趣旨ヲ聞テ  
大ニ感アリ、茲ニ贊成ノ意ヲ表シ、歸京ノ後、有栖川宮熾仁親王殿下ニ請ニ總裁ニ

卯ギ奉ランコトヲ以テス、殿下之ヲ嘉納アラセラル、又會頭其人ヲ得ルノ要アリ、  
當時ノ宮内次官、吉井友實伯ヲ推舉シタリキ、此際宮内省御下賜金ノ光榮ヲ辱セシ  
ノミナラズ、皇族方ノ御寄附ヲ辱スルアリ、當路ノ方面ニハ、内務省ニモ事業ヲ協  
贊シ神宮司廳ヨリ補助金ヲ決定セラル、茲ニ至リテ基礎漸ク樹立シ、發展擴張ノ機  
運ヲ啓ケリ、當初微力ヲ盡セシ所以ノ者、其詮アリト謂フベシ、今ヤ諸君ノ協力ヲ得  
テ相共ニ其終ヲ全クセント欲ス、是レ老生ガ本會ニ對スル始終一貫ノ志念ナリ、乃  
チ一言以テ清聴ヲ煩ハス由縁ナリトス

右土方伯ノ演說ニ次デ、花房會頭ヨリ現況并ニ希望ノ要領ヲ報告  
シ、周布副會頭ヨリ募金成績ニ關スル希望ヲ述べ、了リテ散會ヲ告  
グ、正副會頭ノ演說左ノ如シ。

花房會頭演說

本日ハ御着京早々、殊ニ御多忙ノ際、御繰合御來會下サレタル段、深ク拜謝スル所也、  
豫テ御通知申上タル通り、總裁 有栖川宮殿下親シク御臨場ノ思食ナリシガ御風  
氣ノ爲メ御見合セト相成タルモ、伊藤別當ヲ以テ令旨ヲ賜リ、諸君ト共ニ篤キ思食

ヲ拜聴スルヲ得タルハ、本會ノ光榮之ニ加ルナク、又内務大臣閣下ノ答詞ヲ奉ラレシハ最モ本會ノ光榮トシテ萬々拜謝スル所ナリ、回顧スレバ、現總裁殿下ガ、故熾仁親王殿下ノ御遺志ヲ繼セラレ、明治二十八年十月諸君ヲ御殿ニ召サレ令旨ヲ賜リタル後、或ハ帝國ホテルニ或ハ内務省ニ、台旨ヲ奉ジテ諸君ノ御協賛ヲ請ヒ、又本會創業以來ノ成績ヲ略述シテ清聴ヲ煩シタル如ク、兩宮神苑ノ開成ヲ始メトシテ神路山ニ連互スル、岡田林、丸山、翠ヶ岡ノ山林ヲ購ヒ、内宮ノ風致林ニ奉供シ、或ハ 外宮神苑ノ接續地ニ神苑ヲ開擴シ、以テ火災ノ防備ヲ爲シ、其他倉田山ノ購買、神寶拜觀所ノ建設等ヲ遂行シタルハ、既ニ諸君ノ了承セラル、所ナリ、其後倉田山ノ勝地ニ本會經營ノ事業ヲ集纏スルヲ期シ、新ニ道路ヲ開修シテ農業館ノ移轉増築ヲナシ、之ト同時ニ徵古館倉庫ヲ移築シテ、假徵古館ニ充用スルコト、ナシ、其他事務所移轉及徵古館敷地ノ地均シ等、諸種ノ工事漸次成功ヲ告タリ、夫斯ノ如ク倉田山ノ規畫着々其功ヲ奏シ、前途只獨リ徵古館ノ未成ヲ見ルノミナルヲ以テ、本年二月、本會評議員會ニ於テ、徵古館ノ建築ハ來四十二年正遷宮前ヲ期シ、必之ヲ竣功スルヲ議決シタリ、其總工費凡金貳拾萬圓ヲ要スル見込ニシテ、來四十二年二期

成セントスレバ遅クモ本年秋季ヲ以テ之ガ工事ニ着手セザル可ラズ、今ヤ戦後ノ經營ニ際シ、各般ノ事務頗ル御多端ナルハ萬了察スル所ナレドモ、今回ハ本會最終ノ事業ヲ完成スルニ付最後ノ御盡力ヲ願ヒ、積年御配慮ノ局ヲ結バントスル者ナレバ、何卒地方ノ事情ノ許ス限リ、資金ノ取纏及ビ新規募集ニ手ヲ盡サレ、希クハ本會希望額ヲ調達セラレ、豫期ノ如ク來四十二年ヲ以テ、徵古館其他會有ノ資産土地建物ヲ舉テ之ヲ 神宮ニ奉獻シ、本會ヲシテ其事業目的ノ完結ヲ告ルノ奎運ニ際會セシメラレン事ヲ切望ス

周布副會頭演說

本會寄附金ノ希望額ハ、諸君御記憶ノ如ク、明治三十三年帝國ホテルニ於テ、人口一ニ對シ金壹錢ト標準ヲ定メ御盡力ヲ願ヒ、幸ニ御承認ヲ得テ今日迄經過シ、其間追々寄附申込アリト雖モ、目下申込ニ對シ未納ニ屬スル者、或ハ希望ノ額ニ達セザル者、別表ノ如クナルヲ以テ、左ノ收支豫算ヲ熟覽セラレ、御盡力アラントヲ希望ノ至ニ堪ザルナリ

(別表省略)

第九編 法人第二期 明治三十九年  
 自明治四十年度三個月間收支豫算調  
 至明治四十二年度三個月間收支豫算調

一金貳萬五千八百拾四圓  
 一金四萬貳千九百圓  
 一金壹萬八千圓  
 一金參千圓  
 一金參萬五千貳百六拾五圓  
 一金參拾貳萬七千四百四拾參圓  
 合計金四拾五萬千六百九拾貳圓

現 在 金  
 神 宮 補 助 金  
 地 所 賣 却 代  
 奉 齋 會 寄 附 金  
 申込ニ對スル拂込未済額  
 各府縣寄附希望殘額

支 出

一金貳拾萬圓  
 一金拾七萬圓  
 一金壹萬八千貳百參拾壹圓  
 一金參萬六千貳百七拾圓  
 一金貳萬七千九拾壹圓

徵 古 館 建 築 費  
 徵古館陳列品購入及設備費  
 經 常 費  
 寄 附 金 募 集 費  
 豫 備 費

合計金四拾五萬千六百九拾貳圓

五月三日、地方部職員中、高知縣池上平外一名、轉任ノ爲解囑シ、佐藤二郎、内川一貫ニ郡委員長ヲ囑託ス。

八日、邊ニ本會歴史編纂委員ヲ解囑シテヨリ後、杉村讓一郎ヲシテ編纂ニ從事セシム、創立當初即チ明治十九年、二十年、兩年ノ分、脱稿ヲ告ゲ、此日創業實歴者太田理事、宇仁田監事等相會シテ之ヲ展讀ス、編述未ダ完カラズ、或ハ記事ヲ逸センコトヲ恐レ、各覈査ヲ加フベキヲ期セリ。

十四日、地方部職員中、北海道廳網走支廳長川越常次郎ニ委員長ヲ囑託シ、其退官前任者ヲ解囑ス。

十五日、竹田宮恒久王殿下、同妃昌子内親王殿下、午後三時三十分山田驛御着直ナニ 神宮御參拜アラセラル。翌十六日午前二見浦



御遊覽午後四時 恒久王殿下ニハ假徵古館及農業館ヲ台覽アラセラル、滿岡專務理事奉迎シテ各館ニ導キ奉リ、管守ヲシテ説明シ奉ラシム。翌十七日、兩殿下御出發、滿岡專務理事山田驛ニ奉送シ、狀ヲ具シテ之ヲ會頭ニ報告ス。

六月二日、地方部職員中、三重縣大山元史ニ多氣郡委員長ヲ、滋賀縣堀江吉之助ニ同縣委員ヲ囑託ス。

三日、本會評議員伯爵土方久元ヲ山田驛ニ迎フ、太田理事先ヅ名古屋ニ在リ、相伴ウテ來着ス、此日事務所ニ至リ倉田山ヲ巡覽セラル、伯曰ク農業館ノ品彙整頓、蓋比類ナキ所、假徵古館列品ノ多キモ亦豫想ノ外ニ出ヅト、夜ニ入り理事四名、監事一名ト五二會館ニ晚餐ヲ共ニス、齋藤御料局度會事務所長、濱田警視亦之ニ列セリ。翌四日、同伯ハ 神宮參拜ヲ了シ賓日館ニ遊ビ、五日午前九時五十

分山田驛發車、京都ニ向ヘリ、理事、監事、委員等之ヲ山田驛ニ送り、太田理事同行シテ京都ニ向フ。

二十日、地方部職員中、愛媛縣西宇和郡長築瀨勇七、外一名ニ郡委員長ヲ、同縣屬古川一ニ縣委員ヲ囑託シ、前任委員長二名ノ囑託ヲ解ク。

二十三日、地方部職員中、新潟縣事務官野田藤馬ニ委員副總長ヲ、縣屬二名ニ縣委員ヲ、郡市長十八名ニ各委員長ヲ囑託シ、神奈川縣都筑郡ニ於テ委員一名ヲ囑託ス。

二十五日、事務所書記以下傭員ニ増給ス。

二十九日、地方部職員中、埼玉縣事務官八重野範三郎ニ縣委員ヲ、三重縣度會郡長今村眞橘外二名ニ郡委員長ヲ囑託シ、同縣内ニ於ル轉任郡長三名ノ囑託ヲ解ク。

倉田山上、徵古館建設地域ニ繩張ヲ行フ、是ヨリ先キ、小松原評議員ハ宮内省技監片山東熊ヲ伴ヒ、二十八日山田驛ニ着シ、有松三重縣知事ト會シテ事務所ニ至リ、理事監事等ト議ル所アリ。翌二十九日、片山技監ノ指揮ニ依リ福田技手其地域ニ繩張シ、小松原評議員臨檢ヲ了ス、玆ニ於テ建築地確定シ、工事着手ノ準備ヲ協議ス、實ニ一大土功實施ノ端始也。翌三十日、太田理事、宇仁田監事等、小松原評議員ノ歸東ヲ津市ニ送り、箕曲書記ヲシテ名古屋ニ隨行セシム。

七月以降、徵古館建設囑託技手福田安三郎、專ラ建築材料ノ調査ニ從事シ、現場ノ施工ヲ監督ス。

七月五日、和歌山縣日高郡長、東牟婁郡長ニ異動アリ、從ツテ本會地方部職員中、郡部委員長二名ニ囑託及解囑ヲ生シ、十五日、山口縣事務官梶山延太郎ニ縣委員ヲ囑託ス。

二十三日、岡山縣委員總長檜垣直右ノ稟請ニ據リ、同縣委員副總長葛寬藏、委員西村益三、高塚松太郎ノ功勞ヲ調査シ、本會寄附行爲條款第六條ニ依リテ之ヲ特別會員ニ推薦シ、報功内規第八條第六項ニ定ムル所ノ推薦狀并ニ特別證牌ヲ贈進ス(葛、西村ノ兩名ニハ紫紐牌、高塚ニハ紅紐牌)。

本年二月囑託セシ本會委員後藤松吉郎ノ辭職ヲ承允シ、七月二十五日付解囑書ヲ交付ス。

七月下旬、地方部職員中、佐賀縣佐賀郡長柳田泉、外六名ニ各委員長ヲ、同縣事務官伊藤哲英ニ委員副總長ヲ、同縣屬先山八太郎ニ委員ヲ囑託シ、轉任二名ヲ解囑ス。

高知縣高岡郡長德永秀實、外一名、高知市長藤崎明之ノ三名ニ各委員長ヲ囑託ス。

七日、群馬、山形、岡山ノ三縣知事休職ノ爲、前ニ囑託セシ委員總長ヲ解ク。其岡山縣委員總長檜垣直右ノ從來ノ盡力ニ對シテハ特ニ謝狀ヲ送致ス。

九日、香川縣事務官片岡英儀ニ委員副總長ヲ、同縣屬松原正儀外二名ニ委員ヲ、同縣大川郡長外四名及丸龜市長ニ各委員長ヲ、其各郡市書記六名ニ委員ヲ囑託ス。

十八日、大分縣知事千葉貞幹、岐阜縣知事小倉久、群馬縣知事有田義資、岡山縣知事寺田祐之、奈良縣知事川路利恭、鳥取縣知事山田新一郎、德島縣知事谷口留五郎、福島縣知事平岡定太郎、宮崎縣知事永井環、山形縣知事馬淵鏡太郎、新潟縣知事阿部浩、埼玉縣知事大久保利武、靜岡縣知事李家隆介、山梨縣知事武田千代三郎、長野縣知事大山綱昌、宮城縣知事龜井親晴、栃木縣知事久保田政周ノ十九名ニ各委

員總長ヲ囑託シ、轉任若クハ休職七名ニ對スル委員總長ヲ解囑ス。二十日、福井縣委員副總長一名ノ増員ヲ裁可シ、更ニ事務官信太時尙ニ之ヲ囑託シ、同縣委員二名ヲ解囑ス。

山口縣前委員、事員官梶山延太郎ニ對シ、更ニ委員副總長ヲ囑託シ、轉任ニ依ル委員一名ヲ解囑ス。

二十六日、御料局主事兼主獵官佐々木陽太郎并ニ隨行員等同局度會事務所長齋藤傳五郎ヲ東道トシテ本會ニ來リ倉田山ヲ巡覽ス、滿岡專務理事爲ニ本會ノ沿革ヲ説キ且示スニ神苑圖誌ヲ以テス。九月、從五位勳五等三橋勝到ニ本會委員ヲ囑託シ、前委員後藤松吉郎ノ後ヲ繼ギ、專ラ各府縣ニ派出シテ寄附募集ノ事ニ從ハシム、其派出ニ方リ道廳各府縣ニ通牒スルユト左ノ如シ。

拜啓陳者神苑會ノ義ニ付テハ種々御配慮被下奉感謝候今春御上京中、御依頼致置

候寄附金募集ノ義モ、追々御着手被成下候事ト奉存候、乍此上、何卒宜敷御盡力奉願候、倍又兼テ本會ニ於テ寄附金募集事務ヲ囑託セシ、委員後藤松吉郎氏、今般日本赤十字社事業ニ從事スル事ニ相成候ニ付、更ニ三橋勝到氏ニ右委員ヲ囑託致候間、今後ハ時々同氏罷出御依頼致候筈ニ候、右御了承被下度此段得貴意候 敬具

明治三十九年九月

神苑會會頭男爵 花房 義 質

道廳府縣委員總長宛

(委員副總長囑託未濟ノ方面ニハ左ノ追書ヲ加フ)

追テ寄附金募集方御着手被成下候ニ付テハ、御廳務御多端ノ際願上兼候得共、何卒御綜合、委員副總長御推薦、至急御申立ニ相成度併テ得貴意候也

九月十七日、評議員會ヲ東京ニ開キ、徵古館興業費敷地ニ於テ金壹千圓ノ増額、農業館費備品ニ於テ金百參拾圓ノ増額ヲ評決ス。曩ニ本會ニ購入セシ山林(丸山、琴ヶ岡、岡田林)凡百七十町歩ハ、内宮神苑ニ對スル風致林トシテ久シク保管スル所ナリ、就中、宮域

ニ面セル五十町六反餘歩ハ既ニ保安林ニ編入セラレタリ、今ヤ本會最終ノ事業ニ着手シ、期年成功ノ後全績ヲ舉テ 神宮ニ奉獻セントス、不用ノ土地屋舎等ヲ保タンヨリモ、寧ロ賣却スルニ如カズトシ、評議一決、漸次之ヲ實行ス、風致林亦此部類ニ屬スル者ナリ、然レドモ 宮域及御料林ニ介在スル地域ヲシテ、再ビ民有ニ歸セシムルニ忍ビズ、乃テ審議ノ末、御料地ニ編入ヲ請フノ適切ナルヲ認メ、情ヲ具シテ之ヲ宮内大臣ニ出願ス。但其出願ニ方リ、全然貸借契約ノ地權ヲ解除セント欲シ、借地人ニ懇諭スルユト再三、而シテ頑冥猶應ゼザル者ニハ徵スルニ期間借用ノ理由ヲ以テシ、特ニ其事由ヲ具シテ詮議ヲ願フノ已ムベカラザルニ至ル、願書左ノ如シ。

本會所有山林御買上願

一三重縣伊勢國宇治山田市大字今在家町字岡田林 山林反別百五十六町四畝九步

一同縣同國同市同大字字丸山 山林反別二町九反二畝八步  
 一同縣同國同市同大字字琴ヶ岡 山林反別十町四反九畝廿步原野反別四畝八步  
 合計反別百六十九町五反十五步

右本會所有山林ハ買收以前民有山林ニ屬シ當時濫伐ノ惡弊野火ノ災害時々有之  
 追々荒廢ニ趣候折柄本會ハ神苑開設ト共ニ右三字山林ヲ買收シ爾來殖林ノ事業  
 ニ服シ、神宮ノ風致ニ奉供センガ爲山林取締ヲ置キ濫伐火災ノ防備ニ注意スル  
 茲ニ十有八年幸ニシテ殖林繁茂シ蔚蒼深遠ノ風致ヲナスヲ得タリ今ヤ 宮城方  
 面ノ部分五十町六反一畝二十二步ハ保安林ニ編入セラレ其他ハ明治五十三年十  
 二月迄規約ヲ定メ人民ニ貸渡置候處本會事業モ追々完了ニ近ヅキ本會最終ノ事  
 業タル徵古館建築ノ義モ不日起工仕來明治四十二年御遷宮式迄ニ竣功ヲ期シ、  
 神宮へ奉獻ノ計畫ニ有之從テ不用ノ土地家屋等漸々賣却仕整理ヲ計リ居候義ニ  
 御座候然ルニ右山林ハ前顯ノ旨趣ヲ以テ買收致候義ニ付此際御料山ニ御買上願  
 度候尤人民ニ貸渡山地ニ存立スル樹木ハ此際悉皆買收シ山地ヲ返納セシメ候上  
 御買上相願候様仕度種々談示及候得共借地人一同ヨリ樹木伐採及苗樹植付等都

テ借用年限ヲ見込經理候ニ付約定年限中猶豫ノ義別紙ノ通懇願致事情無餘儀相  
 聞候間此儘御買上出願ノ義ハ恐懼ノ至ニ候得共特別ノ御詮議ヲ以テ何卒御許容  
 被下度別紙圖面及借地證券并ニ借地人懇願書相添此段奉願候也

明治三十九年九月 日

神苑會會頭男爵 花房 義 質

宮内大臣子爵 田 中 光 顯殿

本年本月宇治山田町ニ市制ヲ施行セラレ改メテ宇治山田市ト稱  
 ス此行政區畫變更ト共ニ本會理事中桑原芳樹太田小三郎滿岡勇  
 之助ノ三名ニ係ル住所地名ニ變更ヲ來セシガ爲メ二十五日法人  
 登記事項變更ノ登記ヲ了セリ。  
 東宮御所御造營局員福田安三郎ニ對シ徵古館建築工事ヲ囑託セ  
 シヲ以テ本月其囑託書ヲ交付シ月手當六拾五圓ヲ支給ス。  
 二十日地方部職員中神奈川縣事務官坂田幹太ニ同縣委員副總長  
 ナ囑託シ同縣委員二名ノ囑ヲ解ク。

十月八日、地方部職員中、静岡縣事務官東園基光ニ委員副總長ヲ、同縣賀茂郡長竹田定、外郡長九名ニ各委員長ヲ囑託シ。山梨縣事務官眞中直道ニ委員副總長ヲ、同縣屬清水全三ニ委員ヲ囑託シ、前副總長及委員各一名ノ囑ヲ解ク。香川縣香川郡長岩本智雄、外郡長一名ニ各委員長ヲ、香川郡書記一名ニ委員ヲ囑託ス。三重縣南牟婁郡長古森安太郎、外郡長一名ニ各委員長ヲ、宇治山田市事務取扱縣屬須田松太郎ニ同市委員長ヲ、宇治山田市警察署長警視河田正通、外郡書記二名ニ委員ヲ囑託シ、前委員長二名、委員三名ノ囑ヲ解ク。千葉縣事務官鈴木邦義ニ委員副總長ヲ囑託ス。三重縣阿山郡委員栗本熊太郎、退官ノ爲解囑ス、其明治三十五年以來會務ニ從事シ、寄附誘導、年賦金徵收ニ盡力セル等、功勞尠カラザルヲ以テ、寄附行爲條款第六條ニヨリ特別會員ニ推薦シ、報功内規

第八條第四項ニ定ムル所ノ紅紐總證牌ヲ贈與ス。

年來地方ノ問題タリシ 兩宮間國道ノ新設ニ關シ、三重縣廳ハ倉田山方面ヲ開通スルニ決シ、先ヅ路線測量ニ着手ノ爲、本月九日縣屬一名本會ニ來リ、所有山林中、測量障害ノ樹木ヲ伐採スルコトアルベキ旨ヲ告グ。

十一日、徵古館建設地ノ周圍ニ設クベキ竹柵ヲ指名入札ニ附シ、宇治山田市青木治助ニ請負ヲ命ズ。

十三日、徵古館建設工事ニ關シ、奥野榮藏、松室成貞ノ二名ニ囑託書ヲ交付ス。

陸軍省ヨリ紀念ノ爲、徵古館ニ交付スベキ旨、通知ヲ受タル、日露戰役ノ戰利品兵器、左ノ如シ。

槍一、軍刀一、連發步兵銃附劍銃一、單發騎銃一、拳銃一、喇叭大小各一、太鼓一、單發步兵

銃附劍一。斧一。兩手引鋸一。鐵條一。四匙一。鶴嘴一。三吋速射野砲一。同彈藥車一。六十  
三密速射砲砲身一。五十七密射加榴發彈一。十五珊速加藥莖一。十二珊同一。七珊半同  
一。三十珊半堅銃彈一。二十八珊榴彈砲榴彈一。五十七密窠砲砲彈一。克式二十四加農  
砲彈一。連發小銃實包(彈藥、火藥、雷管等ヲ除キシモノ)十。十五珊長堅銃彈一。七珊半甲速加堅銃彈一。  
十二珊速加長榴彈一。

右兵器交付ノ通知ニ次テ現品ヲ受領セシヲ以テ、其排列ヲ室ノ内  
外ニ區別シ、室内ニ於テスベキモノハ、之ヲ假徵古館内ニ展列シ、室  
外ニ於テスベキモノハ、小舎ヲ館前ニ設ケテ之ヲ配置ス。

徵古館工事并ニ材料購入ニ關シ、急施ヲ要スル部分ヲ計查スルニ、  
金壹萬參千參百貳拾九圓貳拾四錢ヲ追加豫算トシテ、本年度内ニ  
支出セザルベカラザルモノアリ、是其提議ヲ要スルノ一也。今ヤ力  
ヲ會員募集ニ注ギ、專ラ各地ノ寄附金ヲ督勵ス、從ウテ募集費ノ支  
出ヲ節シ難ク、年度内金五百圓ヲ追加セザルベカラズト認ム、是亦

追加豫算提議ヲ要スルノ二也。内外兩宮間、國道新設ニ關スル地  
方廳ノ計畫既ニ決定シ、本會所有地豐川町地内、農業館ノ遺址方面  
ニ於テ道路ニ使用セラルベキ部分五百十九坪八合ヲ算ス、此被買  
收代金ヲ七千五百圓(一坪凡十五圓)ニ協定シ、倉田山方面ノ編入部  
分、即チ錦水橋以東ニ於ル所有地、道路敷(曩ニ三十六年本會ニ於テ  
新設セル分)八百七十二坪及山林百坪有餘ハ、三重縣ニ寄附スベキ  
條件ヲ締結セントス、宜ク共ニ評議ヲ經テ決行スベキ所ナリ。右三  
件ノ事由ヲ記シ、本月二十五日提案シテ評議員監事ノ意見ヲ詢フ、  
皆異議ナシ、提案立ロニ決ス。其道路敷ノ賣却及寄附ニ關シ、三重縣  
知事ニ提出セシ願書左ノ如シ。

改修國道敷地寄附并ニ買收願

今般第九號國道中、外宮 内宮間、路線改修御計畫相成候ニ付テハ、右潰地中、本會  
所有ノ 外宮前元農業館跡地内ニ於ル五百十九坪八合ニ對シ、金七千五百圓ニテ

御買収相成度、其他本會所有地ニシテ國道改修ニ要スル潰地ハ、寄附致度候ニ付此段奉願候也

明治三十九年十月 日

三重縣知事 有松 英 義殿

神苑會會頭男爵 花房 義 質

二十九日、地方委員部職員ニ囑託セシ者左ノ如シ。

福島縣委員副總長囑託

福島縣事務官 豐 島 愿

高知縣同 上

高知縣事務官 植木 半次郎

宮崎縣同 上

宮崎縣事務官 三橋 得三

群馬縣同 上

群馬縣事務官 飯田 盛敏

愛媛縣同 上

愛媛縣事務官 竹井 貞太郎

同 縣周桑郡委員長囑託

同縣周桑郡長 向井 倭雄

群馬縣委員囑託(各三名)

群馬縣 屬横尾雄彌外二名

十一月七日、小松宮大妃殿下、神宮御參拜アラセラル、滿岡專務理事、伺候シテ徵古館計畫圖、假徵古館、農業館、本會事務所等ノ寫眞

圖ヲ獻上シ、倉田山台覽ヲ仰ガンユトヲ奉請ス、翌八日二見浦御遊覽、賓日館ニ御休憩、越テ十日山田驛御出發アラセラル。

九日、地方委員部ニ左ノ職員ヲ囑託ス。

茨城縣事務官小田切磐太郎、同川口彦治ニ委員副總長囑託

同縣屬山口良助、外九名ニ委員囑託

同縣東茨城郡長本間正行、外郡長十三名ニ委員長囑託

水戸市助役須郷源之丞、外郡書記十三名ニ郡市委員囑託

横濱市長更迭ノ爲メ、前市長ニ對スル囑ヲ解キ、現市長三橋信方ニ委員長ヲ囑託ス。

十日、徵古館工事進行ニ從ヒ、福田技手ノ補助ヲ要スルガ爲メ、山本常雄ヲ備事務員トシ、月給參拾圓ヲ支給ス。

十三日、地方委員部ニ左ノ職員ヲ囑託ス。

鹿兒島縣事務官三宅源之助ニ委員副總長囑託



秋田縣事務官沼澤七郎ニ委員副總長囑託

山形縣事務官佐柳藤太ニ委員副總長囑託

同 縣事務官亥角仲藏ニ委員副總長囑託

十九日以降本月中ニ於ケル地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

愛知縣事務官鈴木隆ニ委員副總長囑託

群馬縣勢多郡長福田伊八、外郡市長十三名ニ委員長囑託

岐阜縣知事薄定吉ニ委員總長囑託

三重縣委員高橋力三郎ノ囑ヲ解ク、蓋退官ノ爲也、其解囑ニ當リ、三十二年以來會務ニ從事セシ功勞ニ對シ、特別會員ニ推薦シ、紅紫紐總證牌ヲ贈與ス。

神奈川縣橫濱市平沼專藏、金千參百圓、同市山口仙之助、金壹千圓、同市臼井儀兵衛、金五百圓、同市増田嘉兵衛、金五百圓、同市落合金次郎、金參百圓ヲ寄附ス、皆是レ多額ノ義捐、特ニ旌表スベキモノナリ、乃

テ既定ノ内規ニ基キ、總裁殿下ノ裁可ヲ仰ギテ各銀盃ヲ贈進ス。十二月八日、贈給規則第十條中、執務午後六時「トアルヲ八時ニ改メ、職員一同ニ通達ス、蓋徵古館工事中、關係職員ノ執務例シテ午後六時ヲ過ザルヲ得ズ、而シテ之ガ爲メ特ニ賄料ヲ給スルモノトセバ、其支出ヤ虛日ナカラントスルヲ以テ、之ヲ伸長シテ八時トシ、八時ヲ過ルトキ賄料ヲ支給セントスルニ在リ。

十四日、御料局度會事務所ノ照牒ニ依リ、本月五日以降本會所有山林、岡田林、外二字ノ周圍境界査定ノ爲、事務員ヲシテ實地ニ臨マシメ、此日完結ヲ告グ。

頃來、徵古館建築工事、材料漸ク聚マリ、職工人員モ亦増加ス、爲メニ工場ニ工事場取締二人ヲ置キ、其心得書十條ヲ制定シテ事ニ從ハシム、其待遇、徵、農兩館ノ守衛ニ同シ。

陸軍省交付、戦利兵器、陳列狀況視察ノ爲メ、兵器本廠長押上陸軍少將、客月下旬、倉田山ニ來過シ、野戦砲其他大砲ニ屬スル兵器掃除ノ爲メ、特ニ工手ヲ差遣センコトヲ約セラル、越テ本月十五日、陸軍砲兵大尉小倉行之ノ命ニ依リ、木工長齋藤辰次郎、人夫ヲ率キ來リ、手工ヲ加フルコト三日間、掃除全ク了ル。

本月中、地方委員部職員ノ囑託并ニ解囑左ノ如シ。

秋田縣知事下岡忠治ニ委員總長囑託

但前任清野知事轉任ノ爲メ解囑

山梨縣屬岡田純夫ニ委員囑託

高知縣香川郡長森下直樹、外郡長一名ニ委員長囑託

前任吾川郡委員長、和歌山委員各一名解囑

北海道廳長官河島醇ニ委員總長囑託

福岡縣知事寺原長輝ニ委員總長囑託

茨城縣知事大塚貢ニ委員總長囑託

栃木縣知事中山巳代藏ニ委員總長囑託

但前任福岡縣、北海道廳、茨城縣、栃木縣ノ委員總長四名解囑

本月下旬、專務理事、書記、備員、囑託員以下一般事務員并ニ小使ニ對シ歲末ノ賞ヲ行フコト各差アリ。

明治四十年一月一日、新年拜賀式ヲ行ヒ、神樂ヲ 内宮ニ奉奏シ、翌二日之ヲ 外宮ニ奉奏スルコト例ノ如シ。

十六日、帝國海軍協會理事長、男爵有地品之允來訪ス、次デ二十五日、書ヲ寄テ曰ク、本年四月津市ニ於テ第九回關西府縣聯合共進會ノ開設ヲ待テ、我協會亦聯合府縣大會ヲ同地ニ開カントス、參列會員中、徵古、農業二館ノ觀覽ヲ希フ者多シ、我協會會規ニ據リ授クル所ノ徽章アリ、願ハクハ之ヲ佩ブ者ニ對シ無料拜觀ノ特典ヲ與ヘラレシメトテ請フト、本會即チ其請ニ應ズ。

二十八日、地方委員部職員ニ囑託セシ者左ノ如シ。

福島縣信夫郡長野村勝三外一市長、十四郡長ニ各委員長囑託。

二十九日、本會所有山林凡百七十町(内宮ノ風致ヲ擁護セル丸山、琴ヶ岡、岡田林)ハ御料山林ニ編セラレシユトヲ欲シ、客年九月宮内大臣ニ具情出願セシ所之ニ附スルニ評議員會ノ決議書ヲ以テスルヲ要ス、今即チ案ヲ發シテ各員ノ意見ヲ徵シ、之ヲ御料局ニ提出ス。二月七日、陸軍兵器本廠出張員小倉砲兵大尉ノ送致ニ係ル戦利兵器十三種ヲ受領シ、之ヲ假徵古館ニ陳列ス、蓋 内宮ニ奉獻ノ内、火砲屬品ヲ本會ニ寄セラル、モノナリ、其品目左ノ如シ。

- 一 戦利二十四珊米、加農送彈車
- 一 同 裝彈管
- 一 同 裝藥囊
- 一 同 洗桿

- 一 同 洗桿接續桿
- 一 同 撞桿
- 一 同 表尺
- 一 同 塞銀
- 一 同 駐退管用塞銀
- 一 同 門管螺輪
- 一 同 信管螺輪
- 一 同 火門軸
- 一 戦利二十三珊米、加農洗桿

八日、神宮奉齋會ニ對シ、雙互間協約履行ヲ三十九年度ニ限止スルノ旨ヲ領シ、從テ之ニ伴フ所ノ待遇條件ヲ停止スベキ旨ヲ覆牒ス。是ヨリ先キ、客月十五日、同會會長藤岡好古ヨリ照牒ノ要ニ曰ク、第一、我會贊成員ニ對シ、常ニ賓日館、農業館無料觀覽ノ待遇ヲ與ヘラ

ルベキ事、第二、明治三十八年以降貴會ニ寄ルニ毎年金壹千圓ヲ以テスベキ事、此二項ハ會テ貴我ノ妥協ヲ經ル所ナリ、然レドモ我將ニ明治四十四年ヲ期シテ、麻曆頒布ノ事務ヲ神部署ニ還附セントス。今ヤ巨額ノ債務ヲ消却整理セザルベカラザルニ處シ、又貴會ニ寄金スルノ餘地ヲ存セズ、是レ協約履行ヲ三十九年度ニ停止スルノ已ムベカラザル所以、乞フ之ヲ諒セヨト。本會即チ同會ノ運命茲ニ至レルヲ諒トシ、明治四十年三月末日ヲ以テ協約履行ノ終尾トスルコトヲ承認ス。

二十五日、地方委員部職員組成ノ爲メ、神奈川縣高座郡長宗眞彦ニ委員長ヲ、同縣屬福田正躬ニ委員ヲ囑託シ、福井縣事務官昌谷彰、轉任ニ依リ、其委員副總長ヲ解囑ス。

曩ニ出願セシ所有山林百六十九町五反餘歩ニ對シ、御料山林ニ買

收ノ件ヲ聽許セラレ、三月五日、宮内省内藏寮ヨリ其地代金ヲ回附セラル。次デ十四日、御料局度會事務所長齋藤傳五郎ニ對シテ現地ノ引渡ヲ了シ、又從來契約ヲ交セル借地人七十六名ニ對シ、自今御料地ニ屬セシ旨ヲ通知ス。

頃來、明治三十九年度歳入出決算書、財産目錄、會務成績書等ヲ調製シテ評議員會ニ提出シ、既ニ監事ノ検査ヲ了セリ、乃チ會員ニ報告センガ爲メ、昨十三日、東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞社ニ送ルニ會務成績書、會計決算書ヲ以テシ、之ガ掲載ヲ托ス。

## 明治三十九年中神苑會會務成績

明治三十九年二月、本會評議員會ヲ開キ、三十九年度歳入歳出豫算并ニ職務權限改正案及地所買收案、其他寄附金募集ノ件ヲ議決シ、同六月評議員會ヲ開キ、徵古館建築費豫算金拾七萬貳千九百八拾圓貳拾錢ヲ決定ス、九月上旬工事ニ着手セリ、又金參百圓以上ノ寄附者ニ銀盃贈與ノ件ヲ議決シ、神奈川縣ニ於テ新入會者及會員追

加寄附申込金六千九百圓以上ニ及ビタリ、前記ノ外、本年度中ニ於テ、陸軍省ヨリ紀念トシテ本會徵古館へ戦利兵器三十三品ヲ交付セラレ、之ヲ同館内及同館構内ニ陳列ス、又蠶蛆被害ノ模型ヲ購入シ、之ヲ農業館ニ陳列シ、公衆ノ觀覽ニ供セリ、其他本會歴史編纂ノ業務ニ従事シ、又三重縣ニ於テ、神宮ニ通ズル國道改修ノ計畫アルヲ以テ、本會所有地ヲ同縣ニ寄附及買收願ヲ提出シ、又本會所有岡田林外二字ノ山林ヲ御料ニ買上ノ願書ヲ提出シタリ

明治三十九年度會計決算書

一前年度ヨリ繰越金	二五、〇八四〇七一
一歳入	一四、六〇八、四四五
内	
神宮司應補助金	一〇、〇〇〇、〇〇〇
寄附	一、七三一、二九〇
事業收入	八四七〇一五
事務所雜入	二、二五五

資財收益

雜收

繰越金及歳入合計

一歳出

内

  奠供費

  宮域整理費

  興業費

  事業維持費

  事務費

  會員費

  雜出

一次年度へ繰越金

右神苑會會員諸君ニ報告ス

資財收益	一、九八七、三六〇
雜收	四〇五、二二五
繰越金及歳入合計	三九、六九二、五一一
一歳出	一二、〇一三、七一一
内	
奠供費	二〇〇、〇〇〇
宮域整理費	三五、七一〇
興業費	五、三六二、〇一六
事業維持費	二、二六一、八六八
事務費	一、九八六、七七八
會員費	一、九九〇、〇四〇
雜出	三五、九〇〇
一次年度へ繰越金	二七、六七八、八〇四

明治四十年三月

神 苑 會

第九回關西府縣聯合共進會、將ニ四月一日ヲ以テ津市ニ開カレン  
 トス、其開會ノ日、各府縣知事ノ臨場ヲ好機トシ、宜ク之ニ對スル待  
 遇ノ準備ナカルベカラズ。今ヤ開期ニ接近セシヲ以テ、三月十八日、  
 二府十九縣ノ知事ニ左ノ信書ヲ發送ス。

拜啓時下御清程奉賀候、陳者、客年四月御東上之際、本會徵古館建築ニ關シ、竣功ノ時  
 期并ニ工費ノ概算等、親敷申述、最早最終ノ寄附ニ付、譯テ煩御精配、殊ニ又、其節 總  
 裁殿下ノ御令旨ヲ忝シ、御一同謹テ御請申上候次第ニテ、爾來豫期ノ通り建築工事  
 モ着々進行仕、材料ノ蒐集既成ノ實況其他 兩宮神苑ノ開成等、實地ニ就キ御一覽  
 被下候半バ、洵ニ本懐ノ至ニ奉存候、幸ニ來月ヨリ三重縣津市ニ共進會開設ニ付、御  
 臨場ノ前後、兩宮御參拜ニ可相成ト奉存候間、御參拜ノ御豫定日時等、本會事務所  
 へ豫メ御一報被下候ハ、諸事御都合可申上様申聞置候間、宜御合置被下度、御管下  
 各郡市長諸氏ニモ、同様御通知相煩シ度、此段豫テ御依頼迄如斯ニ御座候 敬具

明治四十年三月十八日

會頭 樽 氏 名

京都府大阪府、靜岡、愛知、滋賀、奈良、福井、鳥取、島根、岡山、廣島、山口、和歌山、徳島、香川、岐阜、  
 高知、愛媛、石川、富山、兵庫、縣知事宛

本月、地方委員部職員ヲ囑託セシモノ、左ノ如シ

栃木縣事務官阿部龜彦ニ委員副總長ヲ囑託シ、同縣足利郡長中森茂八、外六郡長、一  
 市長ニ各委員長ヲ囑託ス

四月二日、本會評議員安江孝、其母ノ訃ヲ告グ、因テ内規ニ從ヒ弔詞  
 及玉串料(貳圓)ヲ贈ル、弔詞左ノ如シ。

尊慈堂ノ凶訃ニ接シ洵ニ哀悼ニ堪ヘズ、茲ニ弔詞ヲ呈ス

明治四十年四月二日

神苑會會頭正三位勳一等男爵 花 房 義 質

神苑會評議員從六位勳六等 安江孝殿

四日、神宮補助金、其下付命令條件第一條第三項ニ據リ、定額金壹萬  
 四千參百圓ニ金九千圓ヲ増額シ、合計金貳萬參千參百圓ヲ交付ス

ベキ旨、大宮司代理少宮司桑原芳樹ノ通牒ニ接シ、越テ六日、之ヲ受領ス。

神宮奉齋會ノ本會ニ於ル、客月末日ヲ限リテ既ニ協定條件ヲ解キ、本月以後、特別贊成員ヲシテ、本會ノ施設即チ賓日館、農業館等ノ無料觀覽ヲ遂ゲシムルコト能ハズ、是ニ於テ同會ハ從來規定ノ條則ニ牴牾ヲ來スヲ憂ヒ、其參觀者ヲシテ符ヲ携ヘ到ラシメ、毎月符數ヲ計シテ料金ヲ辨ズベキノ便法ニ據ランコトヲ請フ。本會之ヲ首肯シ、自今其方法ヲ以テ料金徵收ノ事ヲ實行ス。

十五日、地方委員部職員ニ囑託セシ者左ノ如シ。

高知縣屬二名ニ委員ヲ囑託ス

香川縣小豆郡長細谷關雄ニ委員長ヲ、同郡書記一名ニ委員ヲ囑託

愛媛縣屬一名ニ委員囑託

埼玉縣事務官大城戸宗重ニ委員副總長ヲ、同縣比企郡長坂本與惣次郎、外郡長一名

ニ委員長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ囑託ス

二十八日、關西共進會觀覽ノ爲メ、津市ニ來會セル東京各新聞社員并ニ通信員ノ團體ヲ迎ヘテ之ヲ款待ス。其參着ニ先ダテ滿岡專務理事ハ阿漕驛ニ出デ、之ヲ導キ、太田理事、宇仁田監事等ハ山田驛ニ其來着ヲ迎フ。一行直チニ 外宮參拜ヲ了スルヤ之ヲ倉田山ニ導キ、農業館、假徵古館及徵古館建築工場ヲ示シ、又撤下御物拜觀ノ便ヲ與ヘ、次デ本會事務所ニ於テ設立趣意書、條款、會務成績書等ヲ頒チ午餐ヲ饗ス、餐後、紀念ノ爲メ撮影シ、内宮ニ參拜、神樂奉奏ノ後、伊勢電氣鐵道會社ノ優遇ニ係ル特別電車ヲ以テ二見浦ニ至リ、賓日館ニ小憩、再ビ電車ヲ以テ山田ニ歸リ、市内八日市場町與可樓ニ招待ノ宴ヲ開キ、賓主各歡ヲ交ス、其夜一泊、翌日皆歸途ニ就ケリ。

二十九日、內務大臣原敬、本會ヲ巡視ス。是ヨリ先キ、周布副會頭ノ電

報ニヨリ、此日午前十時三十分、同大臣ノ山田驛ニ着セラシ、ナ豫知シ、滿岡專務理事茲ニ逢迎ス、午後 外宮參拜ヲ了シ、神苑ノ實況ヲ視、倉田山ニ至リ、本會事務所ニ於テ、太田理事陳ル所ノ事歴ヲ聽キ、神苑圖誌并ニ各府縣寄附成績表等ヲ展閱セラル、次テ農、徵二館及建築工場ヲ一覽ス。翌三十日、内宮參拜、神苑地巡覽ニ際シ、滿岡專務理事、苑地對岸ニ聳ユル風致林ノ來歴ヲ陳ブ、隨行高橋祕書官、深ク本會事蹟ノ整然トシテ秩序アルヲ稱シ、以テ豫想外ノ實績トナセリ、既ニシテ大臣巡視ヲ了シ、午後四時二十七分、山田驛發車ヲ以テ歸東ス。

五月十日、總裁殿下、近日津市ニ於ル帝國海軍協會大會ニ台臨ノ後、將ニ本會ニ台臨アラセラレントス、宜ク豫メ準備スル所ナカルベカラズ。此日、花房會頭并ニ隨行三橋委員、先ヅ東京ヲ發シ、午後九時五十分、山田驛ニ着シ、直ニ旅館尾上町十五樓ニ投ズ。

翌十一日、花房會頭倉田山ニ至リ、事務所内ノ準備ヲ指揮シ、理事監事ヲ會シテ奉迎并ニ接待ノ次第ヲ定ム。

越テ十三日、總裁威仁親王殿下、倉田山ニ台臨アラセラレ、謁ヲ會員ニ賜ヒ、徵古館ノ礎式ヲ行ハセ給フ。

此日、殿下ニハ午前十時三十分、山田驛ニ御着アラセラレ、伊藤別當、布目御附武官、池田家從、有地海軍中將、尾形海軍少將、成川海軍少將、八田海軍大佐、有松三重縣知事等之ニ隨ヘリ、花房會頭、滿岡專務理事、宇仁田監事、啟字證會員、地方高等官、宇治山田市長、市參事會員、市會議員等、停車場ニ奉迎ス、特等室ニ御小憩ノ後、御持越ノ腕車ニ召レ、兩宮御參拜、午後零時十五分、倉田山ニ御着、本會事務所内ニ於テ主厨調理ノ午餐ヲ聞食サル、花房會頭、田中理事、其席ニ陪ス、別



當以下隨員及三室戸大宮司、有松知事等ハ御次ノ間ニ於テ、縣高等官、郡市長、警視等ハ事務室ニ於テ、啟字章會員、市會議員等ハ農業館内ノ一部ニ於テ、各本會調進スル所ノ行厨ヲ開キ、餐後事務室ヲ以テ拜謁ノ室ニ充テ、一同茲ニ整列ス、殿下乃チ花房會頭ノ先導ニ室内ニ臨マセ給ヒ、謁ヲ一同ニ賜フ、會頭、名簿ヲ展シ諸員ノ氏名ヲ言上ス、殿下賜フニ令旨ヲ以テセラル。

諸子、多年神苑會ノ爲メ盡力サレ、着々事業進運ノ實況ヲ視ル、洵ニ欣喜ノ至ナリ、今ヤ最終ノ事業トシテ徵古館ヲ經始ス、諸子、益奮テ其完成ヲ期スルアラシキト望ム。

右令旨ヲ拜シ一同敬禮ス、既ニシテ殿下別室ニ復シ御小憩アラセラル、午後一時三十五分、會頭ノ先導ニ撤下御物陳列所ニ成セラレ、次デ徵古館建築工場ニ於テ會頭并ニ工事囑託員福田安三郎ノ

説明ヲ聞シ召ル、ヤ、御手カラ基礎ヲ奠メ給フ、基礎式茲ニ了リ、次デ假徵古館、戰利品、農業館等台覽、午後二時四十分農業館御發、三時二分山田驛發車ヲ以テ津驛ニ向ハセラル、會頭及田中理事之ニ扈後ス、此日謁ヲ賜ハリシ啟字章會員十二名、市會議員十九名トス。二十日、農業館監督理事田中芳男、提案シテ曰ク、農業館内、列品愈増加ニ伴ヒ區域愈狹隘ヲ告ゲ、現ニ其陳列ニ窮スル者少シトセズ、就中本館移轉改築以來、館内ノ一部ニ收容陳列セル工藝品ニ至テハ、本會經費ノ點ニ於テ之ガ發展ヲ企圖スル能ハズ、時世ノ進歩ト相背馳スルノ状態ニ處セリ、故ニ現在品中、其性質本館陳列ニ編スベキモノト徵古館陳列ニ編スベキモノトヲ甄別シ、又其列品トナスノ價值ナキモノハ、此際之ヲ撤シテ別ニ保存ノ方法ヲ施シ、單ニ本館ノ陳列ニ適セルモノヲ擇ビテ館内ノ一部ニ存置セバ、所謂工藝

品タルノ名目ニ於テ敢テ從前ニ異ナルコトナク、而シテ農業品類ノ區畫之ガ爲ニ幾分ノ伸張ヲ來シ、陳列其宜キヲ制スベク、一舉兩得ノ策タルヲ信ズト、即チ其提議ヲ裁決シテ之ガ整理ヲ托シ、其排除物品ノ處分ハ他日詮議ニ附スルモノトス。

二十一日、農商務大臣松岡康毅、神宮參拜ヲ了シ、隨員赤星祕書官、小野田香川縣知事等ト共ニ倉田山ヲ歴覽ス、本會農業館内ニ休憩所ヲ設ケテ之ヲ請シ、滿岡專務理事ハ事歴并ニ徵古館建築圖ヲ説明シ、田中理事ハ農業館内ノ列品ニ就キ説明ス、同大臣、旅館五二會館ニ午餐ヲ了シ、午後一時五十三分歸程ニ就ケリ、滿岡理事送リテ山田驛ニ至ル。

本月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

熊本縣事務官石川啓ニ委員副總長ヲ同縣屬一名ニ委員ヲ囑託ス

神奈川縣管内郡長交迭ノ爲メ、其前任六名ノ囑ヲ解キ、更ニ久良岐郡長伊藤金治郎、外郡長五名ニ各委員長ヲ囑託ス

三重縣管内郡長交迭ノ爲メ、其前任二名ノ囑ヲ解キ、更ニ安濃郡長岩田龜松、外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ、又新ニ選任就職ヲ告タル宇治山田市長北川矩一ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

六月十一日、徵古館ニ展列スベキ海軍戰利品ノ交付ニ關シ、神宮大宮司三室戸子爵ヨリ其品目ノ移牒ニ接ス。蓋陸軍海軍兩大臣ニ對スル本會ノ出願ハ昨年一月ニ屬シ、既ニ陸軍省ノ交付ヲ受クルアリト雖モ、未ダ海軍省ノ沙汰ニ接セズ、佇望久シキニ及ブ所ナリキ、今ヤ神宮司廳ヲ經テ交付ノ品目判明スルニ至ル、乃チ陸海併セ得タルヲ贊セズンバ、アラザルナリ。神宮司廳ノ通牒左ノ如シ。

明治三十七八年役ノ戰利品ヲ貴會徵古館ニ展列シ、衆庶ノ觀覽ヲ許シ、度御希望ノ趣、豫テ御交渉ノ次第モ有之、乃チ其筋ヘ申立置候處、今般別記ノ通、海軍ヨリ神宮ニ

奉獻相成候ニ付右物品保管ノ爲メ可及引渡候條便宜受取方御申出有之度此段申進候也

明治四十年六月十一日

神宮大宮司子爵 三室戸和光

神苑會會頭男爵 花房 義 質殿

(別記)

伊勢大廟へ展列スベキ物件

(横須賀工廠ヨリ)

露式十二尹砲鋼鐵榴彈(ニコウライモノ一世)

一 個

露式六尹砲鋼鐵榴彈(リライモノ一世)

一 個

露式十五尹魚形水雷發射管(ホビエダモノ一世)

一 門

(吳工廠ヨリ)

露式機械水雷鐘(球形ノモノ)

一 個

(佐世保工廠ヨリ)

露式十尹砲片鐵榴彈

二 個

露式十五珊速射砲彈丸(ニコウライモノ一世)

一 個

露式十二珊速射砲被帽徹甲榴彈(セニヤブモノ一世)

一 個

同

鍛鋼榴彈

同

一 個

同

通常榴彈

同

一 個

露式十二珊速射砲榴彈(セニヤブモノ一世)

一 個

露式七十五ミリ速射砲鋼鐵榴彈(マンチユリモノ一世)

一 個

同

通常榴彈

同

一 個

同

榴彈

(リソテリモノ一世)

一 個

露式魚形水雷十五尹

二 個

(舞鶴工廠ヨリ)

露式電氣機械水雷鐘斷頂圓錐形

一 個

鐵 板(砲彈ノ爲メ破壊)

三 枚

通風筒(少許ノ彈痕)

一 個

以上

二十日、徵古館工事囑託員福田安三郎、同備員山本常雄ノ二名ニ、本年度上半期ノ慰勞金ヲ給ス。

片山工學博士昨日ヲ以テ到ル、詰朝、倉田山ニ於ル徵古館工事ノ現狀ヲ檢シ、福田囑託員ニ指揮スルニ將來ノ順序ヲ以テス。當時本會構内ノ道路ヲ定ムベキノ要アリ、然レドモ改修國道ノ設計ニ照スニ非レバ之ガ關聯ヲ制スベカラズ。茲ニ於テ三重縣吏員一名ノ出張ヲ請ヒ、先ヅ國道ノ狀況ヲ究メ次デ造苑井ニ館舎ノ配置等ニ鑒ミ、以テ適應ノ考案ヲ立テント欲シ、福田囑託員ヲシテ圖ヲ模セシム。此夕、五二會館ニ三室戸評議員、桑原理事、太田理事、滿岡專務理事、宇仁田監事、齋藤御料局技師、福田囑託員、佐々木縣吏、本會事務員等ト會同シテ工事ヲ協議シ、翌二十一日夕、歸途ニ就ク。本月一日以降、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

福岡縣宗像郡長岡村雪三郎、外郡長八名、市長四名ニ委員長ヲ囑託シ、其轉任或ハ退官ニ依ル前任者八名ノ囑ヲ解ク

佐賀縣事務官河井彌八ニ委員副總長ヲ、小城郡長萩原善太郎、外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ、其轉任ニ依ル前任者二名ノ囑ヲ解ク

福岡縣事務官山田揆一ニ委員副總長ヲ、同縣屬二名ニ委員ヲ囑託ス

群馬縣利根郡長直井三郎ニ委員長囑託

山梨縣委員總長ノ稟請ニ依リ、甲府市ニ委員二十名、西山梨郡ニ委員八名、東山梨郡ニ委員四十名、南都留郡ニ委員二十六名、北巨摩郡ニ委員四十四名ヲ囑託ス

七月五日、客月通牒ヲ受タル海軍戰利品、既ニ受領ヲ了セシヲ以テ神宮司廳ニ對シ保管證ヲ提出ス。

十七日、農業館管守横地幸重ノ辭職ヲ聽シ、贈給規則第四條規定ノ勤勞金ヲ給ス。

頃來、國道改修ノ施工正ニ關ハニシテ、工夫等ノ倉田山邊ニ來往勞

働スル者漸ク加ハリ、本會ノ工事最モ火警ヲ要スルニ至ル、即チ喫  
烟ニ注意セシムルモ尙危険ヲ慮リ、物置小屋ニ對シテ火災保險ヲ  
締約ス。

本月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

滋賀縣事務官折原巳一郎ニ委員副總長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ、滋賀郡長林田民次  
郎、外郡長三名ニ委員長ヲ囑託シ、前任委員長五名ノ囑ヲ解ク

福井縣吉田郡長若松喬ニ委員長囑託

長野縣事務官立花俊吉、內務部長岡田宇之助ニ委員副總長ヲ、同縣屬四名ニ委員ヲ、  
南佐久郡長本山純信、外郡長十五名、市長二名ニ委員長ヲ、各郡市書記三十四名ニ委  
員ヲ囑託ス

福島縣福島市長二宮哲二、安積郡長池上安正ニ委員長ヲ囑託シ、前任委員長一名ノ  
囑ヲ解ク

千葉縣事務官補中山保明、外縣屬二名ニ委員ヲ、千葉郡長神田清治、外郡長十一名ニ

委員長ヲ囑託ス

九月十一日、市内大字豐川町ニ於ル本會用地ハ會テ事務所及農業  
館ヲ設置セシ所ナリ、其遺址并ニ空地ヲ併セテ面積凡三千坪、今ヤ  
既ニ不用ノ地ニ屬シ、之ヲ希望者ニ賣却スルニ決ス、内四百坪ハ山  
田郵便局新築用地トシテ遞信省ニ買上ラレ、此日山田郵便局ノ通  
知ニ接シ、其代金壹萬圓ヲ受領ス。

十二日、監事波多野執行、逝去ノ訃ニ接シ、規程ニ依リ弔詞并ニ玉串  
料(參圓)ヲ贈呈ス。

十七日、理事會ヲ事務所ニ開ク、理事田中、桑原、太田、滿岡及監事宇仁  
田等之ニ出席シ、豐川町用地ニ於ル樹木ノ處分、不用器物ノ賣却方  
法、電燈ノ位置、夜警場新設ノ件等ヲ協議ス。

本會會頭男爵花房義質勳功ニ依リ子爵ヲ授ケラル、二十五日、滿岡

專務理事以下事務員、謹テ賀ヲ花房會頭ニ表ス。  
本會會員待遇ノ爲メ、會テ關西、參宮兩鐵道會社ニ交渉シ、會員證牌  
佩用ノ參宮者ニ對スル乘車賃割引ノ承認ヲ得、之ヲ實行スルモ以  
久シ、今ヤ兩鐵道線既ニ國有ニ決シ、來十月一日以後、官線ニ編入セ  
ラレントス、官線又此特例ヲ襲用スルヤ否ヤヲ知ラズ、乃チ須ラク  
當局ニ請フ所ナカルベカラズトシ、九月二十二日、書ヲ鐵道廳總裁  
ニ呈ス、越テ二十七日、答書到ル、曰ク特例ヲ繼承シ期スルニ四十一  
年三月末日ヲ以テスベシト。茲ニ於テ各地會員ヲシテ疑惑ナカラ  
シメントトテ欲シ、縣下發行ノ各新聞紙ヲ以テ、前例繼續許可ノ旨  
ヲ報告ス。

二十七日、韓國統監伊藤博文公、神宮ニ參拜シ韓國協約ノ成立ヲ  
奉告セラル、田中理事、本會ヲ代表シ山田驛ニ迎送ス。

十月五日、理事會ヲ事務所ニ開キ、賓日館備品賣却順序、農業館管守  
採用及會務數件ヲ協議ス。

十五日、徵古館建築工事囑託員福田安三郎、同事傭員山本常雄ノ  
月俸各五圓ヲ増給シ、本會事務員并ニ兩館管守、守衛、小使等ニ至ル  
全員ニ對シ、各増給ノ辭令ヲ交付ス。

二十三日、徵古館工事現況點檢ノ爲メ、片山工學博士來リテ實地ヲ  
檢シ、理事、監事等ト協議スル所アリ、二十四日夕歸途ニ就ク。

二十九日、高橋友雄(山田市人)ヲ農業館管守ニ補シ、其辭令ヲ交付ス。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

三重縣事務官交迭ノ爲メ前任者ノ囑ヲ解キ、更ニ事務官高橋要治郎ニ委員副總長  
ヲ囑託ス

福岡縣管内郡長交迭ノ爲メ前任者七名ノ囑ヲ解キ、更ニ早良郡長川島澄之助、外郡  
長五名ニ委員長ヲ、縣屬一名ニ委員ヲ囑託ス

福島縣事務官藤堂要藏ニ委員副總長ヲ、河沼郡長熊川詳長、外郡長二名ニ委員長ヲ囑託シ、前任者四名ノ囑ヲ解ク

青森縣事務官小原新三ニ委員副總長ヲ、弘前市長小山内鐵彌、外郡長五名ニ委員長ヲ、同縣事務官永田龜作外二名ニ委員ヲ、南津輕郡書記一名ニ委員ヲ囑託シ、轉任若クハ退職ニ依ル前任者七名ヲ解囑ス

十一月一日、帝室博物館總長股野琢、神宮參拜ノ後、倉田山ヲ巡覽ス、理事田中、太田、滿岡、監事宇仁田等、事務所ニ會見シ、徵古館列品ニ關シテ詢ル所アリ、翌日、滿岡理事、二見浦賓日館ニ午餐ヲ饗シ、歸途ヲ送リテ山田驛ニ分袂ス。

十六日、事務所ニ理事會ヲ開キ、四十一年度經費豫算ヲ調査シ、併セテ會務ノ要件ヲ協議ス。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

山梨縣事務官交迭ノ爲メ、其前任者ノ囑ヲ解キ、更ニ事務官入江貫一ニ委員副總長

ヲ囑託ス

福井縣福井市長交迭ノ爲メ、其前任者ノ囑ヲ解キ、後任市長山品捨録ニ委員長ヲ囑託ス

群馬縣知事交迭ノ爲、其前任者ノ囑ヲ解キ、後任知事南部光臣ニ委員總長ヲ囑託ス、新潟縣事務官林市藏ニ委員副總長ヲ、同事務官林俊太郎、外縣屬一名ニ委員ヲ、北蒲原郡長清水中四郎、外郡長及長岡市長子爵牧野忠篤ニ委員長ヲ囑託シ、轉任又ハ退職ニ依ル前任者十五名ノ囑ヲ解ク

十二月二日、本會所有豊川町用地ニ存在セル土堀七十間、既ニ不用ニ屬セリ、倉田山、神宮撤下御物拜觀所ノ外堀ニ適セルヲ以テ、之ヲ神宮司廳ニ寄附シ、此日同廳員及本會書記立會、現品ノ授受ヲ了ス。

十七日、神奈川縣委員總長ノ稟請ニ係ル多額寄附者四名ニ對シテ、銀盃贈與ノ件ヲ言上シ、總裁殿下ノ裁決ヲ經タリ、贈與セララル、

者左ノ如シ。

寄附金五百圓	神奈川縣	岡野欣之助
同 金參百圓	同 縣	鈴木善右衛門
同 金參百圓	同 縣	松阪萬右衛門
同 金參百圓	同 縣	川邊儀三郎

二十五日、評議員會ヲ東京ニ開キ、來四十一年度歳入出豫算ヲ評決シ、併セテ有功者委員齋藤傳五郎ニ對スル銀盃贈與ノ件ヲ議シ、總裁殿下ノ裁決ヲ經タリ。

評議員ノ任期將ニ本年十二月二十一日ヲ以テ滿了ヲ告ントス。會頭乃チ其滿期ニ先ダテ、本月二十二日、之ガ選定ニ關シテ 總裁殿下ノ裁決ヲ仰ギ、其重任ヲ裁認セラル。

右評議員既ニ重任ニ決セシヲ以テ、本月二十五日ノ會合ニ際シ、理事及專務員ヲ互選ス、飯田巽、辭任以來現員六名、皆重任シ、小松原英

太郎新ニ當選シテ七名ノ總員ヲ得、内、專務員一名、滿岡勇之助重任セリ。即チ直チニ 總裁殿下ノ裁認ヲ仰ギ、茲ニ理事并ニ專務員ノ選任ヲ了ス。

二十九日、徵古館建築工事囑託員福田安三郎、同備員山本常雄ニ、四十年度下半年慰勞金ヲ支給ス。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

香川縣事務官渡邊勝三郎ニ委員副總長、三豐郡長鶴田正義、外郡長三名ニ委員長ヲ囑託シ、轉任又ハ退官ニ依ル前任者五名ノ囑ヲ解ク

三重縣津市長内多正雄ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

廣島縣屬一名ニ委員ヲ、廣島市長高東康一、外市長二名、郡長十二名ニ委員長ヲ、市助役及郡書記三十八名ニ委員ヲ囑託シ、轉任又ハ退官ニ依ル委員長十三名ノ囑ヲ解ク

明治四十一年一月一日、新年拜賀式ヲ行ヒ、午前十時 内宮ニ大々



神樂ヲ奉奏ス。

二日、周布副會頭來リテ 神宮ヲ拜シ、留ルユト二日、倉田山ノ工事ヲ視察ス。

帝室林野管理局名古屋支廳技師齋藤傳五郎(元御料局度會事務所長)本會委員トシテ力ヲ盡ス茲ニ年アリ、今ヤ同局青森支廳ニ轉シ將ニ赴任セントス、本會其功勞ニ對シ銀盃贈進ノ議ヲ決シ、本月三日謝狀ト俱ニ銀盃一組ヲ贈ル。

四日、書記箕曲茂七ヲ部理代人トシ、理事七名當選就任ノ登記ヲ申請シ、即日之ヲ了セリ。

神奈川縣委員總長ノ報告ニ依ル多額寄附者左ノ二名ニ對シ、報功内規ニ基キ銀盃贈進ノ件ヲ稟申シ、總裁殿下ノ裁決ヲ仰ギ之ヲ執行ス。

寄附金參百圓  
同 金參百圓

神奈川縣 從三位 周 布 公 平  
同 縣 福 住 九 藏

農業館列品整理監督ノ爲メ、田中理事本月九日以來滞在從事、十五日朝歸京ス。

十六日、片山技監來リテ徵古館工事ノ現況ヲ檢シ、翌日午後六時歸途ニ就ク。

十八日、日本赤十字社副社長、男爵小澤武雄來リテ倉田山ヲ巡覽ス。本會委員玉井修眞會テ事務委員トシテ勤務數年ニ亙ル、今其計ニ接シ、規定ノ弔詞ニ添ルニ特ニ玉串料(貳圓)ヲ以テス。

徵古館建築工事ニ關シ最モ花崗石ノ需用ヲ要ス、其適材、產地備中國北木島ニ在リ、而シテ道程遠隔、海運日子ヲ費シ或ハ納期ヲ誤ラシムトナ慮リ、本月二十一日、特ニ工事備員山本常雄ヲ產地ニ差遣ス。

二十五日、男爵三井八郎右衛門ヨリ、三井家一族ヲ代表シ、金壹萬圓寄附ノ申込書ニ接ス、同家ハ我國富豪ノ最タリ、而シテ本會未ダ深ク其贊襄ヲ得ルニ至ラズ、本會理事太田小三郎、嘗テ同家ニ事ヲ宰スル者ト縁故アルヲ幸トシ、上京シテ懇懇スル所アリ、事乃テ決ス、如斯巨額ノ義捐ヲ得タルヲ以テ會頭ハ特ニ其成績ヲ 總裁殿下ニ言上セリ。

二月十五日、本會創立功勞者、即チ旼字證牌會員西田七左衛門ノ死亡ニ對シ、内規ニ依リ弔詞并ニ玉串料(貳圓)ヲ贈ル。

本會會員(參宮者)ニ對スル鐵道乘車賃割引ノ特例ハ、本年三月末日ヲ期限トスル所ナリ、若夫四月以降此特例ニ依ルヲ得ザラン乎、獨リ會員待遇規定ノ改正ヲ要スベキノミナラズ、募集勸誘ノ效果ニ影響スル所アラシトナ恐ル、是レ一月十五日情ヲ具シテ帝國鐵

道廳總裁ニ出願セシ所以ナリ。越テ二月十五日、同廳總裁ノ覆牒ニ接シ、來四十二年三月末日迄繼續施行ヲ認許セララル。

本月中地方委員部職員ノ囑託并解囑左ノ如シ。

廣島縣屬一名及郡書記六名ニ委員ヲ囑託ス

三重縣阿山郡書記一名退官ノ爲メ委員ノ囑ヲ解キ、更ニ一名ヲ補ス

鹿兒島縣知事阪本鈺之助、埼玉縣知事島田剛太郎、福井縣知事村純九郎ニ各委員總長ヲ囑託シ、其轉任ニ依ル前任者二名ノ囑ヲ解ク

三月二十三日、明治四十年年度歲入出決算書、同會務成績書、同財産目錄ヲ調製シ、各評議員及監事ノ承認ヲ求ム。

右承認ヲ經タル決算及成績ヲ會員ニ報告センガ爲メ、本月二十八日、前年ノ例ニ依リ東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞紙ヲ以テ之ヲ廣告ス、其文左ノ如シ。

明治四十年中 神苑會會務成績

第九編 法人第二期 明治四十一年

徴古館建築工事ハ、一月迄繼續セシモ、嚴寒ニ際シ、三月上旬迄、セメント使用ヲ中止  
 シ、側石彫刻据付等、作業上必要ノ部分ヲ進工セリ、本會所有山林反別百六十九町五  
 反十五歩ヲ御料ニ買上ラレ、代金壹萬參千五百參圓七拾五錢ノ下附アリ、四月、神宮  
 補助金貳萬參千參百圓ヲ交付セラレ、五月、本會 總裁殿下、神宮御參拜ノ後、本會  
 ニ台臨、徴古館建築御巡覽ノ上、本館ノ基礎式舉行被遊、終テ本會重役ニ御令旨アリ、  
 六月、神宮司廳ヨリ海軍戰利品保管ノ照會アリ、建造物豫算ノ件ヲ評決ス、又片山技  
 監、工事監督ノ爲メ出張アリ、將來徴古館庭園等設計ノ結果、隣地三反八畝餘歩ヲ購  
 入シ、九月、豊川町用地ノ内、四百坪ヲ遞信省ニ讓渡シ、代金壹萬圓ヲ領收セリ、又關西  
 參宮兩鐵道ハ國有ニ屬シタルヲ以テ、本會會員汽車賃割引ノ件ヲ鐵道廳ニ照會シ、  
 從前通ノ承諾ヲ得タリ、十二月ニ至リテハ、徴古館建築工事、四分通リ進歩シ、金六萬  
 參百餘圓ヲ支出セリ、而シテ評議員理事ノ任期ハ、本年滿了スベキヲ以テ、評議員會  
 ヲ開キ、渾テ重任ノ事ニ決定ス、又寄附ハ總金壹萬四千八拾壹圓六拾錢餘ナリ、是乃  
 チ本年度事務ノ概要ナリ

明治四十年會計決算

一 前年度ヨリ繰越金 二七六七八八〇四  
 一 歳入 六四四五五四二二

内

神宮司廳補助金 二二三〇〇〇〇  
 賜 金 五〇〇〇〇  
 寄 附 一四〇八一六〇〇  
 事 業 收 入 二四、二一六五七〇  
 事 務 所 雜 入 二、一五七  
 資 財 收 益 二、一九九二四〇  
 雜 收 六〇五八五五  
 繰越金及歳入合計 九二、一三四、二二六  
 一 歳出 七一、八五二、六一四

内

奠 供 費

二〇、〇〇〇

第九編 法人第二期 明治四十一年

災業費	六三、五四三・〇八三
事業維持費	一、九九一・七〇八
事務費	二、九八五・八三〇
會員費	三、二五二・〇四三
雜出	五九・九五〇
一次年度へ繰越金	二〇、二八一・六一二

右神苑會會員諸君ニ報告ス

明治四十一年三月

神苑會

本月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

長崎縣事務官秦豊助ニ委員副總長ヲ同縣屬二名ニ委員ヲ、一名ニ委員補ヲ、長崎市

長北川信從、外市長一名、郡長一名ニ各委員長ヲ囑託ス

廣島縣世良郡廣瀬自治夫、外四十八名ニ各委員ヲ囑託ス

千葉縣香取郡山中竹樹、外三十一名ニ各委員ヲ囑託ス

四月一日、徵古館建築用木材検査ノ爲メ、工匠岡野藤四郎ヲ常雇ト

シ、木工職取締ヲ命ズ、日給七拾錢。

總裁殿下王子、大勳位裁仁王殿下、江田島海軍兵學校ニ修學アラ

セラル、天資英雋、令聞世ニ高シ、何ゾ料ランニ豎尊容ヲ犯シ奉ラン

トハ、都鄙新誌相傳ヘテ國手ノ奔走ヲ報ズ、朝野忭々、舉テ平癒ヲ祈

リ奉ラザルハナシ、既ニシテ病革マリ、遂ニ薨ゼラル、本會之ヲ拜聞

シ恐悚ノ至リニ堪ヘズ、本月九日、理事、監事等謹テ弔詞ヲ家令ニ捧

ゲテ執奏ヲ請ヒ、葬儀ヲ行ハセラル、ノ日、會頭子爵花房義質、本會

ヲ代表シテ之ニ參列ス。

客月、東京市國民新聞社ニ於テ、京阪遊覽參宮團體(三百人)ヲ主催ス

ルヤ、本市參宮新報社ヲ介シ待遇ヲ懇請スル所アリ、本會其請ヲ容

レ、團體員ニ許スニ徵、農二館ノ無料觀覽ヲ以テシ、且茶菓ヲ饗ス。其

後國民社ノ謝狀ニ接セリ。

四月十五日、地方官會議ヲ機トシ、上京中ノ各府縣委員總長ヲ華族會館ニ招キ、寄附行爲ノ督勵ヲ諮ル。正副會頭及小松原評議員交々經營ノ現況并ニ方針ヲ演述シ、速カニ募金ノ完結ヲ切望スル所以ヲ説キテ各員ノ勸獎ヲ請フ、其演述ノ大意左ノ如シ。

花房會頭演說大意

内務大臣閣下ヲ始トシテ諸君ハ、事務多端ノ際ナルニモ係ラズ、本日參會ヲ辱フシタルハ實ニ感謝ノ至リニ勝ヘズ

楮本會主要ノ經營タル徵古館ノ建築工事ハ、昨年 總裁宮殿下 神宮御參拜ノ機會ヲ以テ、實地ニ臨マセラレ、親ヲ礎ヲ据サセラレ、尙厚ク御獎勵ノ御詞ヲモ賜ハリ、爾來工事ヲ急ギ豫テ本會ガ企望セル如ク、明年正遷宮ヲ期シテ其功ヲ竣ヘ、之ヲ神宮ニ獻納センコトヲ規畫シタリシガ、工事大ニ進捗シ、本年中ニ其大部ヲ完成スルコトヲ得ベキ運ビトナレリ

斯ノ如ク豫期以上ニ工事ノ進捗スルト同時ニ、費金ノ支出從テ其ノ額ヲ加フルハ、

又勢ノ止ム能ハザル所ニシテ、幸ニ本月迄ハ之ヲ支持スルコトヲ得タリト雖、今日以後其支出ニ應ズルノ資金ハ殆ンド缺乏ノ姿ヲ呈スルニ至レリ、而シテ寄附金收入ノ景況ヲ見ルニ、香川縣ハ既ニ大部分ヲ送金セラレ、神奈川縣ノ如キハ、昨年ヨリ今年ニ互リテ巨額ノ募集ヲ了シ本會ニ納付セラレタルガ、其他ノ地方ニ至リテハ未ダ募集ノ成績見ルニ足ルモノナキハ、頗ル遺憾トスル所ナレドモ、畢竟各地方ニ於テ種々多端ナリシガ爲メニ、御着手意ノ如クナラザリシ結果ナリト拜察ス、然ルニ明年ハ實ニ本會事業ヲ完結スベキ最終ニ屬シ、今日ハ多年御盡力ヲ煩ハシタル結局ノ爲メ、最後ノ御依頼ニ及バルベキ儀ナルヲ以テ、豫テハ 總裁殿下モ台臨アリテ親シク令旨ヲモ賜ルベキ思食ナリシカドモ、諸君ト共ニ哀悼ニ耐ヘザル御不幸ニ遭ハセ玉ヘルノ今日、遂ニ其儀能ハズ、然レドモ本會ガ盡スベキ最後ノ時期タルコト前述ノ次第ナルヲ以テ、殿下モ殊ニ御軫念アラセラレ、會頭ヨリ宜シク諸君ニ協議スベシトノ御事ナリ、諸君幸ニ深ク之ヲ諒セラレンコトヲ切望ス、抑本會ノ事業ニ付テハ前 總裁宮殿下ヨリ今日ニ至ルマデ、引續キ厚ク御配慮アラセラ

ル、ハ、今更ノ事ニ非ラズ、然レバ本會ハ此期ニ際シテ、諸君ト共ニ滿腔ノ熱誠ヲ以

テ幹旋盡力シ其成功ヲ上申スルハ誠ニ當然ノ義務ニシテ又 神宮ノ爲メ崇敬ノ誠ヲ盡サントスルハ日本國民タルモノ、當サニ盡スベキ本分ナルコト固ヨリ言ヲ待タザルナリ

資金ノ募集ニ關シテハ地方ニ於テ種々困難ノ事情アラント雖モ前述ノ如ク本會ノ事業ヲ遂ゲ其終ヲ完ウセントスル至要ノ時期ニ屬シ千葉、廣島、長野、福岡、新潟、茨城、長崎等諸縣ニ於テハ目下夫々御着手中ナレバ遂カラズ收結セラル、ヲ疑ハズ、其他ニ於テモ諸君ノ御盡力ヲ以テ今ヨリ着々其歩ヲ進メラレ期ニ及ビテ收結セラレンコト義實切望ノ至ニ堪ヘザルナリ

願ミレバ工ヲ起スノ時參拾餘萬圓ヲ要スルノ豫定ニ對シ之ニ應ズベキ資金ヲ有セズシテ起工シタリシニモ係ラズ宮内省又ハ逓信省ニ請願シタルコト又本會所屬不用地處分ニ付地方ニテ計畫シタルコトノ總テ奏功セル爲メ今日ニ至ル迄ハ費金支辨ニ何等ノ支障ヲ生ゼザリシハ實ニ意外ノ幸ナリ尤最初豫想セルガ如ク陳列品其他ヲ充サントセバ尙多大ノ資金ヲ要スベシト雖モ暫ク之ヲ擱キ幸ニ目下諸君ノ御盡力ニ依リテ本年內ニ拾五萬圓ヲ收金スルニ至ラバ建築全部ヲ竣成

シ之ヲ獻納スルコトヲ得ベシ其他詳細報告ヲ要スベキコト夥多ナルモ今ハ之ヲ省略シ其大體ニ止メ計算其他ニ關シテハ小松原周布兩氏ヨリ諸君ノ清聽ヲ煩ハサントス

#### 周布副會頭演說大意

本會希望ノ大體ニ關シテハ會頭ノ演說アリ又計算ニ付テハ小松原氏ヨリ報告セラレタリ私ハ本年一月 神宮ニ參拜シ建築事業ノ實況ヲ視察シタルヲ以テ之ヲ報告センニ工事ハ意外ニ進行シ居レリ仍テ其際事務員ニ命ジテ前面及左右兩側ヲ映寫セシメタリ即本日諸君ノ高覽ニ供シタルモノニシテ其進行ノ程度ハ之ニ依リ略ボ推察シ得ラルベシ其後片山博士亦實查セラレタルニ工事益々進行シ明年ヲ俟タズ或ハ本年中ニ竣功スベシト吾人ハ本會役員トシテ此ノ如ク工事ノ進行シツ、アルヲ喜ブト同時ニ之ニ要スル資金ヲ準備スルノ必要益々急ナルアリ、幸ニ今日迄ハ種々焦心竭力ノ結果之ガ缺乏ヲ告ゲザルヲ得タリト雖モ目下麻ス所僅カニ參萬圓許而シテ來五月中之ヲ支出シ了レバ復タ剩餘ナキヲ以テ其以後ノ支出ニ應ズルノ資金ナキハ實ニ憂慮ニ耐ヘザル所ナリ是ニ於テ諸君ノ一臂ニ

俟ツノ外ナキニ至レリ、私モ職ヲ地方官ニ奉ジ、如何ニ釀金事業ノ困難ナルカヲ知悉セルニモ係ラズ、尙ホ之ガ盡力ヲ諸君ニ請フハ、誠ニ心ナキニ似タリ、蓋シ地方官トシテ、依囑ヲ受ケタル事業ノ趣旨方法ニ於テハ、各相同ジカラズト雖モ、等シク釀金ノ點ニ至リテハ則チ一ナリ、其至難ナル實ニ察スルニ餘リアリ、然レドモ斷然之ヲ果サント期スルトキハ、亦必シモ不可能ノ事ニアラズ、私ハ本會ガ前述ノ如ク資金缺乏ノ境遇ニ迫レルヲ以テ、所謂脊ニ腹ハ換ヘ難キノ俚諺ノ如ク、昨年來大ニ奮發シテ寄附金ヲ募集シ、壹萬貳千餘圓ヲ本會ニ納付シタリ、今後ニ於テモ神奈川縣下ニ於テハ、爲シ得ル限り募集ニ盡スノ決心ナリ、兎ニ角、明年ニテ本會ノ事業ヲ完了シ得ルコトナレバ、私ヨリ諸君ニ御依頼スルハ心外ノ事ニ屬スレドモ、目下ノ企望額金拾五萬圓ヲ各府縣ニ割當ツルトキハ、一縣約參千餘圓ナリ、尤モ縣ノ大小又ハ既ニ募集セラレタル額ノ多少ニヨリテ斟酌アルベシト雖モ、大略此標準ヲ逸セザルヲ以テ、諸君モ爲シ得ル限りノ御配慮ヲ煩ハシ、明年ヲ期シテ本會事業ノ目的ヲ達セシメテレンコトヲ切望ノ至ニ耐ヘズ

私ハ乏キヲ本會副會頭ノ職ニ奉ジテ、以來十餘年間此事業ニ執掌セル所以ノモノハ、嘗テ 熾仁親王殿下、舞子御滯在中、特ニ公平ヲ召サセラレ、親シク本會ノ旨趣及本事業ノ完成ヲ期セラルベキ令旨ヲ示諭アラセラレタリ、公平感激措ク能ハズ、大ニ盡ス所アラシコトヲ決心セリ、當時日本赤十字事業擴張ノ急ナルニ遭ヒ、尋デニ十七八年日清戰爭起リ、兵馬倥傯ノ際、遂ニ其志ヲ果サソリシニ、適々長クモ 殿下薨去ノ不幸ニ會ス、然レドモ令旨猶耳ニ存シ、瞬時モ之ヲ忘ル、能ハザリシヲ以テ、戰後銳意會員ヲ募集シ、寄附金貳萬圓許ヲ得タル緣故ニヨリ、今猶本職ニ從事セルモ、諸君中未ダ之ヲ知ラレザル御方アラシヲ以テ、言、餘事ニ互ルノ嫌アルモ聊カ己ガ緣故ト心事トヲ告ゲテ、諸君ノ清聽ヲ煩ハセル所以ナリ、伏シテ希クハ諸君、公平ガ心事ヲ諒シ、十分ノ御配慮ヲ吝マレズ、明年ヲ以テ本會ノ事業ヲ完了セシメラレシコトヲ

## 小松原評議員報告演說大意

昨年建築起工ノ當時、其資金準備調ハザリシヲ以テ、臨時借入金ヲナシテ之ヲ處辨スル覺悟ニテ之ヲ開始シ、以テ四十一年中ニ大體ヲ竣功シ、四十二年ノ正遷宮ヲ期トシテ 神宮ニ獻納セントスル、本會ノ企望ヲ實行スルノ緒ヲ開キシガ、片山博士

ノ非常ナル盡力ニ依リ、工事着々進捗セルヲ以テ、隨テ之ガ費金ノ支出モ亦急ナリシト雖モ、幸ニ借入金ヲナサズシテ今日迄ハ之ニ應ズルヲ得タリ、蓋四十年ノ歳出ハ七萬千八百餘圓、其他ハ 神宮補助定額壹萬四千參百圓アルノミニテ、重モニ寄附金ニ依ラザルベカラザルコトナレバ、素ヨリ鞏固ナル財源ニアラズ、而モ借入金ニ依ラズシテ必要ノ經費ヲ支辨シ得タルハ、本會所有ノ岡田林、外二字ヲ御料局ニ御買上ヲ願ヒ、壹萬參千五百餘圓ノ收入ヲ得タルト、豊川町元農業館建設地ノ内四百坪ヲ郵便局敷地トシテ遞信省へ讓渡シタル爲、壹萬圓ノ收入ヲ得、且 神宮ヨリ前年補助金ノ不足額金九千圓ノ下付ヲ得タルニ因ルナリ、寄附金ノ收入ハ壹萬四千餘圓ニシテ、此内壹萬貳千圓ハ神奈川縣壹千圓ハ香川縣ノ寄附ニ係リ、此他ハ各府縣ニ於テ百圓内外位宛ニ過ギズ、四十年ノ如クニシテ幸ニ工事費ノ支出ニ應ズルヲ得タリト雖モ、今日以後ノ財計ヲ考フルニ、本年度ノ歳出豫算ハ、拾五萬貳千參百餘圓ノ豫定ニシテ、之ニ對スル歳入ヲ願ミレバ、前年度ノ繰越金貳萬餘圓ト 神宮下賜金壹萬四千參百圓ノ外ハ、確實ナル財源ナキナリ、而シテ本年度ニ於テ工事ノ大體ヲ結了シ、徵古館建築地タル倉田山ニ、多少ノ整飾ヲ加ヘテ公園狀

ニ作成シ、正遷宮ヲ期シテ之ヲ獻納スルノ順序ヲ取ラントセバ、建築ノミニテモ約拾貳萬圓ヲ要スルニ、目下之ニ對スル何等ノ收入目途ナシ、仍テ此際特ニ諸君ノ寄附金御取纏ヲ願ヒ、其内約拾貳萬圓ヲ建築費ニ、約參萬圓ヲ庭園設備費ニ充テ、以テ之ガ計畫ヲ遂行シ、本會ノ事業結了ヲ告ゲント欲ス、若シ幸ニ最初企望ノ寄附額ヲ收入スルヲ得バ、陳列品ノ備附ヲモ致シ、併セテ之ヲ獻納スルヲ得ベシ  
願ミルニ、本會事業ハ、去ル明治二十一年ヨリ本年ニ至ル凡ソ二十年間ニ互リ、私モ嘗テ地方官トシテ 故熾仁親王殿下ノ懇篤ナル令旨ヲ拜承シタルコト一再ニ止マラズ、其後 威仁親王殿下ヨリモ屢地方長官ニ對シ令旨ヲ賜ヒタルモ、如何ニセシ寄附金募集意ノ如クナラザリシヲ以テ、徵古館建築事業ニ着手スルヲ得ズ、一時中止ノ姿トナリテ在、再歳月ヲ經過セリ、然ルニ來ル四十二年正遷宮ヲ機トシ、是非共徵古館建設事業ヲ了シ 神宮ニ獻納セントノ議ヲ決シ、一昨年來既ニ工事ニ着手シ、將ニ來春ヲ以テ工事ヲ竣功セントスルニ際シ、今回ハ實ニ諸君ニ對シ最後ノ御依頼ヲ爲サントスルナリ、殆ンド二十年間ニ涉リテ、屢 總裁殿下ノ令旨アリ、懇篤ニ諸君ニ御依頼ニ及ビタル其結果ヲ告グル次第ナレバ、願クハ諸君ノ十分ナル



御盡力ヲ煩ハシ、明年ヲ以テ何卒完全ニ事業ヲ完結センコトヲ、眞ニ切望ニ耐ヘザルナリ、伏シテ希フ、諸君、幸ニ今回ハ是非出來得ル限りノ寄附金御取纏被下度、私ハ本會評議員中、徵古館建築ニ付テハ委員ノ心得ヲ以テ盡力セヨトノ命ヲ受ケ、之ニ從事セルヲ以テ、以上計算ニ關スル大要ヲ報告シ、併セテ諸君ノ厚キ斡旋ヲ切望ス

本月中地方委員部職員ノ囑託并ニ解囑左ノ如シ。

東京府外八縣知事交迭又ハ退官ノ爲メ、之ニ對スル九名ノ囑ヲ解キ、更ニ東京府知事阿部浩、高知縣知事石原健三、宮崎縣知事吉森良、千葉縣知事有吉忠一、富山縣知事宇佐美勝夫、島根縣知事若林資藏、沖繩縣知事日比重明、佐賀縣知事井上孝哉ニ各委員總長ヲ囑託ス

廣島縣屬一名ニ委員ヲ、同縣安佐郡書記竹本清風、外三十一名ニ各委員ヲ囑託ス

長野縣下伊那郡外三郡長交迭退官等ノ爲メ、之ニ對スル四名ノ囑ヲ解キ、更ニ下伊那郡長河村備衛、外郡長三名ニ各委員長ヲ囑託ス

五月八日、本會副會頭從三位勳一等周布公平、勳功ニ依リ華族ニ列

シ男爵ヲ授ケラル、十一日、本會專務理事滿岡勇之助、外事務員備員等一同、書ヲ呈シ賀ヲ表ス。

昌子内親王殿下 恒久王殿下(銚)ニ配シ給ヒ、本月佳辰、大典正ニ舉リ、成婚ヲ告ゲ給フ、乃チ 皇室ノ御嘉例ニ基キ、近日 兩殿下ノ神宮ニ參拜アラセラルベキコトヲ想察シ奉ル、果セル哉、十二日、神宮司廳ヨリ豫シメ治定ノ期ヲ通知セララル、本會之ヲ承了シ、倉田山ニ台臨ヲ仰ガンコトヲ仰望ス。越テ十五日、周布副會頭ヨリ電報到ル、曰ク、今、平沼驛ニ竹田宮ヲ奉送シ神苑會事業御覽ヲ願置タリ、宜ク御案内アルベシト、茲ニ於テ乎本會台臨ノ光榮ニ浴スベキヲ豫期ス。

十六日、午後三時二十六分 恒久王殿下 同妃昌子内親王殿下、山田驛ニ御着アラセラル、本會理事田中芳男、專務理事滿岡勇之助、同

驛ニ奉迎シ次デ午後五時御旅館尾上町十五樓ニ伺候シ、徵古館建築計畫圖及農業館案内ヲ獻上ス。御附齋藤別當、有松三重縣知事ト協議シ台命ヲ傳テ曰ク、明日、神宮御參拜ノ後、天候晴朗ナレバ則チ倉田山及二見浦御遊覽アラセラルベシ、若シ雨降レバ則チ倉田山ニ成セラル、ユトナシ、宜ク之ヲ體シテ待ツ所アルベキナリト。翌十七日、午前一時ノ頃ヨリ降雨沛然、時ヲ經テ雨風漸ク加ハリ、爲ニ本會台臨ノ光榮ヲ仰グ能ハズ、然レドモ雨中二見浦賓日館ニ成セラレ、御休憩約二時間、二見町民催ス所ノ網曳ヲ台覽アラセラレ、越テ十八日午前九時五十二分山田驛ヲ發シ京都ニ向ハセラル、田中、滿岡、兩理事山田驛ニ奉送ス。

花房會頭ハ客月十五日、華族會館ニ於ル各府縣委員總長會合ノ顛末ヲ具上スルヤ、總裁殿下、深ク事業ノ進行ヲ嘉稱セラレ、更ニ令

旨ヲ下シテ地方各員ニ獎勵ヲ加ヘサセ給フ、即チ賜フ所ノ令旨ヲ謹寫シ、添ルニ當日職員ノ演說セシ趣旨ヲ以テシテ、之ヲ道廳府縣委員總長ニ送致ス、令旨ノ寫左ノ如シ。

本會ノ計畫ニ係ル徵古館ノ建築ハ、着々其歩ヲ進メタリ、想フニ豫定ノ工程ヲ愈ツユトナク、其落成ヲ見ムユト當ニ近キニ在ルベシ、而シテ之ガ爲メ資財ヲ供給スル事ハ、地方各員ノ力ニ賴ラザルベカラズ、庶幾クハ諸子相謀リ、以テ之ヲシテ完成セシメンユトナ。

明治四十一年五月

神苑會總裁 威仁親王

右令旨ニ添附セシ會頭ノ書翰左ノ如シ。

拜啓益御佳勝奉敬賀候陳者、神苑會寄附募集ノ義、過般御滯京中、於華族會館御相談

仕候委細、總裁殿下ニ言上仕候處、總長各位御厚配之段、至極御満足ニ被思食、尙別紙之通更ニ令旨ヲ賜リ候ニ付、茲ニ御傳達仕候、御多端之際、御苦配ハ深ク奉察候得共、此際一層之御盡力ヲ以テ、速ニ局ヲ結ビ候様、懇勝之至ニ不堪候、且當日小生等席上口演筆記ヲモ、併テ封送仕候、何卒急速御取纏メ方、宜敷御指揮被成下度、吳々モ懇祈仕候早々 敬具

明治四十一年五月

道廳府縣委員總長 宛

神苑會會頭子爵 花房 義 質

本月中、地方委員部職員ノ囑託并ニ解囑左ノ如シ。

千葉縣事務官帆足準三ニ委員副總長ヲ囑託シ、其前任者ニ對スル囑ヲ解ク  
青森縣東津輕郡長大澤文男ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ニ對スル囑ヲ解ク  
愛知縣名古屋市長加藤重三郎、外一市長、十七郡長ニ各委員長ヲ囑託シ、其轉任者ニ名ノ囑ヲ解ク  
石川縣事務官依田銈次郎ニ委員副總長ヲ、同事務官片岡文理ニ委員ヲ、縣屬五名ニ委員補ヲ、金澤市長渡瀬政禮、外八郡長ニ各委員長ヲ、金澤市助役堀俊明、外八郡書記

ニ各委員ヲ、市郡書記及町村長二百三十八名ニ各委員補ヲ囑託ス

●福井縣事務官池松時和ニ委員副總長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ囑託シ、委員一名ヲ解囑ス

廣島縣比婆郡長小林正敏ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解キ、同縣世羅郡ニ委員一名ヲ囑託ス

六月十七日、徵古館建築工事囑託員福田安三郎、同工事備員山本常雄ニ對シ、事務勉勵ノ慰勞金ヲ贈與ス。

頃來、徵古館建築工事正ニ關ハニシテ工費ノ支辨ヲ要スルモノ多シ。本會委員三橋勝到、專ラ地方ヲ巡歴シ、委員部職員ノ組成并ニ募金ノ督勵ニ從事ス、東馳西奔、又寧處ニ違アラズ、而シテ地方ノ募金或ハ既ニ其報ニ接シ、或ハ未ダ之ニ接セズ、或ハ幾分ノ回金ニ接シ、或ハ杳トシテ全ク消息ヲ得ザル者アリ、今ヤ資金供給ノ急ヲ告ゲ、其結束ヲ待ツニ暇アラズ、茲ニ於テ、大阪、京都ノ二府及埼玉、群馬、山

梨、静岡、愛知、岐阜、滋賀、奈良、和歌山、岡山、山口、佐賀、熊本、香川、愛媛、石川ノ十六縣委員總長ニ書ヲ發シ、告ルニ刻下ノ必要ヲ以テシ、全額集纏ヲ待タズ、先ヅ其徵收セシ部分ヲ送致セラレシメテ要求ス。此月地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

愛知縣愛知郡長笹原辰太郎、外郡長一名ニ各委員長ヲ囑託ス

長崎縣壹岐郡長畑次郎ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解キ、長崎市島貢介、外五名ニ委員ヲ、一名ニ委員補ヲ、外八郡一市ニ通シ委員二百四十九名委員補二名ヲ囑託ス

福島縣知事西澤正太郎、青森縣知事武田千代三郎、山梨縣知事熊谷喜一郎ニ各委員長ヲ囑託シ、其前任ニ依ル三名ノ前囑ヲ解ク

三重縣名賀郡町村長岡從橋外十四名ニ委員ヲ囑託ス

千葉縣市原郡長池内才次郎、外二郡長ニ委員長ヲ囑託シ、其前任二名ノ囑ヲ解ク  
石川縣鳳至郡長岩本智雄ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

島根縣事務官藤本元安ニ委員副總長ヲ、同縣屬三名ニ委員ヲ、隱岐島長東文輔、外郡長十一名ニ各委員長ヲ囑託シ、其退官又ハ轉任九名ノ囑ヲ解ク

長崎縣南高來郡近藤藤九郎、外十一名ニ委員ヲ囑託ス

香川縣事務官湯淺倉平ニ委員副總長ヲ、香川郡長植田行忠、高松市長鈴木幾次郎ニ各委員長ヲ囑託シ、其前任三名ノ囑ヲ解ク

七月十四日、本會評議員理事小松原英太郎、文部大臣ニ任ゼラル。二十五日、午前十一時、徵古館上棟式ヲ行フ。此日評議員子爵三室戸和光、理事桑原芳樹、專務理事滿岡勇之助、監事宇仁田宗馨等、新館中堂ノ下ニ列シ、劔狀ノ板面ニ「奉上棟」神苑會ノ文字、其右側ニ年次月日ヲ書セルモノヲ貼付シ、工匠ヲ會シテ上棟ノ式ヲ終フ。滿岡理事ハ花房會頭ノ口辭ヲ傳ヘテ職工一同ニ酒饌料ヲ頒與シ、三室戸評議員以下事務員、館員等皆事務所ニ會シテ酒饌ヲ享ケ、守衛以下ノ輩ニ頒ツニ其料ヲ以テス

本會事業ニ對スル神宮補助金ハ、下附命令條款ノ定ムル所ニ從ヒ、  
毎年會計年度ノ末ニ於テ下附セラル、ナ例トス、然レドモ建築工  
程日ニ進ミ、地方ノ募金未ダ纏マラズ、最モ資財ノ急ニ迫レルガ爲  
メ、神宮司應ニ懇願スルニ特ニ本年度ニ係ル交付期ヲ早メラレン  
ユトナ以テシ、本月四日書ヲ呈シテ之ガ詮議ヲ請フ。越テ二十七日、  
神宮大官司ノ通牒ニ接セリ、其要ニ曰ク、補助金ノ全部ヲ下附スル  
ハ詮議ニ及ビ難キ所ナリト雖モ、事情亮諒スベキモノアルヲ認メ、  
國債證書額面壹萬圓及現金四千參百圓ヲ以テ本年度下附額全部  
金壹萬四千參百圓ニ充算シ、特ニ期ヲ早メテ此際之ヲ下附スベキ  
ナリト。本會深ク廳議ノ玆ニ至レルヲ感謝シ、即日登廳之ヲ受領ス。  
本會評議員、前三重縣知事有松英義、内務省警保局長ニ轉ジ、將ニ赴  
任セントス、本月二十八日 神宮參拜ノ途次、倉田山ニ本會工事ノ

現況ヲ視察シテ去ル。後任本縣知事林市藏既ニ來リテ任地ニ在リ、  
玆ニ於テ本縣委員總長交迭ス。

此月地方委員部職員ノ囑託及解囑ヲ告グル者左ノ如シ。

福島縣事務官宮崎通之助ニ委員副總長囑託、其前任者ヲ解囑  
廣島縣神名郡渡邊憲太郎外三十五名ニ委員囑託

愛知縣東春日井郡長山田正、外郡長五名ニ委員長囑託、其前任者四名ヲ解囑

千葉縣東葛飾郡長石川赴夫ニ委員長囑託、同縣屬一名ニ委員囑託、其前任者ヲ解囑  
長野縣事務官湖惠之輔ニ委員副總長囑託、其前任者ヲ解囑

熊本縣知事川路利恭、宮城縣知事寺田祐之、岡山縣知事谷口留五郎、奈良縣知事青木  
良雄、德島縣知事渡邊勝三郎ニ委員總長囑託、其前任者ヲ解囑

次デ八月地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

福岡縣委員一名轉任ノ爲メ解囑、更ニ同縣屬一名ニ委員囑託、同縣門司市長永井環  
ニ委員長囑託、其前任者ヲ解囑

栃木縣事務官堀口助治ニ委員副總長囑託其前任者ヲ解囑

九月四日、片山工學博士、徵古館庭園ノ石膏模型ヲ携ヘテ到ル、設計ノ説明、此模型ニ照シ、歷々指點シ、能ク人ヲシテ會得セシム、翌日理事、監事等ト會シテ凝議スル所アリ、宇治山田市長モ亦之ニ列セリ、蓋造園ニ關シ特ニ宇治山田市民ノ寄附金ヲ徵スベキ協約アルガ爲ナリ。此夜片山博士ノ勞ヲ慰センガ爲メ、三室戸評議員、桑原、太田、滿岡ノ三理事、宇仁田監事等、市長、市參事會員ヲ加ヘテ與可樓ニ小宴ヲ張ル。

徵古館庭園設計既ニ定マリ、先ヅ土量ノ掘取ヲ要ス、其施工ヲ三重縣技師藤井良三ニ締約シ、契約書ヲ交換スルユト左ノ如シ。

契約書

神苑會所有地内ヨリ土砂ヲ掘取ル事ニ關シ、當事者神苑會理事滿岡勇之助ヲ甲トシ、當事者三重縣技師藤井良三ヲ乙トシ、雙方ノ間ニ左ノ事項ヲ約束ス

但此契約ハ本文工事ノ終結ニ至ル迄當事者ノ變更ニ由リ、效力ヲ失フモノニアラス

(一) 掘取ルベキ土量ハ約二千坪トス、其區域掘取ノ高サハ別紙圖面ニ準據シ、乙ニ於テ施行スルモノトス

掘取土量ノ決定ハ、前記圖面及掘取高ヲ基礎トシテ計算スルモノトス  
(二) 土量ノ増減若クハ掘取ノ區域及高サヲ變更スルノ必要アルトキハ、雙方協議ノ上處理スルモノトス

(三) 掘取リニ要スル費用トシテ、立一坪ニ付金五拾錢ノ割合ヲ以テ、毎月二回(上半期)ニ取纏メ、該年期中ニ掘取リタル土量ニ對スル分ヲ、甲ヨリ乙、若クハ乙ノ指定證明セル第三者ニ仕拂フモノトス  
前項土量ノ決定ハ、雙方ニ於テ正當ト認ムル概算額ニ依リ、最後ニ至リ精算ヲナスモノトス

右約束ノ證トシテ本書二通ヲ作り、各自一通ヲ領置スルモノトス

明治四十一年九月十六日

神苑會專務理事 滿岡勇之助

九月、十月ノ間ニ於テ地方委員部職員ノ囑託及解囑セルモノ左ノ如シ。

島根縣知事交迭ノ爲メ其前任者ノ囑ヲ解キ、後任知事丸山重俊ニ委員總長ヲ囑託ス

群馬縣知事休職ノ爲メ其囑ヲ解キ、後任知事神山閔次ニ委員總長囑託

茨城縣事務官木間漸策三、堀田貢岩田衛ニ委員副總長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ、水戸市長原百之外郡長四名ニ委員長ヲ、郡書記二名ニ委員ヲ囑託シ、同縣市郡内ニ於ル前任委員十名ヲ解囑ス

長崎縣上下郡ニ委員一名ヲ解キ、更ニ一名囑託

千葉縣事務官田中喜助、外縣屬一名ニ委員ヲ、匝瑳郡長直井綱ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

山梨縣事務官交迭ノ爲メ、其前任者ヲ解キ、後任事務官本間則忠ニ委員副總長ヲ囑託ス

長崎縣南高來郡ニ委員二名囑託

秋田縣知事交迭ノ爲メ其前任者ノ囑ヲ解キ、後任知事森正隆ニ委員總長ヲ囑託ス、  
茨木縣知事及事務官交迭ノ爲メ其前任者ノ囑ヲ解キ、後任知事坂仲輔ニ委員總長ヲ、事務官粟屋謙ニ委員副總長ヲ囑託ス

長崎縣壹岐郡ニ委員一名ヲ解キ、一名ヲ囑託

愛知縣屬四名ニ委員囑託

静岡縣事務官交迭ノ爲メ其前任者ノ囑ヲ解キ、後任事務官小島源三郎ニ委員副總長ヲ囑託ス

十月二日、農業館守衛一名ノ辭職ヲ聽許シ、內規ニ依リ勤勞年金ヲ贈與ス、越テ十二日、一名ヲ置キ其缺ヲ補ス。

三十一日、內務大臣男爵平田東助、倉田山ヲ巡覽セララル、滿岡專務理事、太田理事之ヲ事務所ニ請ジ、陳ルニ既往ノ經歷、現在ノ事業、并ニ地方寄附金募集ノ現況等ヲ以テシ、且神苑圖誌ヲ繕キテ其成績ノ

要ヲ説明ス、即日、大臣歸途ニ就ケリ、兩理事之ヲ山田驛ニ送ル。

十一月八日、有栖川宮實枝子女王殿下、徳川公爵家ニ降嫁ヲ許サセ給ヒ、此日婚儀ヲ行ハセラル。本會職員ノ神都ニ在ル者等、花房會頭ヲ經テ賀表ヲ奉ルユト左ノ如シ。

謹奉賀

實枝子女王殿下御婚儀

明治四十一年十一月八日

- |             |          |
|-------------|----------|
| 神苑會評議員正三位子爵 | 三室戸和光    |
| 同 理事從三位勳一等  | 田中芳男     |
| 同 理事        | 正五位 桑原芳樹 |
| 同 理事        | 太田小三郎    |
| 同 理事從六位勳六等  | 滿岡勇之助    |
| 同 監事        | 宇仁田宗馨    |

十一月、十二月ノ間ニ於ル地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

山形縣事務官澤田豊丈ニ委員副總長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ、米澤市長二村忠誠、外

一市長、七郡長ニ委員長ヲ囑託シ、轉任又ハ退官ニ依ル六名ノ囑ヲ解ク

島根縣簸川郡長須藤虎吉、外二郡長ニ委員長ヲ、古川權九郎、外九名ニ委員ヲ囑託ス

石川縣鳳至郡ニ委員補十一名ノ囑ヲ解キ、更ニ十二名ヲ囑託ス

福岡縣遠賀郡長田中慶介、外六郡長ニ委員長ヲ囑託シ、退官又ハ轉任ノ七名ニ對シ解囑ス

山形縣下ニ於ル轉任又ハ退官ノ郡長四名ニ對シテ解囑シ、更ニ最上郡長藤澤與則、外三郡長ニ委員長ヲ囑託ス

三重縣安濃郡長村田莊之助ニ委員長ヲ、一志郡、度會郡書記各一名ニ委員ヲ囑託シ、其退官轉任二名ニ對スル囑ヲ解ク

千葉縣市原郡書記一名、退官ニ依リ委員ヲ解囑シ、更ニ一名ヲ囑託ス

十二月十五日、評議員會ヲ東京ニ開キ、豫算及樞務ヲ議決ス、監事馬



場三郎、宇仁田宗馨ノ任期、本月末日ニ在ルヲ以テ、此日選舉ヲ行ヒ  
重任ニ決ス。

二十一日、徵古館建築工事囑託員福田安三郎、同工事備事務員山本  
常雄ニ對シテ半年間ノ慰勞金ヲ贈與ス

專務理事以下書記、備員、管守、守衛及使用人一同ニ對シ年末ノ賞ヲ  
行フ、其贈與金各差アリ。

二十六日、豊川町ニ於ル本會用地ノ内、宅地三百二十四坪五合四勺  
ヲ割キテ伊勢電氣鐵道株式會社ニ賣却シ、此日權利移轉ノ登記ヲ  
了ヘ、代金參千八百九拾四圓四拾八錢ヲ受領ス、本月十五日評議員  
會ノ決議ニ基キ實行スル所ナリ。其他新設國道ヲ挾ミテ斜メニ郵  
便局ニ對シ、本市ノ要衝ニ當リ、電車乗客ノ便、又昔日ノ比ニアラズ。  
明治四十二年一月一日、新年拜賀ノ式ヲ行ヒ、午前十時 内宮ニ大

々神樂ヲ奉奏ス。

六日、午後十時、徵古館建築擔任、工學博士片山東熊來着、翌日倉田山  
ニ建築工事出來形ヲ検査シ、造苑施工順序ヲ福田囑託員ニ指示シ  
テ去ル。

此日、内務省土木局長犬塚勝太郎、倉田山ヲ觀覽シ片山博士ニ邂逅、  
小憩シテ去ル。

十七日、徵古館工事大部分豫定期日ニ先ダテ竣功セントシ、豫算  
費金モ亦剩餘ヲ告ントス、以テ工事囑託員等勵精ノ績ヲ見ルベシ、  
今又附屬屋舎ノ建築并ニ造園ノ施工ヲ要シ、更ニ督工ノ任ヲ加ヘ  
ントスルニ至ル。周布副會頭來リテ工程ヲ實檢シ、造園ノ地形ヲ視  
察ス、即チ理事、監事等ヲ會シ將來ノ工事ニ關シテ協議スル所アリ。  
此日囑託員福田安三郎ニ増給シテ月俸八拾圓、備員山本常雄ヲ月

俸四拾圓トシ、之ニ辭令ヲ授ケ罷免事ニ從ハシム、越テ十八日、副會頭歸東ス。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

長野縣下ニ於ル郡長交迭ノ爲其前任者九名ヲ解囑シ、更ニ北安曇郡長大浦頼外郡長八名ニ委員長ヲ囑託ス

三重縣知事交迭ノ爲其前任者ノ囑ヲ解キ、更ニ後任知事有田義資ニ委員總長ヲ囑託ス

佐賀縣知事交迭ノ爲其前任者ノ囑ヲ解キ、更ニ後任知事西村陸奥夫ニ委員總長ヲ囑託ス

長野縣高井郡ニ於ル委員一名ヲ解キ、更ニ一名ニ囑託ス

島根縣屬一名ノ委員ヲ解キ、更ニ一名ニ委員ヲ囑託ス

東京府荏原郡長平林百太郎、外郡長七名、麴町區長古本崇、外區長十四名ニ委員長ヲ囑託ス

二月七日、改字證牌拜受者吉川清三郎ノ死亡ニ對シ、特別ヲ以テ弔詞并ニ玉串料(拾圓)及ビ造花料(壹圓)ヲ贈與ス、本會創立功勞者中ノ者老タリシヲ以テナリ。

十二日、徵古館管守村井與四郎ノ辭職ヲ許シ、贈給規則第四條ニ依リ勤勞年金ヲ贈與シ、守衛楠田兵治ニ管守心得ヲ命ズ。

大阪毎日新聞社ノ主催ニ係ル團體、神宮參拜ノ紀念トシテ三池傳太光世作ノ古刀一口及鋏三個ヲ徵古館ニ寄贈ス、即チ館内ニ陳列シ、其寄贈ノ事由ヲ標記ス。

此月、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

山形縣東田川郡書記三名ニ委員ヲ、外二十名ニ委員補ヲ囑託ス

福岡縣筑紫郡長池田稯、外郡長一名ニ委員長ヲ、同縣屬員原秀雄ニ委員ヲ囑託シ、其前任者三名ニ對スル囑ヲ解ク

石川縣石川郡長丹羽幹外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク  
千葉縣香取郡書記一名ニ委員囑託

三月二十六日、農業館監督理事田中芳男來館、其附屬ノ一室ニ滞在シ專ラ本館ノ列品ヲ督ス、是ヨリ先キ本會ノ農業館ヲ經始スルヤ、一ニ是レ田中理事ノ擔當整理ニ藉ラザルハナシ、創設以來、品類年々増加シ、從ウテ陳列ノ次序ヲ改正シ、或ハ標記ノ當否ヲ檢覈スルガ如キ、專門ノ技ト該博ノ識ト、之ヲ荷ウテ一身ニ在リ、而シテ其既ニ整頓ヲ告ルヤ、館ヲ撤シテ倉田山ニ移シ、再ビ全部ノ陳列ヲ要スルニ至ル、是レ毎年貴族院ノ餘暇、概ネ神都ニ在リテ本館附屬ノ一室ニ滞留シ、專心整理ニ從事セラル、所以ナリ、然レドモ東京ニ邸宅アリ、丹後ニ別邸アリ、且農産、水産、林業、諸會ノ招待ニ接スル等、來去頻繁、必シモ本地ニ住マレリトセズ、今悉ク來去ヲ記スルノ

煩ヲ省キ、特ニ從事ノ績ヲ概叙ス。

本月中地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

- 静岡縣下ニ於ル郡長交迭又ハ退官ノ爲メ、其前任者十一名ノ囑ヲ解キ、更ニ田方郡長尾崎敏樹、外郡長七名ニ委員長ヲ囑託ス
- 愛知縣事務官枝德二、事務官補高橋福三郎ノ二名ニ委員ヲ、海西郡長田中保太郎ニ委員長ヲ囑託シ其轉任者一名ニ對スル囑ヲ解ク
- 福島縣耶麻郡ニ委員二十五名ヲ囑託ス
- 三重縣事務官轉任ノ爲メ其囑ヲ解キ、北牟婁郡長水原壽一ニ委員長ヲ囑託ス
- 山形縣東沼賜郡ニ委員補十五名ヲ囑託ス

四月二日、評議員古莊嘉門、來リテ徵古館工事ヲ視察ス。

明治四十一年度歲入出決算、會務成績、財産目錄ヲ調理シ、理事會ヲ經テ評議員ノ承認并ニ監事ノ検査ヲ求メ、前例ニ依リ東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞紙ヲ以テ、會務成績及收支決算ヲ報告ス、

其文左ノ如シ。

明治四十一年中 神苑會會務成績

一月中ハ微古館新築事業ヲ繼續シ、側石彫刻据付及煉化石積其他ノ職工ヲ督勵シ、五月六月ノ交ニ及ビ豫想ノ外ニ進歩セシヲ以テ、其資金又隨テ一層ノ切要ヲ促スニ至レリ、之ヨリ先キ、國道改修ノ敷地トシテ本會所有地ヲ賣却シ、金七千五百圓ヲ領收シ、神宮補助金壹萬四千參百圓又同金額ノ翌年分ヲ繰上交付アリ、其後男爵三井家ヨリ金壹萬圓ノ寄贈アリト雖モ、數多ノ工費悉ク其請求ニ給足スル能ハズシテ、府縣寄附金ノ集纏ヲ期待スル實ニ一日ニ非ズ、時ニ偶地方官會議ヲ機トシ、一夕會同ノ際本會 總裁宮殿下ヨリ令旨ヲ賜リ、又正副會頭、小松原評議員ヨリ會員召募ノ盡力ヲ依頼セリ、同七月同館上棟式ヲ舉行シ、同九月片山技監出張ノ時ニ方リ、同館ノ外部殆ド竣功ニ及ビ、尋テ同館周圍ノ庭園ヲ計畫シ、直ニ經營起工ノ秩序ヲ定ムルニ至レリ、然シテ寄附金ハ豫算計上ノ半額ニ達セズ、遂ニ金壹萬圓ヲ借入レ、更ニ又本會所有地ヲ伊勢電氣會社ニ賣却シ、金參千八百九拾四圓餘ヲ領收ス、凡本年度内、寄附實收總額金參萬貳千四百參拾九圓餘ニシテ、廣島、福岡、長崎、長野、靜

岡、神奈川ノ六縣、其大部分ニ居レリ、年度末、前例ニ依リ評議員會ヲ開キ、翌年度ノ豫算ヲ評決シ、又監事ノ任期滿了セシヲ以テ、選舉ノ結果二名ハ重任、一名ノ補缺ハ三橋勝到當選セリ

明治四十一年度會計決算

一前年度ヨリ繰越高	二〇、二八一六一二
一歲	八四、〇八七六九三
內	
神宮司應補助金	二八、六〇〇〇〇〇
寄附	三二、四三九三一八
事業收入	一一、〇二七四二五
資財收益	九六七一〇〇
雜收	五三八五〇
借入	一〇、〇〇〇〇〇〇
繰越金及歳入合計	一〇、四三六九三〇五

一歲 出

八三三

内

奠 供 費

二〇〇〇〇

興 業 費

八四、九八三、六〇六

事業維持費

二、二五七、六八一

事 務 費

四、〇六八、二一八

會 員 費

二、〇九五、五六七

雜 出

七九三、一〇〇

缺 損 金

一、七三〇、〇〇〇

借入金利子

二四三、〇〇〇

一次年度へ繰越金

八、八九一、九二三

右神苑會會員諸君ニ報告ス

明治四十二年四月

神 苑 會

本會會員參宮ニ對スル鐵道乘車賃割引ノ件、本年三月末日ヲ期限

トス、期ニ先ダテ繼續許可ヲ出願セシモ、未ダ遽カニ指令ヲ得ルニ至ラズ、四月十五日、指令到達、更ニ明年三月末日迄繼續セラル、ユトヲ得タリ、然レドモ此繼續ハ特ニ本年ニ限ラレ、明年以降ハ之ヲ聽サレザル旨、鐵道局總裁ノ内諭ニ接セリ。  
四月中、地方委員部職員ノ囑託左ノ如シ。

福島縣東置賜郡神職安藤義重、外三十一名ニ委員ヲ囑託ス

倉田山ニ於ル本會事務所ノ位置ヲ轉シテ之ヲ道路ノ東面ニ移スニ決シ、五月六日以降移築工事ニ着手ス、其工事中、倉庫附屬舎ヲ以テ假ニ事務室ニ充ツ、蓋從來ノ位置農業館ノ南方ニ在リ、今ヤ徵古館庭園設計ニ於テ風致上之ガ存在ヲ容サズ、乃チ撤シテ東面ニ移シ、遺址ヲ削除シテ庭園ノ用ニ供セントス。

徵古館工事頻リニ進ミ、五月十四日造營其功ヲ竣フ、曩ニ明治三十

九年十一月、地盤土功ヲ起シテヨリ茲ニ二年有半、傑館巍然トシテ丘頂ニ聳エ、雄姿隆然トシテ朝陽ニ映ズ、遠望白堊ノ如シ、是レ花崗石及花崗煉瓦石ノ外壁ニ成ルガ爲メナリ。初メ本館建築ニ方リ、評議員相議シ工學博士片山東熊ニ托スルニ設計ヲ以テス、片山博士先ツ地形ヲ案シテ丘心凡一萬坪ヲ相シ、其最高ノ地域ヲ削リ、坦夷凡三千坪ヲ開ク、東ハ懸崖ニ凭リテ國道ヲ下瞰シ、南ハ鼓ヶ岳ヨリ稍東シテ朝熊山ニ面ス、其土質堅確ニシテ赤黒色ヲ負ビ、敷地悉ク「ユンクリート」ヲ施スヲ要セズ、即チ建築部分ノ地下ニ之ヲ施シ、必要ノ部局ニハ煉瓦石ヲ根積ミス、爲ニ地盤ノ費途ヲ減少スルユトヲ得タリ、進ンデ建築ヲ規畫ス、凡ソ災ヲ防ギ朽ヲ遠クルハ範ヲ泰西ニ取ルニ若クハナシ、茲ニ於テ案ヲ定メテ「レネーサンス」式平家建トシ、中央ノ廣堂ニヨリテ左右兩翼及後尾ノ各室ヲ持續ス、中心

廣堂ハ正面ヲ玄關トシ、後方突出ノ部分ヲ貴賓室トス、全體ノ形狀品字ニ似タリ、前面ノ長百九十四尺、側面ノ長百四十六尺六寸、坪數三百三坪餘、軒高凡三十尺、側壁二尺三寸乃至二尺七寸、其最厚處五尺ニ至ル、玄關及左右兩尾ノ昇降口、各花崗石ヲ累ネテ階段トス、特ニ玄關ニ石柱ヲ用キ、外壁悉ク煉瓦石ヲ用フ、内部構造ハ木材ヲ用キ、屋上ニハ銅板ヲ葺ク、若夫室內天井、壁面、床上窓牖等、今細叙ニ違アラズ、之ヲ要スルニ設計一ニ片山博士ノ考案ニ係リ、其指揮ノ下ニ囑託員福田安三郎、補助山本常雄專ラ施工ヲ督シテ今日ノ竣功ヲ告グ、欣ブベキ哉、只當時ノ財計之ヲ複閣トナスヲ計サ、リシハ、當局職員ノ遺憾ナキヲ得ザル所ナリ。

徵古館既ニ成ル、宜ク物品ノ陳列ヲ理セザルベカラズ、又是レ専門學藝家ノ考案ヲ必要トスル所ナリ、是ニ於テ評議シテ其人ヲ擬ス、

乃チ上古時代ヲ理學博士坪井正五郎ニ、自餘部門ヲ帝室博物館學藝委員高橋健自及ビ關係之助ニ囑託ス、坪井博士ノ本會ニ於ルヤ、今ヲ距ル二十餘年前、所謂創立期ニ在リテ既ニ計圖ヲ認知セラルル所、其後調査ヲ托シ、説明ヲ請ヒ、或ハ圖畫ニ、或ハ說述ニ、其現存スルモノ少カラズ、緣故舊シト謂フベシ、關係之助、囑ヲ承ケテ先ツ至ル、直チニ品目ヲ檢シ室内ヲ量リ、大略按排ノ次序ヲ定メテ、陳列棚ノ調製ヲ須急トシ、在京關係者ニ謀ランガ爲メ、十四日朝其調書ヲ携帶シテ去ル。

五月六月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

茨城縣官幣中社大宮司池原照ニ委員ヲ囑シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

長野縣埴科郡書記二名ニ委員囑託

三重縣三重郡長北野孝一、外郡長一名ニ委員長ヲ、阿山郡書記一名ニ委員ヲ囑託シ、其前任者四名ノ囑ヲ解ク

長野縣事務官交迭ノ爲メ、其前任者ヲ解囑シ、後任加村光政ニ委員副總長ヲ囑託ス、島根縣大原郡長内田正矩、外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者二名ノ囑ヲ解ク、福岡縣ニ於ル轉任又ハ退官ノ郡長六名ヲ解囑シ、更ニ後任安積郡長金指清、外郡長五名ニ委員長囑託

福島縣屬古河湖佐、外三名ニ委員囑託

愛知縣事務官高橋要治郎ニ委員副總長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解キ、同縣丹羽郡長岸田浩、外郡長一名ニ委員長囑託、其前任者ノ囑ヲ解ク

東京府住原郡長藤協善政ニ委員長囑託、其前任者ノ囑ヲ解ク

六月二十八日、是ヨリ先キ内苑局技師市川之雄ニ囑託スルニ造園ノ設計ヲ以テス、此日市川技師來リテ實地ヲ踏査シ、留ルコト二日、創設ノ區畫ヲ定メテ去ル、其後屢來リテ施工ヲ督ス。頃來館内列品ノ調理及開館ノ準備ニ忙ハシク又此造苑ニ汲々タル者ハ本年十月 神宮式年遷宮ノ盛儀ヲ期シテ開館センガ爲ナリ。

此月、書ヲ遠近ニ發シテ徵古ニ資スベキ物品ノ出陳ヲ募ル、單ニ本會既集ノ物品ヲ以テ足レリトセザルガ故ナリ。

七月十六日、倉田山所有地内、風致ヲ保ツニ必要ナル立木ニシテ、未ダ本會ノ所有ニ屬セザルモノアリ、若之ヲ伐採セン乎、大ニ庭内ノ風致ヲ損センコトヲ恐ル、此日購入シテ本會ノ有トス。

十八日、三室戸評議員、田中、桑原、太田、滿岡ノ各理事等、五二會館ニ會シテ徵古館開館式舉行準備ヲ議ス、越テ二十五日、花房會頭ノ巡視ニ接シ、開館式并ニ列品ニ關スル件、其他稟議ノ事項皆裁決セララル、陳列囑託員坪井博士、外三名モ亦來リテ擔務ニ從事ス。會頭乃チ二十七日、午後五時ヲ期シテ有田三重縣知事、葛輪同縣事務官、今村度會郡長、北川宇治山田市長、鈴木同助役、杉浦山田郵便局長、藤井三重縣技師、陳列囑託員坪井博士外三名、宇治山田市參事會員、同市會議

員等ヲ五二會館ニ招待シ、徵古館ノ落成ヲ告ゲ、了リテ晚餐ヲ共ニス、本會職員中、三室戸、安江評議員、田中、桑原、太田、滿岡ノ各理事列席シ、徵古館工事囑託員、本會委員、書記、備事務員、管守等亦之ニ列セリ、既ニシテ會頭庶件ノ裁理ヲ了シ、二十九日午後六時ノ發車ヲ以テ歸途ニ就ク。

此月二十六日ヲ以テ工場取締人心得書及工場心得書ヲ廢シ、其從事者三名ヲ解雇シ、工事囑託員福田、山本兩名ニ對シテハ、繼續シテ附屬舎ノ建築并ニ造園關聯ノ工事等ヲ督セシム。

徵古物品ハ從來假館ヲ以テ公衆ノ觀覽ニ供セリト雖モ、今ヤ之ヲ新館ニ移スニ方リ、一時觀覽ヲ停止セザルヲ得ズ、乃チ八月一日以降、九月下旬開館ニ至ルマデヲ停止期トシ、東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞紙ヲ以テ廣告シ、且書ヲ各府縣委員總長ニ發シテ便



宜管内ニ通知セラレシムトナリ依頼ス。

開館式豫定ノ期ヲ九月下旬トス、今ヤ剩ス所僅ニ六旬、普ク各府縣委員部高等官ヲ招待セント欲ス、然レドモ更迭或ハ退官等其異動アル者未ダ必シモ改訂ヲ經タリト謂フベカラズ、殊ニ未ダ推薦ノ報ヲ得ザルモノアリ、乃チ各府縣委員總長ニ照牒シテ其推薦ヲ請ヒ、併セテ副總長以下委員長ノ異動ヲ報ゼラレシムトナリ求ム。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

山口縣事務官小田切盤太郎ニ委員副總長ヲ、同縣屬一名ニ委員ヲ、大津郡長楳俊治外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ、其前任各三名ニ對スル囑ヲ解ク

茨城縣ニ於ケル郡長更迭ノ爲其前任四名ノ囑ヲ解キ、後任、西茨城郡長小泉正三、外郡長三名ニ委員長ヲ囑託ス

三重縣ニ於ケル郡長、郡書記二名更迭ノ爲メ、其前任六名ノ囑ヲ解キ、後任桑名郡長濱田盛義、外郡長三名ニ委員長ヲ、郡書記二名ニ委員ヲ囑託ス

愛知縣屬二名ニ委員補囑託

福岡縣田村郡長佐久間昌熾、外三十名、神官斧田撫臣、外五十名ニ委員囑託

八月十二日、理事會ヲ事務所ニ開キ、開館式準備ノ件及經理規則中改正ノ件等ヲ議ス、次デ二十三日、三橋監事來リテ會頭ノ意見ヲ傳フルニ會シ、再ビ理事會ヲ開キ、開館式舉行期日ヲ九月二十九日トスルニ決ス。

九月一日、開館式ニ招待スベキ資格範圍ヲ定メ、之ニ對シテ招狀ヲ發ス、其範圍左ノ如シ。

- (一) 道廳府縣委員總長、郡市委員長、縣委員及百圓以上ノ寄附者
- (二) 本會創立功勞者
- (三) 三重縣下ニ在テハ五拾圓以上ノ寄附者及郡委員
- (四) 度會郡内各町村長

(五) 宇治山田市内ニ於ル正會員、即チ拾圓以上ノ寄附者  
以上總員凡二千名ヲ計上ス、招狀左ノ如シ。

本會徵古館新築其功ヲ竣リ、館内陳列致整頓候ニ付、來二十九日開館式舉行候間、御  
資臨被成下度、且又同日午後六時ヨリ當市五二會館ニ於テ祝宴會開催致候ニ付御  
參會被成下度、開館式順序書相添此段御案内申上候 敬具

明治四十二年九月一日

副會頭男爵 周 布 公 平

會 頭子爵 花 房 義 質

宛

追テ準備ノ都合有之候ニ付御來資ノ有無本月十日迄ニ封中ノ葉書ヲ以テ御通報  
被下度候也

右招狀ハ創立功勞者以上ノ範圍トシ、普通招狀ニハ五二會館ノ祝  
宴ヲ除ク。

本日以降、請願巡查三員ヲ置キ、其駐在舍ヲ徵古館ノ北側ニ設ケ、後

農業館ノ南方ニ移ス。

徵古館内、新タニ風俗人形ヲ陳列スルニ決シ、陳列囑託員高橋健自  
關係之助等、本月以降專ラ擔務ニ從事ス。

二十一日、開館式餘興、能樂費補助金壹千圓ヲ、能樂發起人總代島田  
長兵衛ニ交付ス、是ヨリ先キ宇治山田ノ同好者、神都能樂會ナルモ  
ノヲ結ビ、金春流ノ師、櫻間金記ヲ招キテ、修技玆ニ年アリ、而シテ醜  
資日淺ク未ダ樂堂ヲ設クルニ至ラズ、適本館開館ノ舉アルヲ聞キ、  
奉納能樂ヲ以テ餘興ヲ添エントシ、新ニ樂堂ヲ作り之ガ補助ヲ本  
會ニ申請ス、其興行ニ費ス所亦少額ニ非ルヲ諒トシ、評議之ヲ容レ  
既ニ裁決ヲ經タリ、此日即チ交付ス。

二十三日、開館式接近ノ爲メ、花房會頭來リテ館内及庭園ノ實況ヲ  
檢閲シ、滞留シテ準備ノ要件ヲ指揮ス、陳列囑託員坪井理學博士、二

十六日ヲ以テ來リ上古時代品ノ陳列ニ從事ス、自餘諸員亦各擔務ニ控惚タリ、創立員村井恆藏ハ餘興能樂ニ、村田德三、竹内善壽(善ノ兵衛)藤井清司等ハ會場ノ設備并ニ餘興煙花等ニ奔走幹旋ス。

二十九日、午前九時徵古館開館式ヲ倉田山庭内ニ舉行ス。是レヨリ先キ接待ノ順序ヲ定ムルヤ、招狀ヲ種別シテ三トス、總裁宮別當、賀陽宮家令ニ進達スル者其第一也、顯官紳士、道廳府縣委員總長、多額(百圓以上)寄附者、創立功勞者等ニ對スル者其第二也、正會員并ビニ同待遇者ニ對スル者其第三也、狀ヲ發スルコト總テ二千通、凡式場ノ贈品ヲ酒一壺、盃一個、鮓一折、菓子一折、紀念繪葉書二葉、徵古館案内(兩面印刷)ノモノ一部トシ、添ルニ白巾一片(包括用)ヲ以テシ、功勞者以上ニハ、特ニ夜會ヲ開キ晚餐ヲ饗シ、紀念品五鈴鏡一面ヲ頒ツモノトス、餘興ヲ能樂煙花ノ二種トシ、高ク天幕ヲ張りテ式場ノ日

射ヲ防ギ、兼テ雨儀ニ備ヘ、五二會館ヲ以テ夜會ニ充ツ、式場凡八百坪、庭内南方平坦ノ域ヲ用ウ、四圍幔幕ヲ繞ラシ、幕裡南端ニ金屏ヲ建テ、卓及床ヲ屏前ニ設ケテ、總裁殿下ノ台臨ニ供フ、前面ニ插花案アリ、案ニ對シテ西ヲ高等官席、東ヲ職員席トシ、北方橫列ニ床ヲ設クルコト十數行、之ヲ通常賓席トス、南方幕外ニ能樂堂アリ、以テ式後ノ觀覽ニ便ニス、徵古館内既ニ陳列ヲ了シ、正面立關ヲ開キテ、貴賓ヲ通シ、左右兩端ヲ衆賓ノ昇降ニ充テ、式後登觀ニ任ズ、準備略此ノ如シ。當時庭園未ダ完成セズ、一望豁然絶テ栽樹ナシ、縱橫使用ニ適スル所以ナリ。既ニシテ定日至ル、參列者凡七百名、總裁殿下病ヲ舞子濱ノ別邸ニ靜養アラセラル、ヲ以テ、特ニ別當平山成信ヲ御名代ニ差遣セシメラル、正副會頭迎ヘテ式場ニ導キ、自餘職員亦相從ヒテ着床ス、式ノ次第左ノ如シ。

第一鼓 午前九時、來賓式場ニ參列

次 本會職員參列

第二鼓

總裁宮殿下(臨)御名代平山別當

一同敬禮

次 理事滿岡勇之助、開館式開始ヲ告グ

次 理事滿岡勇之助、事業ヲ報告ス

次

總裁宮殿下告辭ヲ賜フ(御名代平山別當、令旨ヲ朗讀セラル)

次 會頭子爵花房義質、答辭ヲ朗讀ス

次 來賓祝辭ヲ朗讀ス

(一) 內務大臣男爵平田東助祝辭(水野參事官代讀)

(二) 三重縣知事有田義資祝辭

(三) 宇治山田市長北川矩一祝辭

(四) 男爵九鬼隆一祝辭(代讀)

(五) 大森京都府知事、外三名ノ祝電(代讀)

次 副會頭男爵周布公平ヨリ 總裁宮殿下ノ特賜金參千圓ヲ拜受セシコトヲ報告ス

次 理事田中芳男、式ノ終リヲ告ゲ、併セテ式後贈呈スベキ品目、餘興ノ設備及任意館内ノ看覽ヲ乞フ旨ヲ述ブ

次

總裁宮殿下(御名代)御退場

一同敬禮

次 來賓一同ニ紀念品及酒饌ヲ班ツ

餘興ノ煙花ヲ放揚シ、能樂ヲ演奏シ、又本館ヲ開キテ看覽ニ供フ

右順序ニ依リ式茲ニ畢ル、其式場ノ辭ヲ錄スルコト左ノ如シ。

開館式開始報告(專務理事滿岡勇之助演舌)

唯今ヨリ本會徵古館ノ開館式ヲ舉行セラレマスルニ付、此段御報告申上マス、就テ

ハ本會 總裁有栖川宮殿下ニハ、此開館式ニ御台臨ノ思召ニ在セラレシ處、過日來御不例ニテ、御静養ノ爲、舞子御別邸ニ成セラル、ニ際シ本會頭へ篤キ御詞ヲ賜ハリマシテ遺憾ナガラ今回ハ御台臨在セラレマセズ、御名代トシテ別當平山閣下、御臨場ニ相成マシテゴザリマス、幸ニ貴顯紳士各位ハ遠路且御多用ノ際、御來臨ヲ辱フシ、又多數ノ貴賓各位ノ御來車アリタルハ、本會ノ光榮トスル所デアリマス、一應御挨拶申上マス

本會事業報告 (專務理事滿岡勇之助朗讀)

抑本會ノ創業ハ明治十九年六月ニシテ、當時 兩宮宮城ノ附近汚穢醜陋因習常ヲナシ、且民屋ノ櫛比火災ノ危険之ヲ古往ニ徵シ、悚然トシテ目視ルニ忍ビズ、口言フニ忍ビザルモノアリ、是ヲ以テ當市有志者ハ、奮起力ヲ戮セ私財ヲ抛テ會務ニ執掌シ、速ニ民屋ヲ撤去シ神苑ヲ開キ、以テ神宮ノ莊嚴ヲ補ヒ、又徵古館ヲ設ケ事物ノ變遷ヲ明カニシ、以テ聖代ノ規模、國體ノ發揮ニ勉メ、益億兆仰敬ノ心思ヲ養成スルニ在リ、而シテ大方ノ諸君辱ク斯業ノ主旨ヲ贊同セラレ、遂ニ今日ノ發展ヲ奏スルヲ得タルハ、洵ニ諸君ノ賜ナリ

今試ニ本會ノ歴史ヲ略陳スレバ、則チ明治二十五年十二月開苑式ヲ舉ゲ、二十七年三月神宮司應ニ獻納ノ手續ヲ終レリ、直ニ進デ徵古館ノ建設ヲ企圖スルヤ、其規模頗ル宏大ニシテ、速ニ成功ヲ期シ難キヲ以テ、先ヅ其一部ナル農業館ヲ建設シ、二十四年五月開館式ヲ舉行セリ、爾來徵古館設立地ヲ選擇スルニ方リ、苦心慘愴、遂ニ三十三年ニ至リ當倉田山ニ決定セリ、是ヨリ新タニ道路ヲ開通シ、又撤下御物拜觀所ヲ創設シテ神宮司應ニ獻納セリ、又農業館ヲ此地ニ移轉改築シ、三十八年七月三十日開館ト同時ニ假徵古館ヲ開キ、公衆ノ觀覽ニ供ス、尋デ本館敷地ヲ開修シ、三十九年十月其建築土功ニ着手ス、爾來凡二個年六個月ヲ經テ、本年五月竣功ヲ告ルヲ得タリ

夫本館設立ノ來、歷建築ノ概要、庭園ノ設計、館内ノ設備、物品ノ陳列、其他ノ事項ハ都テ徵古館案内ナル一劄子ヲ進呈シテ、其詳細ヲ斯一劄子ニ讓レリ、前述ノ如ク、本會目的ノ第一ナル神苑ハ既ニ成リ、今又第二ノ徵古館ヲ竣功ス、創立以來二十三年ノ星霜ヲ經テ、終ニ克ク其目的ヲ達スルヲ得タリ、而テ仍ホ會務ノ整理完成ヲ期スベキ者鮮カラズ、因テ全般遺漏ナク舉テ

神宮ニ獻納スル實ニ朝夕ノ間ニ能スベカラザルモノアリ、是乃チ本會事業顛末ノ概要ニシテ謹デ各位ノ清聴ヲ煩ヌ

明治四十二年九月二十九日神苑會理事等敬白

令旨 (御名代平山別當朗讀)

徵古館ノ工事竣ヲ告ゲ茲ニ開館ノ式ヲ舉グ、本館ノ結構壯麗ナルノミナラズ、物品ノ陳列モ亦能ク整備シテ以テ神苑ノ勝槩ヲ添タリ、余ハ深ク會員ノ熱誠ト當事者ノ精勵トニ由リ、我神苑會當初ノ企圖ヲ遂タルヲ喜ブ。

明治四十二年九月二十九日

神苑會總裁 威仁親王

答辭 (會頭子爵花房義質朗讀)

徵古館ノ設立ハ實ニ本會豫定事業ノ一タリ、前會頭吉井伯會テ 前總裁故宮殿下ノ旨ヲ奉ジテ夙ニ之ヲ計畫シ、既ニ神苑ヲ開キ、又農業館ヲ興セリ、義質之キヲ會頭

ニ承クルニ迨ビ、前緒ヲ繼紹シテ遂ニ徵古館ノ建築ニ及ビ親シク 總裁殿下ノ台命ヲ承テ、當局ノ諸員ト拮据經營シ、僅ニ克ク其事ヲ了ヘタリ、茲ニ於テ乎、神宮ニ參拜シ神苑ニ觀ン者、必ズ將ニ御物拜觀所ニ萬世不渝ノ大典ヲ惟ヒ、徵古館ニ歴代汚隆ノ由ル所ヲ稽ヘ、農業館ニ國本培養ノ勉ムベキヲ思ヒ、各自ヲ資ル所アリテ、以テ世用ヲ補益セントス、是レ本會ノ事業ヲ終始シ、聊カ神恩ニ奉養スル所以ニシテ亦會員贊助ノ熱誠ニ負カザルニ庶幾カラシ乎、今ヤ開館ノ典ヲ舉ルニ際シ、總裁宮殿下特ニ優渥ナル令旨ヲ賜ヘリ、義質等恐惶已ムコトナシ、竊ニ自ラ益匪勉事ニ從ヒ、當初ノ企圖ヲ完ウシ、以テ 殿下ノ隆旨ニ副ハンコトヲ期ス

明治四十三年九月二十九日

神苑會會頭從二位勳一等子爵花房義質謹デ奉答ス

內務大臣祝辭 (水野內務省參事官代讀)

神苑會ノ一事業タル徵古館ノ新築、今ヤ既ニ其工ヲ竣リ、茲ニ本日ヲトシテ開館ノ式ヲ舉ルニ至リシハ、誠ニ慶賀ニ堪ヘズ、殊ニ館ノ建築ヤ堅牢ニシテ雅麗、且陳列スルニ、廣ク歴史上ノ參考品、古代美術品等ノ類ヲ以テス、夫レ古ヲ知ラザレバ以テ今

ニ處シ易カラズ、將來ヲ慮ラントセバ必ズ往時ニ鑑ミザルベカラズ、徵古館ノ世ニ裨益スル所ヤ蓋シ尠シニアラザルベシ、聞ク神苑會ノ創立セラレシハ、實ニ明治十九年ノ交ニ在リ、其後規模ヲ擴張シテ事業ノ完成ヲ期シ、組織ヲ改メテ基礎ノ確實ヲ圖リ、藝ニハ既ニ神苑ヲ開キテ宮域ヲ擴メ、且農業館ヲモ設立シテ、我邦ノ農耕ニ關スル進歩ノ跡ヲ知ルニ便ゼシメ、今復徵古館ヲ建設シテ、更ニ温故知新ニ資スル所アラントス、茲ニ於テ乎、本會目的ノ大半ハ既ニ達成セラレタルモノト謂フベシ、今ヤ本會設立ノ時ヨリシテ、年ヲ閱スルコト既ニ二十有餘、其間終始一貫シテ、一意其事ニ從ヒシ諸氏ノ勞ヤ亦多トスルニ足ルモノアリ、茲ニ一言ヲ陳ベテ聊カ祝辭トス

明治四十二年九月二十九日

内務大臣從三位勳一等法學博士男爵 平田 東助

三重縣知事祝辭

創始ノ古代ニ遡リ、其ノ風俗ヲ徵ネ、其ノ民業ヲ察シ、以テ 皇祖ノ廣大ナル威徳ト無窮ナル恩慮トヲ仰ギ、其ノ淵源ノ深ク且ツ遠キヲ識リテ、利用厚生ノ道ヲ講ジ、常

ニ國利民福ノ増進ヲ圖ルハ、是レ經世有志家ノ一日モ忽カセニスベカラザル所ナリ、神苑會茲ニ見ル所アリ、古ヲ温ネテ 皇祖ノ偉業ヲ欽仰シ、今ニ鑑ミテ國民ノ嚮フ所ヲ知ラシメント欲シ、徵古館ヲ建設シ、本日ヲトシテ開館ノ式ヲ舉行セラル、國華國粹コレヨリ一層ノ光彩ヲ放チ、 皇祖ノ偉徳ヲ顯揚シ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮シ、以テ國運ノ隆盛ヲ企圖ス、其ノ效果豈淺少ナランヤ、邦家ノ爲メ洵ニ慶賀スベシ、竊ニ惟フ、神風ノ伊勢ノ國、流レ盡キセス五十鈴川、長コクモ 皇祖太神ノ鎮座マシマス、神聖偉靈ノ地ニ於テ、此盛大ナル典ヲ舉グ、本官亦其ノ席ニ列ナル、何ノ光榮カ之レニ如カンヤ、因テ聊カ蕪辭ヲ述ベ、謹ミテ祝意ヲ表ス

明治四十二年九月二十九日

三重縣知事正四位勳三等 有田 義質

宇治山田市長祝辭

夫レ明鏡ハ形ヲ察スル所以、往古ハ今ヲ知ル所以、孔子曾テ周ニ往キ、明堂ヲ觀テ愈々博古知今ノ要ヲ嘆ゼリ、我徵古館ノ創設、豈感ヲ茲ニ發スルモノニアラズヤ、抑々我列聖其ノ民ヲ撫育シ、庶民其上ニ敬事シ、淳厚ノ俗、尙武ノ氣、一旦國難アラバ、

死地ニ就ク歸スルガ如キ者、豈我神州ノ世界ニ冠絶スル所以ニアラズヤ  
上下三千載ノ史蹟ハ、炳焉トシテ日星ノ如ク、熱血ノ跡タラズンバ、則チ壯烈ノ光タ  
リ、而モ史ハ浩漭ナリ、其ノ學ニ專ナル者ニアラザレバ、之ヲ涉獵スル能ハズ、之レ識  
者ノ夙ニ遺憾トスル所ナリ、今ヤ本館ノ開設ヲ得テ、我史ノ實ヲ徵證スベキ什寶、燦  
然トシテ、其ノ屋ニ滿チ、内外ノ人士來テ、大廟ヲ拜スル者必ズ、此館ニ觀、以テ我國體  
ノ淵源スル所ヲ明ニシ、制度文物ノ跡ヲ察シ、邦光ノ烈ヲ觀シ、國粹ノ美ヲ看、或ハ之  
ヲ治進ニ資シ、或ハ之ヲ問學ニ參セバ、其ノ人ニ裨益スル所、蓋渺少ニ非ルベシ  
嗚呼、巍乎タル倉田山上、奕タル一偉觀ハ、滾々トシテ五十鈴ノ清流ト共ニ、之ヲ千古  
萬古ニ傳ヘテ、長ニ國民景仰ノ屋タランカ  
不肖、乏キヲ本市長ニ承ケ、本日ノ盛典ニ陪シ、親シク三千載ノ史蹟ニ對シ、崇高ノ念、  
油然而トシテ、胸底ニ湧クヲ覺エズンバアラズ  
茲ニ謹テ神苑會ノ盛舉ヲ慶スルト共ニ、我等市民此神域ニ住スル者、浮薄輕佻、射利  
之レ念トセズ、誠ヲ推シテ、遠人ニ對シ、靈土ノ民タルニ背カザランコトヲ、聊一言ヲ  
述ベ、以テ祝シ且規ス

明治四十二年九月二十九日

宇治山田市長 北川 矩一

九鬼男爵祝辭 (委員 藤井清司代讀)

凡ソ國家經綸ノ局ニ當ル者ハ、永久の有益ノ事業ニ着眼シ、之ガ經營ヲ怠ルベカラ  
ズ、今夫レ博物館即チ歴史館ノ如キハ、實ニ國家永久の有益ノ事業ニシテ、其功用ヤ  
管ニ歴史的至重ノ品類ヲ保存スルノミニ非ズ、之ニ由リ、國民ニ稽古ノ資料ヲ供シ、  
徵今ノ智識ヲ與ヘ、工藝美術其他有ラユル品類ニ向テ、直接ニ、將タ有形のニ、無形の  
ニ、補益スル所定ニ少々ニ非ズ、歴史的實物ノ人心ヲ感動スル極致ニ至テハ、冥々ノ  
裡、自カラ忠君愛國ノ品性ヲ涵養スル、更ニ深キモノアルニ於テヤ、且  
皇統一系連綿タル國體ノ下ニ在テハ、殊ニ最モ然リトス、之ヲ海外ニ觀ルニ、彼ノ英  
吉利ノ如キハ、大抵ノ事業ハ、人民ノ自由經營ニ放任スル國狀ニ在テスラ、博物館ノ  
數ハ、官公合セテ二百餘ノ多キニ及ベリ、又不世出ノ大英雄、第一世拿破崙ハ、彼ガ如  
キ兵馬倥傯ノ間ニ在リナガラ、博物館ノ國家永久の有益ノ事業タルヲ認識シ、其戰  
時中ニ於テ、内國八個所ニ之ヲ建設シ、實物指教上、至重ノ品類ヲ陳列スルノ大計ヲ  
定メタリ、實ニ卓越ナル識見ニシテ、經世家タル者ノ、以テ表範トスベキ所ナリ



我國ノ如キハ、古來一般ノ建築木造ナリシヲ以テ、祝融ノ爲ニ、至重ノ什器寶物ノ、烏有ニ歸セシメタルモノ極メテ多キニ拘ハラズ、世界各國ニ比スレバ、實ニ歴史の至重ノ品類ニ富ミ、各所、歴史館ノ必要多キハ、識者ヲ埃ツテ後知ルニ非ザルナリ、然ルニ今日ニ於テ僅ニ東京、京都、奈良ノ三博物館アルノミ、願レバ東京博物館ハ、故大久保内務卿ノ識見ニ由リ建設セラレ、予ノ同館ニ總長タル時ニ於テ其規模ヲ擴大セラレ、京都、奈良兩博物館ノ建設ニ至テハ、實ニ容易ナラズシテ至難ノ中ニ、漸ク之ヲ見ルヲ得タリシナリ、更ニ國寶トシテ法律ニ據リ保存セラルベキモノ、又ハ個人ノ所有ニシテ、歴史の至重ノ品類夥多ナルヲ思ヘバ、焉ゾ僅ニ三博物館ヲ以テ満足スルヲ得ンヤ、予常ニ之ヲ憂ルヤ久シ、今ヤ有志者相謀リテ義金ヲ醜集シ、伊勢、大神宮ノ地ニ歴史館ヲ建設シ、名ヅケテ徵古館ト稱ス、實ニ近來ノ一大美舉ト云ベシ、殊ニ其建設ノ位置ヲ、此神聖ナル靈域ニ定メラレタルハ、最モ其宜シキヲ得タリ、之ヲ國家ヨリ視ルモ、必ズヤ歴史館ノ建設無カルベカラザル所ナリ、之ヲ發起有志者ノ本意ヨリ云フモ、館ノ尊崇更ニ一層ノ高キヲ加ヘ、其光輝ヲ國家ニ添ルニ於テ遺憾ナキヲ得ベシ、豈大ニ祝セザルベケンヤ、予ノ如キ會テ博物館ノ建設ニ苦慮シ、尙之

ガ増設ニ腐心スル者、今ヤ此館ノ建設ヲ聞キ、欣喜ノ情殊ニ深シ、謹ミテ所感ヲ述ベテ祝辭トス。

明治四十二年九月二十九日

從二位勳一等男 爵 九 鬼 隆 一

餘興能樂ハ開館式畢ルヲ待テ、午後一時ヨリ開始ス、其樂堂ハ新ニ調成ヲ告グル所ナリ、金春七郎、櫻間金太郎等、神都能樂會員ト共ニ各演技シ、午後五時、雨ニ遇ヒテ罷ム、煙花モ亦晝間ニ止マリ夜興ヲ添ル能ハズ、能組ハ淡路、八島、富士太鼓、安宅、善我意ノ五曲ニシテ、間フルニ素袍落、吹取、千鳥、三人片輪等ノ狂言ヲ以テセリ。

午後六時、夜會ヲ五二會館ニ開ク、平山別當ヲ首賓トシ、有田三重縣知事、其他高等官、多額寄附者、功勞者、宇治山田市名譽職員等、遠邇ノ紳士、一堂ニ會スル者百五十名、卓ヲ列ネテ齊シク祝杯ヲ舉ゲ晚餐ヲ共ニス、此席上、紀念品銅製五鈴鏡ヲ頒ツ、既ニシテ宴了リ午後八時散會ス。

此日、開館式了ルヤ、花房會頭電ヲ發シテ、總裁殿下ニ言上スル所アリ、平山別當モ亦電報ヲ發セラル、電文左ノ如シ。

徵古館開館式ニ付、優渥ナル

令旨ヲ賜ハリ、感激ノ至リニ堪ヘズ、又御思召ヲ以テ、御下賜金拜領仰付ラレ、謹デ御禮申上候

右言上ヲ請フ

神苑會會頭子爵 花房 義 質

播州舞子

有栖川宮御別邸

小山田御附武官宛

徵古館開館式都合克ク濟ム、宜敷言上アリタシ

播州舞子

平山 別當

有栖川宮御別邸

小山田御附武官宛

總裁殿下、特ニ金參千圓ヲ賜ハリシエトハ、此日、式場ニ於テ副會頭ノ報告セシ所ノ如シ、會頭電文謹謝茲ニ及ブ所以ナリ、而シテ本會ヨリ平山別當ニ請托シテ、殿下ニ獻呈セシ品目左ノ如シ。

本會職員名簿、徵古館開館式次第書、徵古館案内、紀念繪葉書五組、盃、五鈴鏡、餘興能樂番組、煙花番附、式日徽章、二、會頭答辭、來賓祝辭、理事報告、式場寫真、徵古館前面寫真、同内部貴賓室寫真、同風俗人形繪葉書、南方ヨリ徵古館并ニ御物拜觀所ヲ見ルノ寫真、徵古館規則、農業館案内、同列品目録

職員等又謂ヘラク、本會夙ニ 帝室ノ優渥ナル御保護ニ負フ所多シ、幸ニ今日ノ成績ヲ告グ、安ソ覽奏ニ供シ奉ル所ナカルベケンヤト、乃チ花房會頭ヲ經テ執奏ヲ請ヒ、  
兩陛下、東宮殿下、同妃殿下、皇族殿下十三方、及ビ 多嘉王殿下ニ獻納シ奉ルニ左ノ品種ヲ以テス。

徵古館案内一冊、紀念繪葉書一組、盃、五鈴鏡各一個、餘興能樂番組、煙花番附各一部、徵古館規則一冊

式日參列ヲ得ザリシ貴賓、并ニ各府縣委員總長、千圓以上ノ寄附者、創業功勞者及其遺族等ニハ、五鈴鏡、徵古館案内、紀念繪葉書ノ三品ヲ贈リテ以テ當日ノ典ヲ頒ツ。

開館式舉行ノ爲メ、來會參列セシ職員左ノ如シ。

會頭	子爵 花房 義賢	副會頭	男爵 周布 公平
評議員	山崎 直胤	理事	田中 芳男
理事	事 滿岡 勇之助	理事	事 太田 小三郎
監事	事 三橋 勝到		

三十日、徵古館開館式既ニ了リ、本日以降二日間、公衆ニ縱覽セシム、此日登觀者凡一萬六千人。

十月一日、徵古館登觀者、陸續雲集、盛況前日ニ讓ラズ。

二日、午後六時、内宮式年遷御ノ盛典ヲ舉行セラル、其舉行ニ方リ衆庶ノ參拜ヲ禁ゼラル、ユト前例ニ同シ、本會會員中、啟字章ノ者及百圓以上ノ寄附者ニ限り、神宮司廳ノ指定セル通常拜觀ノ區域内ニ參列ヲ許サル、爲ニ盛儀ヲ拜スルユトヲ得タル者數百名、服裝男子、フロツクユート、又ハ羽織袴、女子白襟紋服トス。遷ニ二十二年ノ遷御式ニ遇フヤ、本會會員ヲ舉テ通常拜觀ノ特典ニ與カルヲ得タリ、今復此典ニ與カラント欲シ、客月初旬、神宮司廳ニ請フ所アリト雖モ、限アルノ地域ヲ以テ、限ナキノ人員ヲ容ルベカラズトシ、資格ヲ限制セラル、ニ至ル、是レ今次ノ部分ニ止マル所以ナリ。本會即チ新聞紙上ニ廣告シ、其資格ヲ具フル拜觀志望者ヲシテ、本月一日迄ニ事務所ニ申報セシメ、頒ツニ一定ノ徽章ヲ以テス、但特別拜觀ノ典ヲ被ルベキ高等官、有位帶動者等ハ九月十八日官報第七八

七二號、廣告欄載スル所ノ拜觀心得ニ依ルヲ以テ、本會ノ關與スル所ニ非ズ。

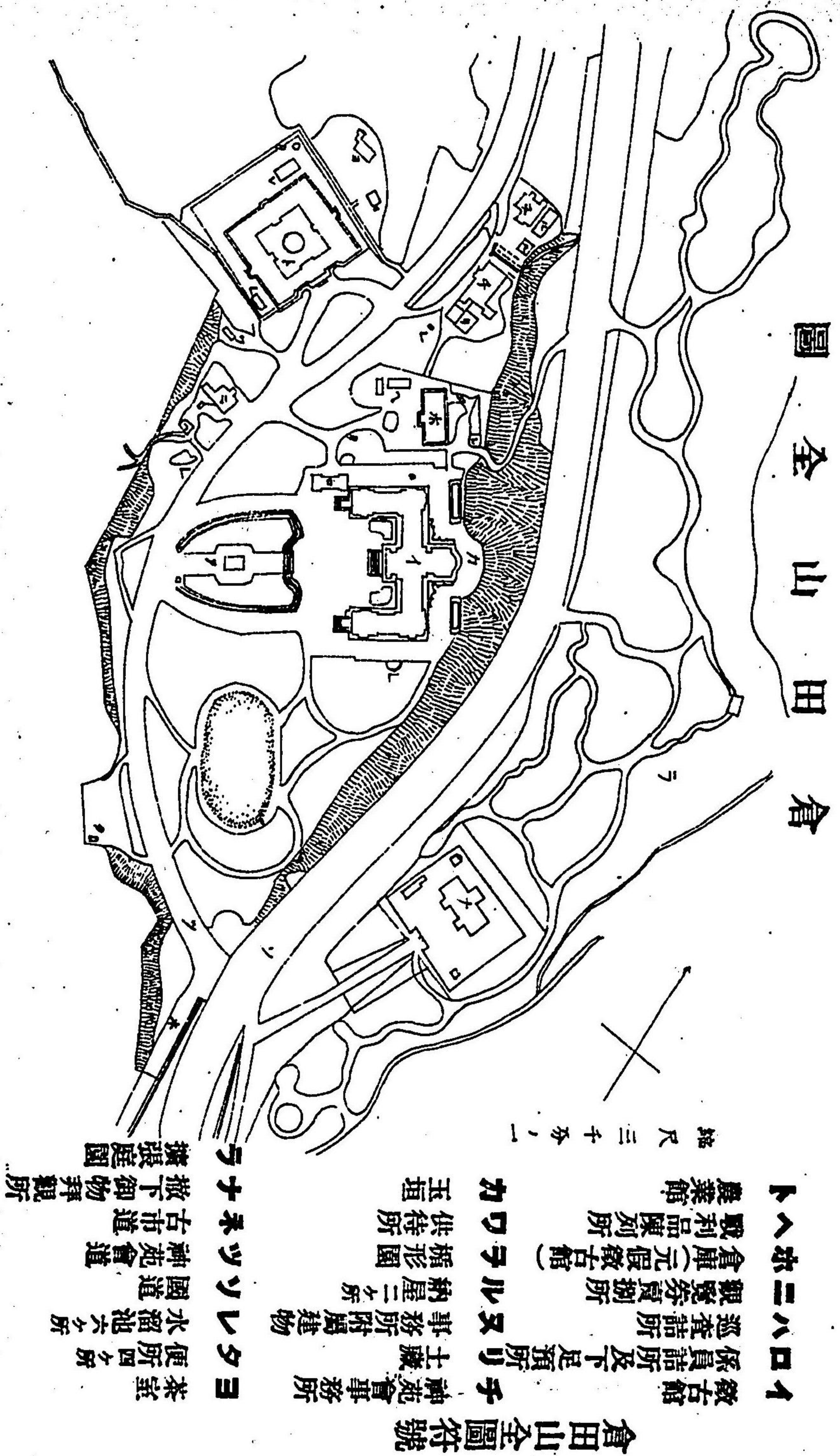
徵古館本日ヲ以テ普通觀覽ノ規則ヲ實施シ、且觀覽券ヲ發シ料金參錢ツ、ヲ徵ス、館ノ北西角ニ新築セシ附屬舎ヲ以テ、其券ヲ交付シ及ビ履杖ヲ管守スルノ場ニ充ツ。

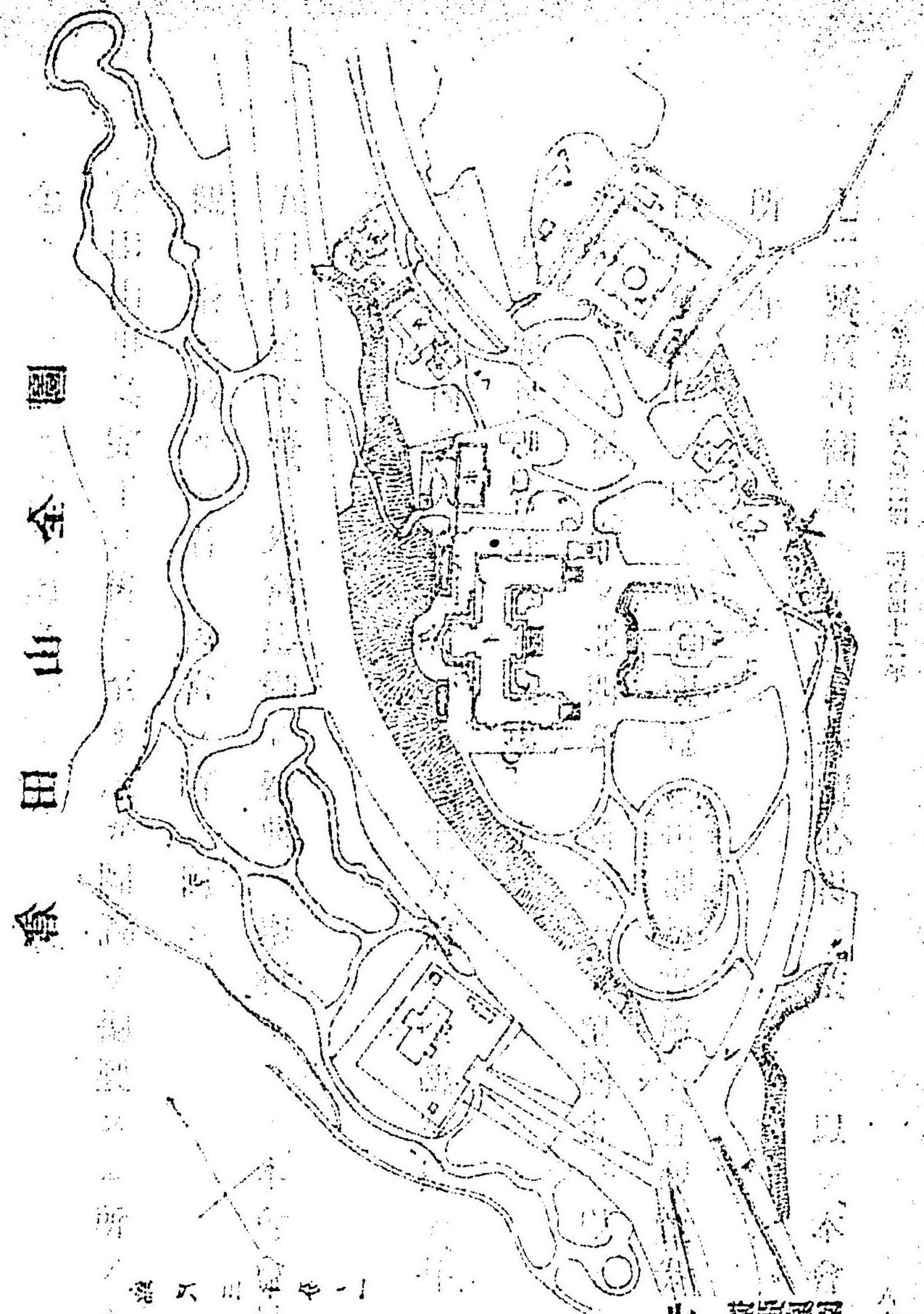
三日、平田、内務大臣、四日、評議員土方伯ノ來臨ニ接シ、并ニ徵、農二館ヲ巡覽セララル。

五日、午後六時、外宮遷御ノ盛典ヲ舉行セララル、本會會員中、通常拜觀ノ榮ヲ被リシ者、内宮ノ時ニ同シ。

倉田山事業完了ノ後ニ至リ之ガ圖說ヲ編製スル所アリ、成功ノ紀念トシテ左ニ之ヲ掲出ス。

倉田山全圖





- |    |           |    |    |    |     |
|----|-----------|----|----|----|-----|
| 1  | 農業館       | 11 | 正社 | 16 | 神樂殿 |
| 2  | 農産品陳列館    | 12 | 神庫 | 17 | 神樂殿 |
| 3  | 食糧(五穀)貯蔵庫 | 13 | 神庫 | 18 | 神樂殿 |
| 4  | 農具陳列館     | 14 | 神庫 | 19 | 神樂殿 |
| 5  | 農具陳列館     | 15 | 神庫 | 20 | 神樂殿 |
| 6  | 農具陳列館     | 16 | 神庫 | 21 | 神樂殿 |
| 7  | 農具陳列館     | 17 | 神庫 | 22 | 神樂殿 |
| 8  | 農具陳列館     | 18 | 神庫 | 23 | 神樂殿 |
| 9  | 農具陳列館     | 19 | 神庫 | 24 | 神樂殿 |
| 10 | 農具陳列館     | 20 | 神庫 | 25 | 神樂殿 |

倉田山全圖

倉田山解説

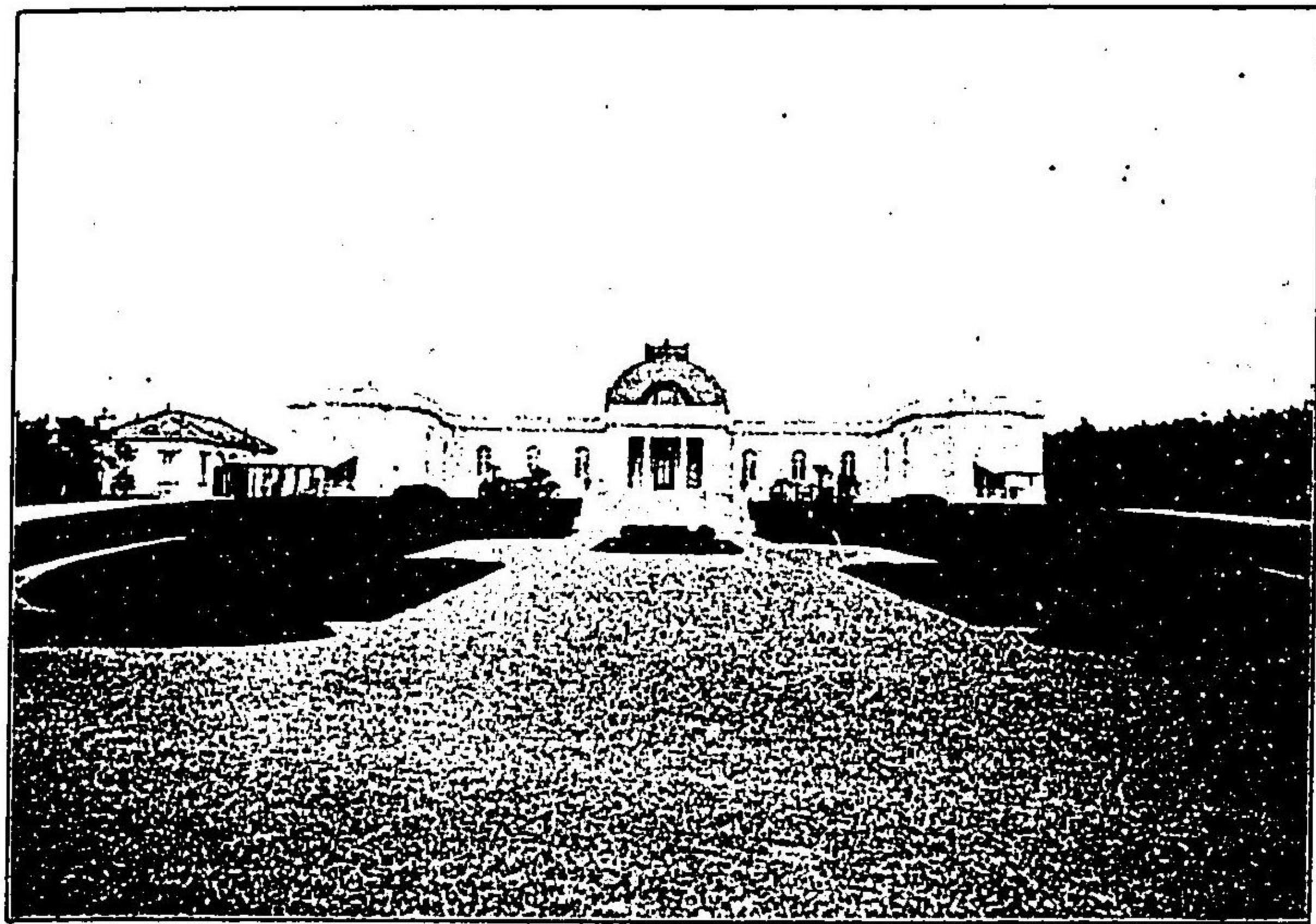
倉田山ハ、兩宮ノ中間ニ位セル山林ニシテ、度會郡四郷、濱郷ノ二村ニ跨リ、字赤井谷ニ屬セリ、東南田野ヲ隔テ、鼓ヶ岳、朝熊山ニ對シ、西北、市街村落ヲ瞰下シテ、遠ク伊勢灣ノ蒼波ヲ望ム、風趣壯麗、眺矚佳絕、南勢第一ノ勝區ナリ。

明治十九年、本會創立ニ際シ、神苑第二次ノ目的トシテ、歴史博物館ノ計圖ヲ唱へ、位置ヲ此地ニ擬ス、神苑成功ノ頃、歴史博物館ノ計圖ヲ改メテ、徵古館トシ、専心經營ノ法案ヲ講ズト雖モ、其規模壯大ニシテ、財計之ニ伴ハズ、同二十四年五月、先ヅ農業館ヲ、外宮苑地ノ北面豊川町地内ニ建設シテ、其一部トス、爾來、釀金ノ方法ニ盡瘁スル者殆ド十有餘年、其間凶歉或ハ外征ノ役アリ、苦心慘憺、同三十三年ニ至リ、大略調査ヲ了シ、區域ヲ定メ、其地ヲ買收スル凡十三町歩餘、茲ニ始テ實施ノ方針ヲ立ツ、同三十六年五月、第五回内國勸業博覽會三重協賛會ト協定シ、先ヅ神宮撤下御物拜觀所ヲ造營シテ之ヲ、神宮ニ獻納シ、且起點岩淵町東端ヨリ拜觀所ニ達シ、終點久世戸町ニ至ル延長千間、幅五間ノ道路ヲ新設ス、越テ三十七年、農業館及本會事務所ヲ此地ニ移築シ、翌三十八年七月竣功ス、館ハ口字形平家建、中庭ニハ圓形ノ果樹園ヲ

設ケ、又其附屬工藝館ヲ東方面ニ移築シテ以テ假徵古館ニ充ツ、是ヨリ先三十七年冬、徵古館建築費豫算ヲ定メ、三十九年四月、工學博士片山東熊ヲ聘シテ圖案ヲ決シ、工事監督者ヲ置キ、同年八月起工以來二年有半、即チ四十二年五月落成ス、其四壁悉ク花崗石及花崗煉瓦石ヲ累層シ、正面玄關ヲ經テ貴賓室アリ、左右兩翼端ヲ昇降口トシ、各石階段ヲ設ク、屋上ハ銅葺ニシテ四邊ニ花崗石玉垣ヲ繞ラシ、中央ニ兀タル高塔ヲ冠ス、精巧ノ技、壯麗ノ姿、相映ジテ輪奐タリ、當時未ダ造園ニ遑アラズト雖モ、神宮式年遷宮ノ盛典ヲ期シテ先ヅ館内ノ陳列ヲ了ヘ、同年九月二十九日ヲ以テ、開館式ヲ舉グ、其後專ラ造園ニ從事ス、其設計ハ内苑局技師市川之雄ノ意匠并ニ監督ニ成リ、館ノ正面ヲ洋風ノ楯形園トシ、南面ヲ國風ノ庭園トス、樹木ノ配置、通路ノ接續等施設各宜キニ適シ、雄渾適麗殆ド塵寰ノ外ニ在ルガ如シ、頃者碑ヲ建テ本會經營ノ績ヲ勒シテ之ヲ不泯ニ傳ヘントス、茲ニ至テ始テ積年ノ目的ヲ貫徹シ、事業終局ヲ告グ、乃チ既成神苑ノ例ニ倣ヒ、四十四年三月舉テ之ヲ 神宮ニ奉獻ス

倉田山平面全圖中造營物件ヲ區分スルニ片假名文字ヲ以テシ、就中徵古館、農業館ハ別ニ圖面ヲ作リテ之ヲ細說スル所アルベシ

徵古館





燾古館平面圖

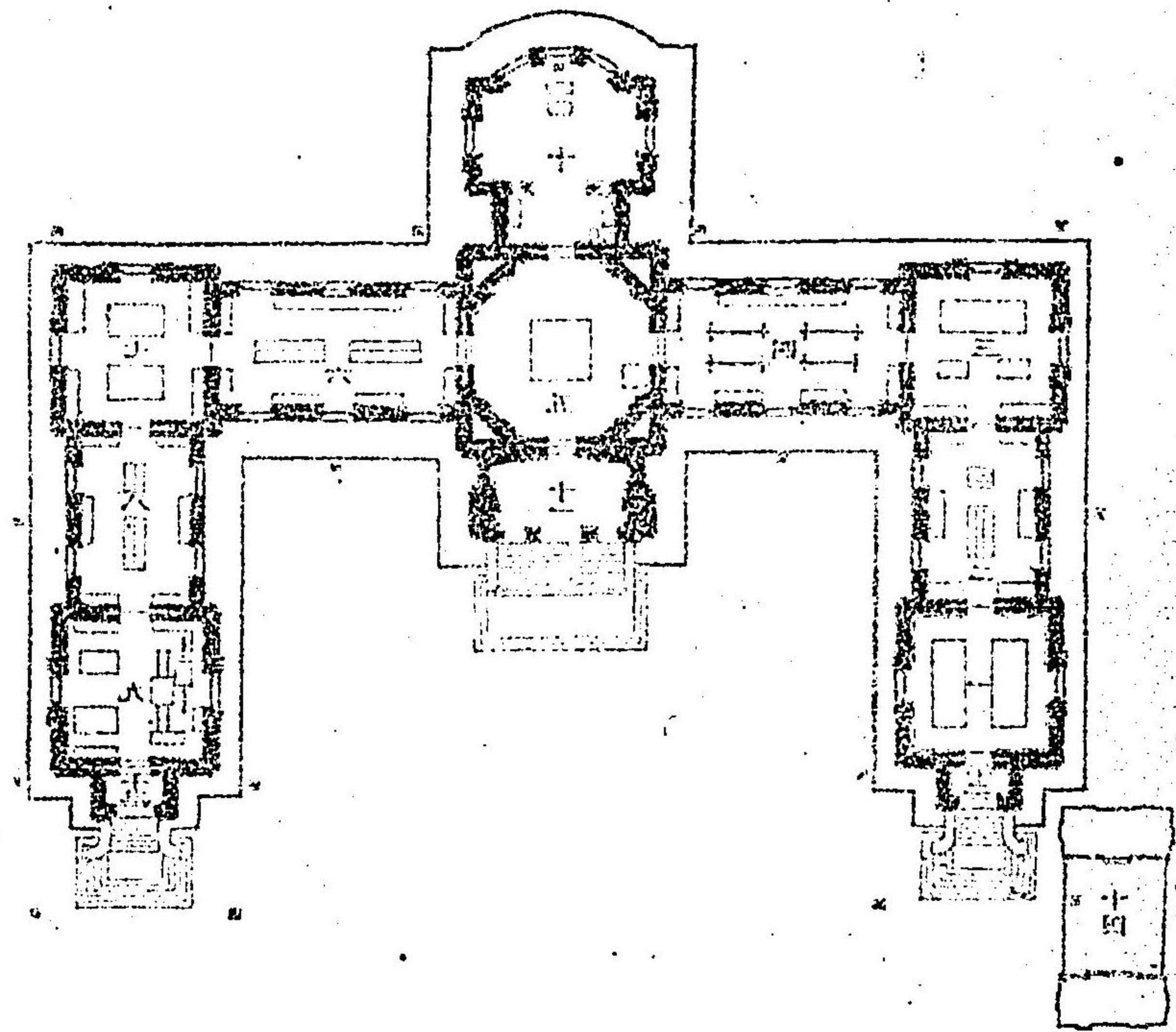


圖 家

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四
室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	室	室

燾古館説明

本館建營ニ關スル經歷ノ梗概ハ既ニ倉田山ノ部ニ述ル所ノ如シ、今左ニ構造及館内陳列ノ大要ヲ説明セン

一本館ノ位置ハ宇治山田山市市外、倉田山ニ在リ、東ハ國道ニ沿ヒ、右ニ神宮撤下御物拜觀所ヲ控ヘ、左ニ農業館ト相對シ、正面ハ西南ニ向フ、平面ノ形狀ハ品字形ヲナシ、中央ノ廣堂ニ因テ左右兩翼及後尾ノ各室ヲ連續ス、其様式、レネーサンス式平家建洋館ニシテ、大サ(壁中真線)前面ノ長百九十四尺、側面ノ長百四十六尺六寸、坪數三百三坪餘、高サ地盤線ヨリ軒、バラベツト、迄二十九尺七寸、中央高樓ノ部ニ於テ三十尺九寸トス

一本工事ハ明治三十九年十一月、地形工事ニ着手シ、同四十年五月、總裁有栖川宮台臨基礎式ヲ舉サセラレ、同四十二年五月竣功ス、即チ起工以來約二年半ヲ要セリ

一館ノ正面中央ニ玄關ヲ構ヘ、花崗石大階段ヲ設ク、左右突出部モ亦昇降口ニシテ階段アリ、中央ノ廣堂ニ接續セル室ヲ陳列室トシ、後部ニ突出セル室ヲ貴賓室ニ



充用セリ

- 一 構造ノ基礎ヲ定ムルニ方リ、先ヅ地質ノ試験ヲ遂ゲ、堅牢ニシテ好適ナルヲ以テ、普通コンクリート地形トシ、同上ニ各部壁厚ニ應ジ煉化石根積ヲ爲ス、側壁ノ厚二尺三寸三枚、二尺七寸三枚半、最厚キ所ハ五尺トス、外部腰廻五層ノ石積及軒蛇腹、バラベツト窓入口廻、追持、中央支關ノ壁等ハ備中國北木島産花崗石ヲ用キ、中央支關石柱ノ上部ニハ〔〕形ノ軟鋼鐵梁ヲ架シ、安全ニ重量ヲ支持セシメ、其他外部ノ壁面ハ悉ク備前陶器會社專賣花崗煉化石積トス、内部ノ壁面ハ漆喰塗ニシテ腰羽目ヲ設ケ、中央廣堂ニハ秩父産蛇紋石ヲ以テ巾木トス
- 一 小屋組構造ハ木製ニシテ、屋上ハ總テ銅板葺トシ、アスハルト、フェルトヲ以テ下葺トス、木桶堅樋等モ銅板製トシ、避雷針ヲ中央高樓ト左右兩翼ノ各角屋トニ一個所ヅ、都テ五個所ニ設置ス
- 一 中央廣堂ノ床ハ支持ノ爲ニ適應ノ基礎ヲ築造シ、總追持ヲ架シ、其上ニセメント、コンクリートヲ敷キテ平均シ、英國製セラミック、モサイクラヲ以テ裝飾シ、正面中央及兩翼支關ノ床ハ花崗石ノ四盤石敷トシ、其他各陣列室ハ木製床ニシテ悉皆

枅一寸一分板ヲ實矧トシ、隠レ釘ニ張詰メタリ

- 一 天井下地ハ普通木製ニシテ、中央廣堂ハ天井平地ヲ除キ、蛇腹繪模樣彫刻ハ悉ク石寄ヲ以テ之ヲ作り、他室ハ蛇腹平地共漆喰塗トス
- 一 各入口ハ幅六尺、高十二尺左右引分ノ唐戸トシ、窓ハ硝子障子二枚開キ半圓形、欄間ハ硝子障子條殺トス、欄間ヲ除キ窓毎ニ折込戸ヲ設ケテ戸締ヲナスベク、建具材ハ總體檜ヲ用キ、敷居類ハ楓材ヲ用フ、窓硝子ハ厚一分板ヲ條メ、各窓ニハ總テ「ブラインダ」(日除)ヲ備ヘ附ク
- 一 内部ノ巾木、腰羽目、建具等ノ木部ハ淡色、ペイントヲ數回ニ塗り艶消仕上ゲトナセリ、又貴賓室内ノ石寄製圓柱及各室ノ壁面等ハ乾燥ノ上、ペイント塗仕上ヲナセリ
- 一 屋上ヨリ下リ排出スル雨水ハ建物周圍ニ布設ノ土管ヲ通ジ排泄ス、土管内徑八寸乃至六寸ヲ使用シ、要所ニ煉化石造ノ溜枡ヲ設ケ、土砂沈澱ノ用ニ供シ、上部ニ石梓ヲ据エ、格子形鑄鐵蓋ヲ爲ス

- 一 陳列函ハ總テ「チーク」材ヲ用キ、陳列品ニ據テ參酌シ、堅固視函ノ二種ヲ製シ、磨厚

硝子板ヲ嵌込、大小五十一個ヲ配置ス

一 附屬建物(休憩所)本館正面左翼入口ニ接セル木製洋館一棟ニシテ長四十七尺幅二十尺、坪數二十四坪六合アリ、以テ觀覽者ノ便ニ供シ、其一室ヲ守護詰所ニ充ツ

一 敷地面積ハ約一萬坪トス、館ノ背面國道ニ沿ヒ長百餘間ノ土留壁ヲ築造シテ懸崖ヲ保護セシメ、其特ニ突出セル部分ニハ花崗石ノ玉垣ヲ圍ラシテ眺望欄ニ充ルノ外、境域四圍ニ柵塀等ヲ設ケズ、全然開放ノ庭園トシ、樹木ノ栽植ハ遠近ノ山野ト照應配置シテ適當ノ風景ヲ點綴セシメ、楕圓形平坦地六百有餘坪ヲ築キテ運動若クハ集會ノ域ニ供シ、幅五間ノ車馬道ト三間乃至一間半ノ步道トヲ設ケテ隨意徘徊逍遙ノ便ニ資セリ

一 館内陳列ハ、帝室博物館學藝員高橋健自之ヲ整理シ、其風俗人形ハ關係之助ノ設計配列ニ係リ、而シテ石器時代遺物、土俗品ノ解説及陳列ハ、主トシテ理學博士坪井正五郎ノ擔當ニ成ル所ナリ、列品ノ區分、各室ノ配置、并ニ風俗人形ノ概説ヲ掲グルコト次ノ如シ

列品區分

- 第一區 歷代宸影、貴紳名士等肖像、古文書、繪畫、筆蹟等
  - 第二區 上古遺物(古墳時代遺物、石器時代遺物)
  - 第三區 祭祀器具
  - 第四區 服飾 儀式類
  - 第五區 家什 文房具 遊戲具 樂器等
  - 第六區 貨幣 度量衡等
  - 第七區 武器 馬具等
  - 第八區 建築 輿車 船舶等
  - 第九區 土俗品(北海道、樺太、臺灣、清、韓等)
- 陳列配置
- 第一室 風俗人形及武器
  - 第二室 武器 馬具 服飾
  - 第三室 服飾 風俗人形 樂器 遊戲具 文房具
  - 第四室 畫圖

- 第五室 祭祀器具
- 第六室 畫圖 筆蹟
- 第七室 祭祀器具 佛教器具 儀式 調度 貨幣 度量衡
- 第八室 上古遺物
- 第九室 建築 輿車 船舶 石器時代遺物
- 第十室 貴寶室

(土俗品ハ當分倉庫ニ收藏シ、戰利品ハ倉庫前ニ陳列ス)

風俗人形目錄并説明

第一 上古風俗男子 佛教渡來以前ノ風  
 髮ヲ美豆羅ニ結ビ、櫛ヲ挿シ耳ニハ耳輪ヲ懸ケ、頸ニハ勾玉管玉丸玉等ヲ貫キタル頸玉ヲ懸ケ、手節ニハ鈴釧ヲ着ケ、左衽ノ衣ヲ着シ、脚ニハ褌ヲ穿キ小鈴ヲ着ケタル足結ヲ爲シ、鞞ヲ着ケテ沓ヲ穿ク。腰ニハ炭手劔ヲ懸帶ニテ佩キ、葛初ニ野矢ヲ盛リタルヲ負ヒ、左ノ腕ニハ弦ノ釧ニ觸ル、ヲ防グ爲メニ鞞ヲ着ケ、丸木弓ヲ携ヘ、所謂上古ノ弓弮ノ調ヲ獲ントテ朝獲ニ出立ツ體ヲ示ス。

第二 上古風俗女子 同前

髮ヲ頭頂ニ結束シテ後世ノ島田髷ノ如クシ、額櫛ヲ挿ス。耳輪頸玉等男子ニ同ジ。手ニハ手玉ヲ懸ケ、衣袴ヲ着シ、裳ヲ纏ヒ、領布ヲ懸ケ、席上ニ坐シテ前ニ麻笥ヲ置キ、持ヲ手ニ持チテ續麻ヲ卷ク。所謂手末ノ調ヲモノスル體ヲ示ス。

第三 奈良朝時代風俗男子

五位文官朝服 隋唐ノ風ニ倣ヒタル時

皂羅頭巾、淺緋袍、白袴半臂ヲ着ケ、銀裝革帶ヲ結ビ、白襪ヲ着ケ、烏皮履ヲ穿キ、淺緋袋ヲ佩ビ、牙笏ヲ把リテ歩マントスルノ體ニシテ、文官朝參ノ體ヲ示ス。

第四 藤原時代風俗男子

五位東帶 前代ノ風俗漸ク化シテ日本式トナリタル時

垂纒冠、單大口袴、表袴、下裳緋衣ヲ着シ、石帶ヲ以テ束ネ、魚袋ヲ佩ビ、帖紙、檜扇ヲ懷中シ、笏ヲ把リ、淺沓ヲ着ケテ立テル體。以テ前代ノ朝服ノ變化セシヲ示ス。

第五 藤原時代風俗女子

髮ヲ上ゲ、平額ヲ加ヘ、釵子及櫛ヲ挿シテ、所謂寶髻ニ結ビ、袴、單、五衣、表衣、唐衣、裳ヲ着ケ、帖紙ヲ懷中シ、手ニ檜扇ヲ懸シテ歩マントスルノ體。中古女子ノ盛裝ヲ示ス。

第六 鎌倉時代風俗 貴族

髪ヲ高ク上ゲ髻ニテ結ビ單袴半尻ヲ着ケ、淺沓ヲ穿キ、手ニ毬杖ヲ携ヘ、毬ヲ打タ  
ントスルノ體、古代ノ遊戯ノ今日ニ類スルモノアリシヲ示ス。

第七 鎌倉時代武裝 胴丸

引立烏帽子ニ鉢巻シ、鎧直垂ニ脛巾シテ括ヲ入レ、鞆ニ片籠手ヲ差シ、足袋ニ熊皮  
貫ヲ穿キ、杏葉附ケタル胴丸ノ鎧ヲ着シ、大鍬形ニ獅子ノ前立シタル兜ヲ戴キ、上  
帶シテ熊皮ノ尻鞆懸ケタル兵庫鎧ノ太刀ヲ佩キ、赤木柄ニ胴金入レタル刀ヲ挿  
シ、中指ノ征矢ニ鳴鏑矢ヲ表指シタル逆短箆ヲ負ヒ、節卷シタル弓ヲ握リ、扇ヲ把  
リ、腰ヲ胡床ニ掛ケテ憩フ體、源平以來足利中世迄ノ將士大凡此ノ如シ。

第八 中古風俗 股夫旅行

折烏帽子ニ布直垂四布袴ヲ着シ、草鞋ニ菜脛巾ヲ着ケ、燧袋附ケテ見世鞆掛ケタ  
ル腰刀ヲ佩ビ、唐櫃ニ表指袋ヲ取り附ケタルト、行器ニ鬚籠ヲ添ヘタルト、一荷  
トシテ、枒ニテ荷ヒ、手ニハ蒲葵扇ヲ携ヘタル體、以テ當代旅行ノ困難ニシテ必要  
ノ具ヲ多ク携ヘタリシト、卑賤ノ風俗トヲ示ス。

第九 中古風俗男子 貴族烏帽子直衣

立烏帽子ニ單差貫直衣ヲ着ケ、坐シテ脇息ニ倚リ、手ニ檜扇ヲ携ヘタル體、藤原以  
來足利頃迄ノ貴族ノ藝ノ服ヲ示ス。

第十 中古風俗女子 貴族小袿

垂髮ニ紅袴ヲ穿キ、單ニ小袿ヲ重ネタルヲ着シ、坐シテ箆ヲ彈ズル體、貴族女子ノ  
藝ノ服ト音樂ノ體トヲ示ス。

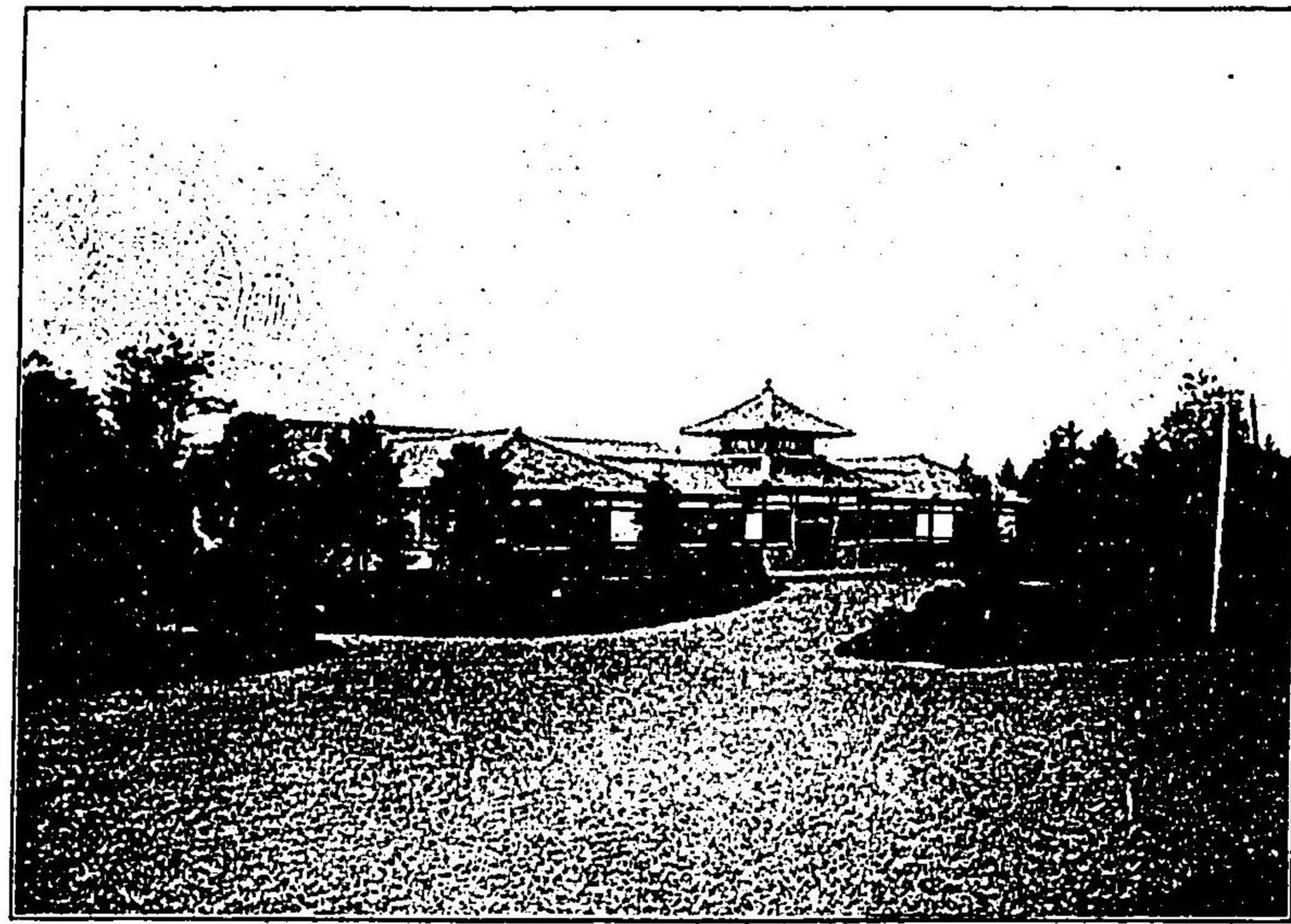
第十一 足利末世武裝 當世具足

月代ヲ剃リテ亂髮シタルニ鉢巻シ、具足下着ニ小袴ヲ着シ、素懸威ノ具足ヲ着シ、  
兜ヲ高紐ニ懸ケ、陣大小ヲ挿シ、右手ニ采配ヲ高ク振り、左手ニ大身鎗ヲ携ヘテ立  
チタル體、以テ前代ノ甲冑以下兵器ノ沿革ヲ知ラシム。

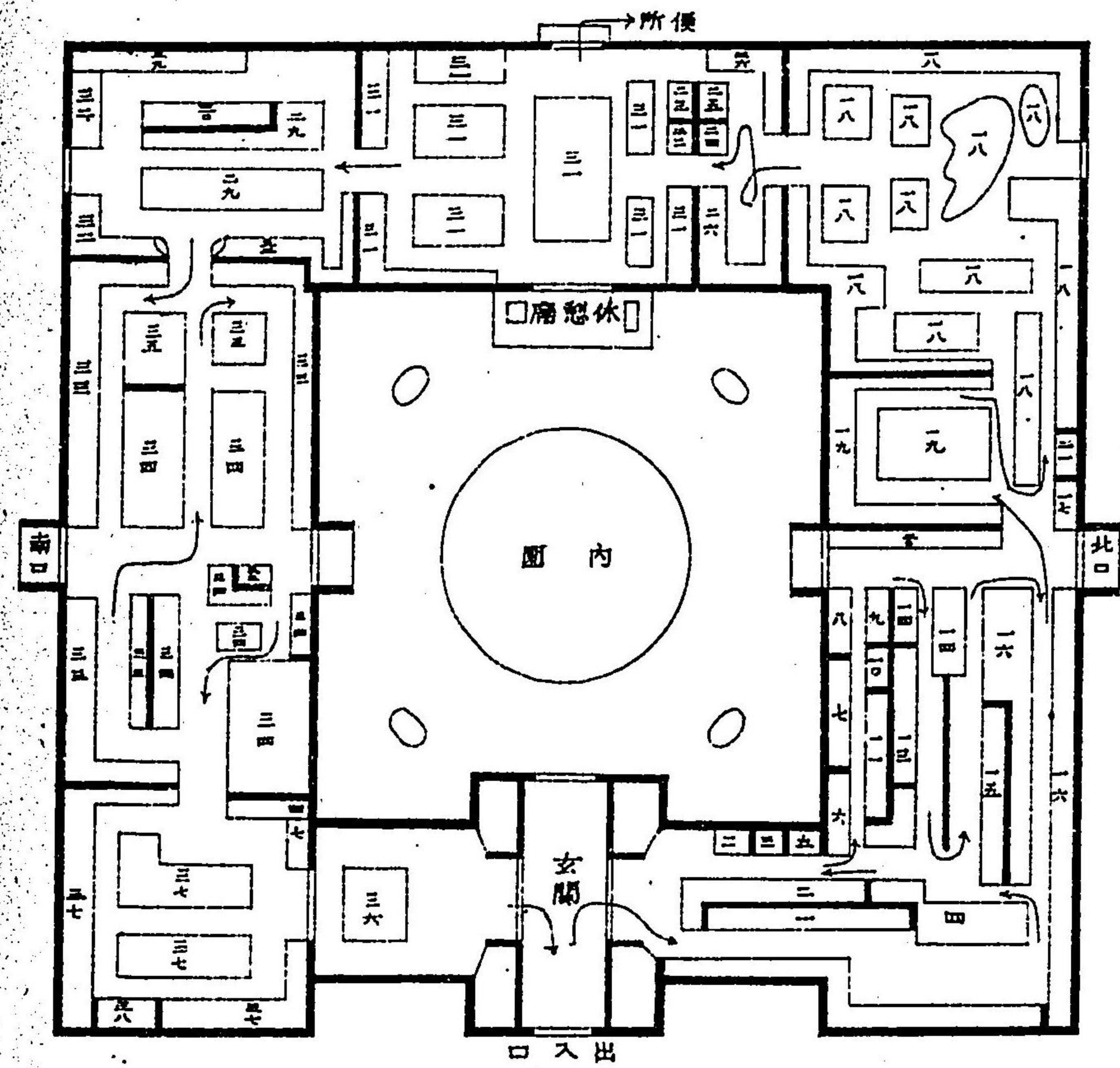
第十二 徳川時代風俗女子 上流武家盛粧

髪ヲかたははづしニ結ヒ、白ノ下着ニ赤ノ間着ヲ重ネテ着シ、帶附シテ打掛ヲ着シ、  
足袋ヲ穿キ、箱世古ト鏡附ニ簪ヲ挿シタルト、懷中シテ手ニ三方ヲ捧ゲテ歩マ  
ントスルノ體、以テ中古ノ小袿ノ變化シタルヲ示ス。

農 業 館

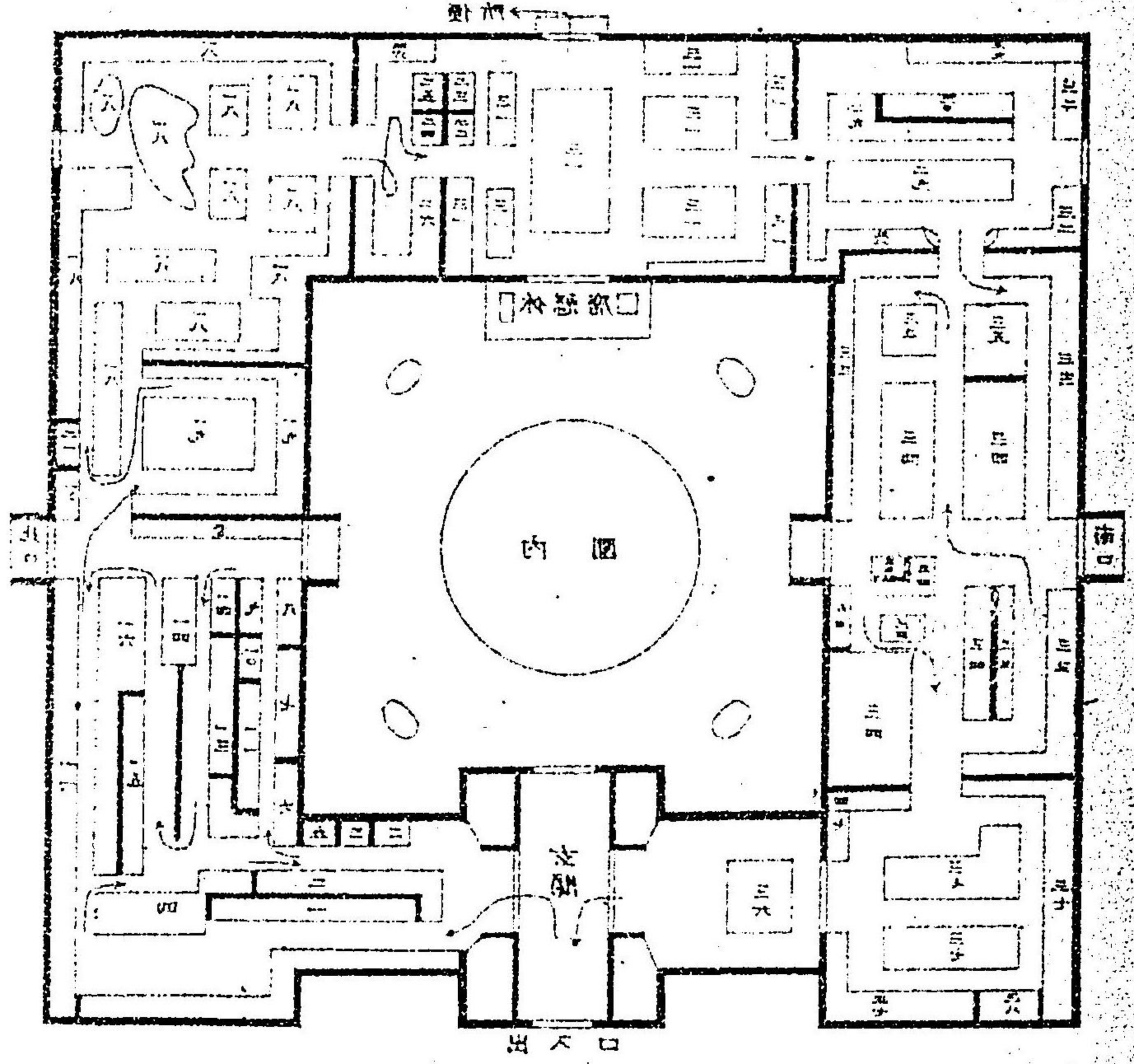


圖面平館業農



號		符	
一九	一八	一七	一六
一五	一四	一三	一二
一一	一〇	九	八
七	六	五	四
三	二	一	
竹材類	木材類	牧草類	各用類
織物類	絹類	麻類	紙類
油類	蠟類	藥材類	煙草類
貯藏食品類	製造食品類	鹽類	砂類
茶類	香料類	有香植物類	有香植物類
菓子類	菓子類	菓子類	菓子類
園藝類	園藝類	園藝類	園藝類
圖書類	圖書類	圖書類	圖書類
祭具類	祭具類	祭具類	祭具類
水產物類	水產物類	水產物類	水產物類
昆蟲類	昆蟲類	昆蟲類	昆蟲類
動物類	動物類	動物類	動物類
農具類	農具類	農具類	農具類
肥料類	肥料類	肥料類	肥料類
土性物質類	土性物質類	土性物質類	土性物質類
飲食物類	飲食物類	飲食物類	飲食物類
有香植物類	有香植物類	有香植物類	有香植物類
菓子類	菓子類	菓子類	菓子類
園藝類	園藝類	園藝類	園藝類

農業館平面圖



第一										第二									
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
穀類	茶葉	香料	糖類	油類	纖維	皮革	礦物	化學	其他	穀類	茶葉	香料	糖類	油類	纖維	皮革	礦物	化學	其他
一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九
園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝	園藝

農業館說明

本館ハ明治三十七年 外宮神苑前ヨリ此地ニ移築セシ所ナリ、東南ハ庭園ヲ隔テテ斜メニ徵古館ニ面シ、西北ハ田圃ヲ背ニシテ山内良位ノ一角ヲナセリ、本館設立ノ旨趣ハ我國古來豐受大神ヲ農祖ト仰ギ、農家ノ子弟ハ必ず神宮ニ賽スルノ習慣アルガ故ニ、農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶類ノ產物、製品、器具若クハ模型、圖書等ヲ蒐集陳列シ、以テ農藝ノ改良、產業ノ發達ニ資セントスルニ在リ

館内列品ヲ類別分屬シテ排列シ、陳列棚ノ上部ニ各類名ヲ標記ス、然レドモ其順序ニ至テハ悉ク分類表ノ次第ヲ逐フ能ハザルヲ以テ、指導札ヲ掲グルモ唯一部分ノ系統的巡覽ニ便センガ爲ナルノミ、列品ニ附スルニ其性效或ハ生産ノ狀況等概略ノ解説ヲ以テシ、半成品ニハ原料或ハ製品ヲ添エ、製品ニハ原料包裝等ヲ添エ、又模型若ハ圖畫ヲ以テ製造養成ノ作業ヲ知ラシメ、且列品ト對照スベキ植物ノ若干種ヲ庭園内ニ栽植ス

明治四十三年六月現在ノ列品ヲ三十八ニ類次シ、各類ヲ又若干小類ニ區分シテ其品名ヲ擧グ、之ニ關スル各般ノ要項及解説ヲ註セル、農業館列品目錄第二版アリ、又

農商務省特許局發行ノ特許實用新案商標ノ三公報ヲ備ヘ、觀覽人ノ希望ニ應ジ閱覽ニ供ス

創設以來本館一切ノ處理董督ハ、本會理事田中芳男ノ擔當ニシテ、其陳列物品ノ類集整頓セルコトハ、本館ノ特色トシテ大ニ本會ノ面目ヲ施ス所ナリ、明治四十四年三月、徵古館ト共ニ之ヲ 神宮ニ奉獻ス、今左ニ列品分類表ヲ掲グ

列品分類表(附內容概目)

- 第一 穀類 穀類、穀類穗、草幹
- 第二 菜果類 蔬菜、野菜、菌茸、果實、食用器具并容器
- 第三 香辛類 香味料、辛味料、容器
- 第四 茶類 茶、咖啡、香煎、製造具、飲用器具
- 第五 砂糖類 砂糖、糖蜜、餡、原料并器具
- 第六 釀造類 酒類、醬類、原料并器具、飲用器具
- 第七 製造食品類 穀類製品、製貯食品、製造器具、食用具
- 第八 貯藏食品類 動物性食品、罐、壘、糖詰、開封、擠出具
- 第九 烟草類 葉并製造烟草、製造具、喫烟具
- 第十 藥材類 植物性藥料、香料并用具、苦藥除藥料
- 第十一 油蠟類 動物油蠟、脂、膠、漆并原料、製造并用具
- 第十二 染料類 植物性染料、塗質料、製品并染色標本
- 第十三 纖維類 植物性紡織纖維并製品、製造具
- 第十四 製紙類 抄紙料、紙并紙製品、糊料、製造具
- 第十五 綿絮類 綿并製綿具、綿製品、綿類似品并製品
- 第十六 各用類 各種ノ用途アル植物體、製

- 第十七 牧草類 禾木、草料牧草、禽畜飼養料
- 第十八 木材類 木材、樹皮并製品、林業模型
- 第十九 竹材類 竹材、籐、蘆荻、蓆、椽類、幹并製品
- 第二十 園藝類 園藝植物、養成方法、模型并器具
- 第二十一 種子類 種子標本、器具
- 第二十二 有毒植物 有毒草木、菌茸
- 第二十三 有害植物 有害草木、菌茸
- 第二十四 食物分析 原料、製品分析標本
- 第二十五 土性地質 土壤分析標本、耕地整理方法并器具
- 第二十六 肥料類 動物植物人遺體肥料、肥料分析標本
- 第二十七 農業用具 耕耘、播種、收穫、貯藏、運搬具
- 第二十八 農產貯具 穀物、菜果製造并貯藏具
- 第二十九 動物類 禽獸標本、飼養、使役并抽瘦具
- 第三十 動物產物 畜養、野生動物產物、製品
- 第三十一 繭絲類 家蠶、天蠶標本并模型、繭絲并製品、養蠶人形、養蠶製絲具、飼料
- 第三十二 昆蟲類 昆蟲標本、驅除藥并器具、養蜂具、雜品
- 第三十三 水產物類 水族、海藻、貝殼標本并製品、食鹽其他鹽類
- 第三十四 水產漁撈具 捕撈、養殖器具并模型、漁船
- 第三十五 水產製貯具 水產製造場模型并器具
- 第三十六 神祭具 農業山林ニ關スル神祭具
- 第三十七 掛圖類 農作、園藝、山林、牧畜、蠶絲、水產、製造等ニ關スル
- 第三十八 圖書類 圖解、統計、圖書

徵古館開館式以降、神宮遷御式ノ盛典終了ニ至ルマデ、遠邇ノ旅



客神都ニ齋群シ、殷盛ノ狀、勝テ記スベカラズ。

七日、乙部八二郎ヲ徵古館管守ニ任用シ、守衛楠田兵治ノ管守心得兼務ヲ解ク。

八日、客月開館式以前ヨリ滯留中ノ花房會頭、周布副會頭、三橋監事等歸東ス。

九日、午前九時 臨時神宮祭主多嘉王殿下、徵古館ニ台臨アラセラレ、貴賓室ニ休憩ノ後、本館及農業館ヲ台覽アラセラル。

十一日、帝室博物館總長股野琢、來リテ徵古館ヲ視、翌日 神宮參拜ヲ遂ゲテ歸ル。

宇治山田市、毎年神嘗祭日并ニ其前日ヲ以テ地方ノ例祭トシ、能樂、舞踊、烟花等ヲ催シテ餘興ヲ添フ、本月十六、七ノ兩日其例祭ニ當レ

リ、本會即チ倉田山庭園内ノ使用ヲ認許シ、能樂ヲ茲ニ奏演セシム。

二十四日、監事宇仁田宗馨ノ死ヲ弔シ、特ニ玉串料參拾圓ヲ贈リ、且葬儀ニ寄ルニ紅黃白幡六流ヲ以テス、蓋本會創業以來、至誠渝ラズ、會務ニ軌掌スルユト二十三年、其功勞表スベシ、内規第六條ニ依リ弔詞ヲ贈ルユト左ノ如シ。

尊大人ハ本會創業ノ際ニ方リ、率先會務ニ軌掌セラレ、宜ラ經理ノ任ニ膺リ、至誠堅強二十三年ノ久シキ一日ノ如ク、遂ニ今日ノ成績ヲ修メラル、其功洵ニ顯章ナリ、因テ本會内規第六條ニ依リ特別ヲ以テ別封玉串料ヲ贈進ス

明治四十二年十月二十四日

神苑會會頭子爵 花房 義 質

宇仁田仁兵衛殿

二十五日、山階宮大妃殿下、徵古館ニ台臨アラセラレ、貴賓室ニ少憩ノ後、田中理事ノ先導説明ニ本館及農業館ヲ台覽アラセラル。神宮御造營材標本追加トシテ材片五種ヲ神宮大宮司ヨリ交付セラレ、直チニ農業館内ニ陳列シ、二十九日之ニ對シ保管證ヲ提供ス。

客月以降地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

鳥取縣日野郡、郷社福吉神社、社司山根幸樹、外十三名ニ委員長ヲ囑託シ、日野郡長ニ對スル囑ヲ解ク

京都府事務官昌谷彰、及ビ新潟、群馬、滋賀、廣島、香川、大分、岐阜ノ七縣事務官ニ委員副總長ヲ囑託シ、其前任六名ノ囑ヲ解ク

神奈川縣久良岐郡長北野右一、外郡長一名

京都市長西郷菊次郎、外郡長十七名

新潟縣長岡市長河島良溫、外郡長十名

滋賀縣大津市長西川太治郎、外郡長六名

島根縣邇摩郡長坂井牧之助

香川縣木田郡長米澤平吉、外郡長一名

熊本縣宇土郡長宗村敬四郎、外郡長六名

大分縣西國東郡長秋吉作内、外郡長十一名

愛媛縣松山市長長井政光、外郡長五名

高知縣土佐郡長原口晃、外郡長二名

德島縣德島市長一坂俊太郎、外郡長十名

群馬縣高崎市長内田信保、外郡長七名

山梨縣甲府市長加藤平四郎、外郡長九名

山口縣豐浦郡長松浦成、外郡長一名

廣島縣安佐郡長富樫東十郎、外郡長六名

石川縣珠洲郡長河崎宇吉郎、外郡長一名

右計百十一名ニ委員長ヲ囑託シ、轉任或ハ退官ニ依ル前任者六十二名ノ囑ヲ解ク、大分縣事務官久賀仲藏、滋賀縣屬山田鹿太、德島縣事務官横田郷助、同縣屬梶浦柳之助、廣島縣屬小泉金八、香川縣屬大海原重義ノ六名ニ委員ヲ、德島、香川兩縣ニ委員補四名ヲ囑託シ、轉任ニ依ル前任委員六名ノ囑ヲ解ク

三重縣度會郡、北牟婁郡、香川縣綾部郡、仲多度郡、福島縣東白川郡ノ書記六名、及ビ福島縣東白川郡町村長二十九名、同縣安積郡町村長五十五名ニ委員囑託

福岡縣鞍手郡長津田如廣、外郡長二名ニ委員長ヲ囑託、退官前任者二名ノ囑ヲ解ク

千葉縣事務官元田敏夫ニ委員ヲ囑託シ、轉任ニ依ル前任者一名ヲ解囑ス  
熊本縣屬一名ニ對スル委員ノ囑ヲ解ク

十一月十六日、徵古館建築工事既ニ竣リシヲ以テ、備事務員山本常雄ノ職ヲ解キ、賞與金八拾圓及ビ贈給規程三年勤續ニ對スル勤勞金六拾圓ヲ贈與ス。

二十七日、理事會ヲ事務所ニ開キ、來年度經費豫算ヲ協議ス。

本月中、各府縣多額寄附者ニ對シ、會規ニ基キ銀盃一組ヲ贈呈ス、其人名左ノ如シ。

寄附金額貳千圓

山形縣 本間 光輝

同 上千 圓 (追加ノ爲メ)

東京市子爵 花房 義質

同 上千 圓 (蘇鐵樹ノ寄附許價額)

三重縣 御木 本幸吉

同 上千 圓

神奈川縣 原 富太郎

同 上千 圓

同 縣 茂木 保平

同 上參百圓

同 縣 前田 又平

地方委員部中、滋賀縣事務官紀伊寛平ニ委員ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク。

十二月二日、總理大臣侯爵桂太郎 神宮參拜ヲ了シ、徵古館貴賓室ニ於テ午餐ノ後、本館及農業館ヲ巡覽セララル。

四日、徵古館建築工事囑託員福田安三郎ヲ解囑シ、其起工以來監督ノ功勞ニ對シ、賞與金百六拾圓及ビ贈給規程ニ依ル滿三年勤勞金百貳拾圓ヲ贈與ス。

宇治山田市大字豊川町ニ於ル農業館遺址中、國道用地、郵便局用地、伊勢電氣鐵道株式會社用地等ニ賣却セシ殘部即チ宅地五筆、原野二筆合計面積二千四百二十七坪餘ヲ舉テ、本縣一志郡河合村西川利造ニ賣却シ、所有權移轉登記終了ト共ニ、代金貳萬九千圓ヲ受領

ス、茲ニ於テ不用地ノ處分全ク終結ス。  
 神宮祭主大勳位邦憲王殿下、本月八日薨去アラセラルタル旨、十日發行ノ官報ヲ以テ告示セラル、是ヨリ先キ 殿下ノ久シク靜養アラセラル、ヲ聞クヤ、花房會頭本會ヲ代表シ、書ヲ磯谷家令ニ致シテ尊恙ヲ伺ヒ奉ル、幾クモナク御凶訃ニ接シ恐悚ニ堪ヘズ、本會理事等謹テ弔詞ヲ捧呈ス。

二十三日、評議員會ヲ東京市ニ開キ、來年度經費豫算及館則改正案ヲ評議ス。

二十六日、北白川宮輝久王殿下、倉田山ニ台臨アラセラレ、貴賓室ニ御休憩ノ後、徵、農二館ヲ台覽アラセラル。

二十七日、書記以下事務員、管守、守衛、園丁、小使ニ至ルマデ年末慰勞金ヲ支給シ、且増俸スベキ者ニ對シテ増給辭令ヲ交付ス。

徵古館、農業館ノ規則ヲ改定シ、四十三年一月一日ヲ施行期トス、乃チ旨ヲ兩館管守、守衛及關係者ニ通シ各一部ヲ頒與ス、其規則左ノ如シ。

徵古館、農業館規則

第一款

第一條 徵古館、農業館ハ、伊勢國度會郡濱鄉村大字神田久志本(宇治山田市ニ隣接シ倉田山ト稱ス)ニアリ

第二條 徵古館ハ歷代文物ノ沿革ヲ徵スベキモノ、農業館ハ殖産興業ノ資料ニ備フベキモノヲ陳列シ、公衆ノ觀覽ニ供ス

第三條 徵古館、農業館ハ常時開館ス、其時限左ノ如シ、時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

館内掃除ノ爲メ毎月十四日、當日ノ來觀ヲ謝絶ス

自四月一日至九月三十日、午前八時開館、午後五時閉館

自十月一日至三月三十一日午前八時開館午後四時閉館

但シ観覧券ハ開館三十分钟前ヨリ發賣ス又観覧中閉館時限ニ至ルトキハ三十分ヲ伸張スルコトアルベシ

第四條 観覧人ハ観覧券賣捌所ニ就キ観覧券ヲ買求ムベシ観覧料ハ一人金五錢トシ年齢六歳以下ハ無料トス

第五條 観覧券ハ兩館ヲ通ジテ連接券ノ一種トス

但シ兩館ノ内観覧一館ニ止マルモ其料金ヲ減ゼズ

第六條 観覧人ハ館ノ入口ニ於テ連接券ヲ分離シ該館ノ守衛ニ渡スベシ

第七條 兩館ハ本會ノ款待スル貴賓并ニ會員及奇特者ニシテ其證ヲ携帯スルトキハ観覧券ヲ要セズ

各學校ノ教員生徒學術上研究ノ爲メ観覧ヲ乞フトキハ其學校ノ制服ヲ着用シ又ハ其學校ノ證明書ヲ携帯スルモノニ限り観覧料ヲ半減ス

第八條 白痴瘋癲爛醉者及傳染病者ト認ムルモノハ観覧ヲ謝絶ス

第九條 観覧人ノ携帯物若シ陳列品ニ障害アリト認ムルトキハ之ヲ制止スルコトアルベシ

第十條 兩館内ニ於テ禁止スベキ條件左ノ如シ

- 一 喫烟ヲ爲シ其他火器ヲ携帯スル事
  - 一 物品ニ手ヲ觸ル、事
  - 一 動物ヲ携帯シ或ハ牽入ル、事
  - 一 喧噪奔馳其他遊戲個間敷事
  - 一 徴古館ニ於テ禁止スベキ條件左ノ如シ
  - 一 靴ノ儘館内ニ入ル事
  - 一 簑傘杖(不具者ノ杖ハ此限ニアラズ)其他嵩高ノ手荷物ヲ携帯スル事
  - 一 下駄又ハ土間ヲ履タル草履雪駄ノ類ニテ館内ニ入ル事
  - 一 寫真器ヲ携帯スル事
- 但シ本文ノ物品ヲ保管シ館内ニ使用スル草履ヲ備フルガ爲メ其手数料トシテ一人ニ付金壹錢ヲ徴ス

第二款

第十一條 農業館ニ於テ、物品ヲ手ニ取り、若クハ試用セント欲スルモノハ、同館ノ承諾ヲ乞フベシ

第十二條 徴古館ニ於テ、物品ヲ手ニ取り、若クハ模寫模造ヲ望ムモノハ、特別觀覽人トス

第十三條 特別觀覽ヲ望ムモノハ、同館管守ニ申出、特別觀覽券ヲ買求メ、退館ノ際之ヲ返付スベシ

第十四條 特別觀覽券ハ、物品一個ニ付一日限り其料金ハ金拾錢トス

但シ一個ノ物品ヲ模寫模造スルガ爲メ、一日以上ノ日子ヲ費スモノハ、第二日ヨリ券料ヲ半減ス

第三款

第十五條 凡ソ兩館ニ物品ヲ寄贈シ、若クハ出陳センコトヲ欲スルモノアルトキハ之ニ應ズベシト雖モ、其種類性質又ハ嵩高重量ノ物品ハ、陳列ノ都合ニ依リ謝絶スルコトアルベシ

但シ農業館ニ在テハ、寄贈者若クハ出陳者ニ對シ、其領收證或ハ預リ證書ヲ發

スベシ、徴古館ニ在テハ、第十六條ノ手續ヲ經ルマデ、假ニ預リ證書ヲ發スルモノトス

第十六條 徴古館ニ於テ、前條ノ物品ヲ受理シ、或ハ之ヲ謝絶スル場合ハ、本會ニ於テ、毎年開設スル委員會議ノ決議ニ依ルベシ

但シ委員會議ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 徴古館ニ於テ、出陳ヲ請求シタル寄託品ハ、其預リ證書ヲ所有主ニ交付スベシ

但シ本條ノ出陳者及第十五條ノ寄贈者若クハ出陳者ニ對シ、本會ハ相當待遇ヲ爲スコトアルベシ

第十八條 前條預リ期限ハ六個月トシ、滿期ニ至リ之ヲ所有主ニ通知シ、更ニ繼續スルトキハ預リ證書ノ書換ヲ爲スベシ

但シ預リ期限内ト雖モ、所有主ノ望ニヨリ、又本會ノ都合ニ依リ、證書引換ニ其物品ヲ返付スルコトアルベシ

第十九條 第十五條ノ寄贈物品ニシテ、荷造運搬ニ係ル費用支辨ハ、本會及寄贈者

雙方ノ協議ニ依ルベシ

但シ出陳物ノ荷造運搬費ハ出品者ノ支辨トス

第二十條 第十七條ノ寄托品ハ其荷造運搬費共本會ニ於テ支辨スベシ

第二十一條 前各條ノ物品ハ品主ニ於テ廳府縣國郡市町村番地氏名數量及價格

ヲ記シ且ツ傳來其他成ルベク詳細ナル説明書ノ添付ヲ要ス

第二十二條 第十五條ノ寄贈若クハ出陳ノ物品ニシテ運搬中破損及不慮ノ災害

ハ其責ニ任ゼズ

第二十三條 第十五條ノ出陳物及ビ第十七條ノ寄托物品ハ本館ニ於テ最モ鄭重

ニ保護スベシト雖モ萬一毀損紛失等ノ場合ハ所有主ニ對シ相當ノ辨償ヲ爲ス

ベシ水火風震其他人力ノ抗拒スベカラザル事變ニヨリ生ジタル損害ハ本館其

責ニ任ゼズ

第二十四條 徵古館ノ陳列品ハ本會及所有主ノ承諾ヲ得タルモノニアラザレバ

模寫模造スルヲ得ズ印寫發賣セント欲スルモノ亦同ジ

第二十五條 觀覽人誤テ物品若クハ其容器ヲ毀損シ或ハ汚染シタルトキハ相當

代價ヲ辨償セシム

但シ物品及容器ノ毀損或ハ汚染ノ爲メ價金ヲ辨納セシムルモ其物品ハ本館

ニ留ムルコトアルベシ

第二十六條 兩館内外取締リノ爲メ管守及守衛ヲ配置シ又巡查若干名ヲ置ク

倉田山觀覽ノ衆庶ニ便センガ爲メ徵古館建築ノ餘材ヲ以テ庭園

内ニ一小亭ヲ建設シ頃日落成ヲ告グ即チ休憩喫茶ニ資シ兼テ觀

覽券及印刷圖畫等ノ發賣ニ充テントスルニ在リ然レドモ此事固

ヨリ事務員ニ課スベカラズ要スルニ適當ノ志望者ニ貸付シ本會

ノ命令ニ從ヒ其業ヲ營マシムルヲ可トス宇治山田市旅舍兼割烹

店寺田直三郎命ヲ守リ其業ヲ擔當センユトチ志願シ來ル蓋適當

ノ者ト謂フベシ依テ直チニ其請ヲ許シ書ヲ徵シテ從業ヲ誓ハシ

ム其期間ヲ約シテ明治四十三年一月一日ヨリ同年十二月末日ニ

至ル一箇年トス規スル所ノ條項大要左ノ如シ

- 一 借地區域(亭舎敷地ヲ含ム)三百坪
- 一 亭舎建物一棟(附屬室一棟合セテ二十五坪二合五勺)
- 一 借料一個月金拾圓(每月三日迄ニ納ムベキ事)
- 一 觀覽券受拂簿、觀覽料日計簿ヲ具ヘ、毎日料金ヲ納ムベキ事
- 一 觀覽券取扱ニ就テハ觀覽料百分ノ四ノ交付ヲ受ケ本會ノ豫定價格ニ依リ販賣スル繪葉書、寫眞、印刷物等ニ就テハ賣價百分ノ四ノ交付ヲ受ル事
- 一 販賣スベキ品種ヲ烟草、麥酒、葡萄酒類、燻詰清酒、酢、辨當菓子及果物、種苗ニ限定シ、許可ヲ得ズシテ自餘ノ品種ヲ扱フベカラザル事
- 一 賣店ハ普通營業ト異ナリ其目的觀覽人ノ便ヲ圖ルニ在ルヲ以テ懇切ニ指示誘導シ且精良ノ物品ヲ選擇供給スベキ事
- 一 借地區域内ハ清潔ニ掃除スルヲ要ス、且自己ノ便宜ヲ以テ工作物ヲ造營セザル事
- 一 觀覽券賣捌所ノ業務ハ總テ本會ノ監督ヲ受ベキ事
- 一 借用期限内ト雖モ本會ノ都合ニ依リ立退ヲ命ゼラレタルトキハ一個月以内ニ

返納スベク、而シテ其費用ハ借用人ノ負擔タルベキ事

右條項ニ據リ、賣店即チ觀覽券賣捌所ノ擔當從業者既ニ定マリ、新年ヲ迎ヘテ開舗ノ準備就ル、茲ニ至リテ從來本會直接ノ管理ニ係ル觀覽券取扱ノ事、本年ヲ限リトシテ廢止スルコトヲ得タリ。

本月中、地方委員部職員ノ囑託及解囑左ノ如シ。

長野縣諏訪郡長犬童長豊、外郡長四名ニ委員長ヲ囑託シ、退官又ハ轉任ノ前任五名ヲ解ク

三重縣事務官八尾信夫、同縣屬林秀ノ二名ニ委員ヲ、同縣安濃郡書記一名ニ委員ヲ囑託シ、退官轉任ニ依ル委員二名ヲ解囑ス  
德島縣屬三名ニ對スル委員ノ囑ヲ解ク

三重縣事務官葛輪豊次郎、在職中、縣委員トシテ本會ニ盡ス所多シ、今轉任ニ際シ特別會員ニ推薦シ、黃紐證牌ヲ交付シテ年來ノ功勞ニ報フ。



神苑會史料

第十編終局

第十編

終局期

自明治四十三年一月  
至同四十四年三月解散

明治四十三年一月一日、例ニ依リ新年拜賀ノ式ヲ行ヒ、午前十時大々神樂ヲ 内宮ニ奉奏ス。

此日、徵古館、農業館改正規則ノ實行ト共ニ、賣店契約者寺田直三郎ヲシテ其店舗ヲ開キ、兩館連續ノ觀覽券及列品目錄、繪葉書等ヲ發賣セシム、是ヨリ先キ觀覽券ハ兩館各別ノ券ヲ發シ其料金各參錢ヲ徵セリ、本年以降之ヲ廢シテ連續券トシ其料金ヲ五錢ト定ム。徵古館陳列品整理ノ爲、客臘三十日以來來館從事中ノ高橋健自、本月五日ヲ以テ歸京ス。

八日、藤井清司ニ本會歴史編纂委員ヲ囑託シ、月手當ヲ支給ス。

徵古館案内、陳列品目録及繪葉書既ニ調製ヲ告グ、其列品目録ニハ特ニ貴重品ノ描影ヲ挿入シテ着目ノ便ニ資セリ、職員等謂ヘラク採覽ノ實績收メテ此冊子ニ在リ宜ク農業館列品目録ノ例ニ倣ヒ朝野關係ノ方面ニ頒呈スベキナリト、茲ニ於テ乎兩陛下、東宮殿下、各皇族方ニ獻納スベキモノハ花房會頭携帶シテ之ヲ奉獻シ、各大臣及東京在住ノ本會職員、同府委員總長以下郡市區委員、特待者等ニ呈スベキモノハ、田中理事ニ托シテ之ヲ配送ス。

本月中、地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

静岡縣屬松平孝文、外一名千葉縣香取郡書記一名ニ委員ヲ囑託シ、前任者一名ノ囑ヲ解ク

德島縣事務官後藤文夫ニ委員ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

島根縣安濃郡長袖山金次郎ニ委員長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

廣島縣屬村岡充忠、外一名ニ委員ヲ囑託シ、前任者二名ノ囑ヲ解ク

三十一日、千葉縣委員總長ノ電報稟請ニ依リ、同縣山武郡委員長行方幹ノ死ヲ弔慰シ、内規定ムル所ノ弔詞、玉串料ヲ贈附ス、蓋寄附金募集ニ努メ成績最モ著ハル、ニ由ル。次デ二月二日、福島縣委員總長西澤正太郎ノ訃ニ接シ、弔詞玉串料ヲ電送ス。

二月六日、三重縣委員總長、各郡委員長、宇治山田市内發起者等ニ徵古館列品目録及繪葉書ヲ配賦シ、越テ八日、各府縣委員總長并ニ千圓以上ノ寄附者ニ之ヲ發送ス。次デ各府縣ニ於ル圖書館及文庫ニモ頒與スルニ決シ、十二日之ガ發送ヲ了ス。

十九日、倉田山造園囑託員技師市川之雄、來リテ園内栽樹ノ位置ヲ踏査ス、志摩郡鳥羽町御木本幸吉頃日旅舎ニ市川之雄ニ面シ、談偶倉田山庭園ノ設計ニ及ブヤ、自ラ進ンデ一切ノ栽樹ヲ負荷センコ

トテ望ミ、其費金參千圓ノ義捐ヲ即決シ、其後、約ノ如ク全額ヲ納ム、御木本邊ニ志州神明浦ニ眞珠養殖ノ業ヲ開始シ、東京銀座街ニ店舗ヲ置キテ之ヲ專賣ス、眞珠翁ノ名、内外ニ喧傳セリ。二十八日、滿岡專務理事妻千代子死ス、三月四日其葬儀ニ當リ、内規定ムル所ノ弔詞玉串料ヲ贈リ、且副ルニ絹旗六流造花一對ヲ以テス。

倉田山請願巡查三名派遣ノ期、三月末日ヲ以テ滿了セントス、尙繼續ノ必要ヲ認メ、三月十一日三重縣知事ニ願書ヲ提出シ、更ニ期スルニ四月以後十二月ニ至ル九個月間ヲ以テス、越テ二十二日聽許セラル。

會員參宮者ニ對スル鐵道乘車賃割引ノ件、毎年度繼續許可ヲ被リ以テ本年三月ニ及ブ、鐵道院豫メ内示スル所アルヲ以テ四十三年

度ニ至リ其事遂ニ止ム。

三月三十日、理事會ヲ開キ農業館前庭模様替ノ件、請願巡查詰所移築ノ件等ヲ議ス。

本月中、地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

長野縣事務官力石雄一郎ニ委員副總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

島根縣事務官錦織幹ニ委員副總長ヲ囑託シ其前任者ヲ解囑ス

廣島縣豐田郡長島田尙一、外郡長三名ニ委員長ヲ囑託シ其前任者四名ヲ解囑ス

福島縣知事西久保弘道ニ委員總長ヲ囑託ス

四月一日、本年度以降會員ニ對スル鐵道乘車賃割引廢止ト共ニ、會員待遇規則第二款第十五條ヲ削除スル旨、道廳府縣委員總長ニ通牒ス。

四十二年度會務成績并ニ歳入出決算ヲ調了シ、評議員ノ承認、監事ノ検査ヲ經テ、東京日日、大阪毎日、伊勢朝報ノ三新聞紙上ニ掲載廣

告ス。

明治四十三年 神苑會會務成績

本年度ノ事業ハ専ラ徵古館ノ繼續工事ト其資金ノ調達ニアリシガ、五月ニ至リ漸ク竣功ヲ告グルニ至リタルヲ以テ、豫定ノ通十月 御遷宮ニ先チ九月二十九日開館式ヲ舉行セリ、而シテ資金ノ蒐集モ亦多少ノ困難ヲ經タルニ拘ラズ、神宮司廳ノ補助金、各地方有志者ノ贊同并ニ所有地ノ賣却等ニ依リ遂ニ好成績ヲ得タリ、因テ本年度ノ會計決算額ヲ示スコト左表ノ如シ

明治四十二年度(自十一月)會計決算

一 前年度ヨリ繰越金	八、八九一、九二三
一 歳入	一〇一、七五九、一五〇
内	
神宮司廳補助金	三、二〇〇、〇〇〇
寄附	五四、三三三、七九〇
事業収入	三三、五二〇、二二五

事務所雑入

資財收益

雑收

借入

繰越金及歳入合計

一 歳出

内

奠供費

興業費

事業維持費

事務費

會員費

雑出

借入金返戻

一六、九一五
五一〇、六〇〇
一七七、六二〇
一〇〇、〇〇〇
一〇、六五一、〇七三
九四、四六八、七八三
二〇〇、〇〇〇
五九〇、四七四、三五
二八三、五五四三
六四〇、四〇五一
三一五、三一六二
一、八八八、一九二
二〇〇、〇〇〇

入金 利子

一次年度繰越金

九〇三  
二一、二〇〇〇  
一六、一八三、二九〇

右神苑會會員諸君ニ報告ス

明治四十三年四月

神苑會

右四十二年度ニ於ル成績梗概ヲ舉グレバ、一月中徴古館建築工事ハ既ニ其外部ヲ竣功シ、内部モ亦連リニ其工ヲ進メタリ、次デ造園ヲ市川技師ニ囑託シ、樹木景石ノ位置及ビ玉垣、階石ノ施設ヲ畫シ、督工五月ニ及ビ館ノ内外大約竣工セリ。七月以降開館式準備ニ從事シ、坪井博士、高橋健自、關保之助等ニ囑託シテ館内ノ列品ヲ整理ス、茲ニ至リテ從來ノ假館ヲ閉ヂ、九月下旬新タニ開館式ヲ舉グ、來賓凡七百名、其盛況細叙ニ違アラズ。此後請願巡查ヲ置キテ造營物件并ニ地域ヲ警衛シ、造園工事ヲ督シテ以テ風致ノ造成ニ勉ム。十一月 外宮前不用地域ヲ賣却シテ債務ヲ償却シ、十二月評議員會

ヲ東京ニ開キ、豫算其他ノ要件ヲ議ス。

徴古館陳列品一萬八千二百五十九點ニ達シ、觀覽人員總計七萬四千五百餘人、農業館列品ノ增加千二百六十六點、觀覽人總計二萬五千四百七十餘人ヲ算ス。此年度中寄附金ノ實收額五萬四千三百三十餘圓、其多キハ東京府ノ一萬二千三百餘圓ヲ最トシ、寡キハ北海道廳ノ百圓餘トス。寄附行爲條款第六條、報功内規第八條ヲ適用セシモノ六名、職員異動ハ監事一名死亡ノ外、地方部委員總長以下囑託者二百六十六名、解囑者百四十五名ヲ告グ。

監事三橋勝到、三十九年八月委員囑託以來、常ニ寄附行爲ニ奔走シ、四十一年十二月以來監事ヲ兼職シ會務ニ竭ス所多シ、頃日轉任ノ爲メ本會ノ囑託ヲ解クニ際シ、金五拾圓ヲ贈進シテ在職中ノ功績ニ酬フ。

拜啓貴殿本會委員御囑託以來、寄附行爲ニ付不一方御盡力有之、其後監事ノ御擔任ヲ煩シ、會務上諸事御厚配感謝ノ至ニ候、今般御轉任相成候ニ付テハ、御在職中御盡力ニ對シ、金五拾圓ヲ贈進シ、聊感謝ノ意ヲ表シ候 敬具

明治四十三年四月四日

神苑會會頭子爵 花房 義質

三橋 勝到殿

四月四日、三重縣知事有田義資、神宮少宮司木野戸勝隆ニ評議員ヲ囑託シ、前三重縣知事有松英義、古莊嘉門、各評議員ヲ辭ス、其解囑ニ當リ特ニ左ノ謝狀ヲ呈ス。

拜啓時下益御清程奉賀候陳ハ、疊ニ三重縣知事御奉職中、本會評議員御囑託相成、御轉任後引繼キ御擔任ヲ煩シ、不一方御厚配被下感謝ノ至ニ御座候、今般御辭退ハ不  
得已義ニ付、總裁殿下へ言上シ御解囑相成候へ共、多年ノ御盡力ハ深ク御満足被遊、此上トモ間接御盡力ノ義ハ深ク御頼被遊候次第ニ付、此段宣布御承知被下度候、茲ニ御在任中ノ御厚配御盡力ニ對シ、重ねテ感謝ノ意ヲ表シ候 敬具

明治四十三年四月四日

神苑會會頭子爵 花房 義質

有松 英義 殿

古莊 嘉門 殿

(各通)

頃來、倉田山庭園栽樹ノ爲メ、園藝師數名ヲ東京ヨリ招キ、囑託員市川技師ノ指揮ヲ承ケ專ラ造園ニ從事セシム。

徵古館内ニ雨漏ヲ生ズ、四月十九日、内匠寮技師足立鳩吉、來リテ之ヲ檢シ、銅板請負人ニ命ジテ修理ス。

山口縣屬廣永嘉一、同縣委員トシテ多年本會ニ盡ス所アリ、本月辭任解囑ニ際シ、報功内規ニ基キ特別會員ニ推薦シ、贈ルニ紅紐證牌ヲ以テス。

二十二日、地方官ノ上京中ヲ機トシ、東京市麴町區富士見町富士見軒ニ於ル小松原文相ノ晚餐會席上、周布副會頭ヨリ本會ノ成績方針希望ニ關シテ各府縣委員總長ニ演說スル所アリ、其要旨左ノ如

委員總長諸君、本日ハ花房會頭罷出親シク御挨拶御禮モ申シ、會務ノ報告モ致スツ  
モリデアリマシタガ、十五日ヨリ赤十字社用ノ爲メ、閑院宮殿下ノ御供ヲ致シ福  
岡へ出張セラレマシタユエ、私代リテ神苑會ノ事業ノ大要ヲ御報告ニ及ビマス  
神苑會ノ事業ハ、帝室ヲ始メ、皇族方ノ御下賜金、神宮司廳ノ補助金、廳府縣有志  
ノ寄附等ニ依リ、內宮、外宮神苑ノ擴張整理、山林風致ノ修補及徵古館建築モ落  
成シテ、今ヤ該館内部ノ整理ト、附屬造園等一部ノ工事ニ止マレバ、將ニ本年度ヲ期  
シ終リヲ告ゲ、神宮へ獻納シテ終リヲ完ウセンコトヲ希望シテ居リマス  
徵古館ノ工事ハ三十九年度ヨリノ繼續工事ニシテ、四十二年度マデノ實費ハ金拾  
八萬參百餘圓、其內本館建築ハ金拾四萬七千餘圓、其他ハ裝飾費、造園費、附屬舎及開  
館式費ノ諸費用ニ屬シマス  
右ノ次第ナレバ先般申上マシタ通り、本年六月マデニハ寄附金モ集纏シ、殘務ヲ整  
理致度ナレドモ、六月ト申スモ最早一ヶ月ヲ剩スノミナレバ、何レ本年內ハ事務ノ  
仕掛リモアルコトナレバ、諸君御着手中ノ寄附金ハ本年申ニ三重事務所へ御回附

被下候事ハ勿論、必要ノ費途ニ充用シ、幸ニ剩餘金アルトキハ、舉テ他ノ動産、不動産  
ト共ニ、神宮ニ奉納スルコトニ相成リマス、故ニ此旨ヲ御諒察アリテ尙ホ充分御  
盡力ヲ願上マス、最モ今後ハ寄附ノ爲メニ本會ヨリ人ヲ派スルトカ書面ヲ發スル  
トカ申スコトハ致サナイ積リデアリマス、即チ諸君ノ御意思ニ御任セ致スノデア  
リマス、御參考マデニ最近寄附金ノ狀況ヲ申上レバ、四十一年度本會豫算六萬千  
餘圓ニ對シ、實收貳萬貳千餘圓、四十二年度同上六萬四千餘圓ニ對シ、實收五萬四千  
餘圓、四十三年度同上參萬餘圓ニ對シ、三月マデノ實收參千餘圓ニシテ、四十一年度  
ニ在テハ三井家ヨリ特別壹萬圓ノ寄附アリ、四十三年度ニ在テハ、總裁殿下ヨリ  
特別御寄附參千圓、又岩崎家ヨリ五千圓、御木本ヨリ參千圓ノ寄附アリ、兩三年間資  
金缺乏ニ際シテハ、一時銀行ヨリ借入金ヲ爲セシモ、幸ニ、外宮前本會用地ヲ賣却  
シテ四萬貳千餘圓ヲ得、負債モ償却スルコトヲ得マシタ、三十九年ヨリ本年本月ニ  
至ル各府縣ノ寄附金貳千圓以上ニ達セルモノヲ舉レバ、東京府貳萬四千八百餘圓  
(三井家ノ寄附) 神奈川縣壹萬六千四百餘圓、福岡縣八千六百餘圓、廣島縣七千六百餘圓  
三重縣六千四百餘圓、長崎縣五千七百餘圓、長野縣五千七百餘圓、石川縣四千貳百餘



圓山形縣參千七百餘圓、茨城縣參千五百餘圓、岡山縣參千四百餘圓、大分縣貳千九百餘圓、愛知縣貳千六百餘圓、其他ハ略シマスガ、畢竟、廳府縣、委員總長、委員長、委員、諸子ニ於テ不一方御盡力ノ結果ニ外ナラザル義ト深ク謝スル所デアリマス、此結果ニ對シテハ

總裁殿下ニモ深ク御満足アラセラレ、親シク諸君ニ向テ其台慮ヲ表セラルベキノ處、即今舞子ニ御靜養中ニ付、追テ圓滿結了ノ日ヲ期セラル、思食ニツキ、此旨謹デ御傳ヘ申シマス

本年ハ名古屋ニ共進會モアレバ、御都合ニテ諸君ニモ御參宮ナサレ、神苑及徵古館、農業館等ノ實況モ御一覽アラントヲ希望致シマス、茲ニ御禮ヲ陳ベテ最終ノ取纏ヲ希望スル次第デアリマス、序デニ御參考マデ申上マスガ、神宮司廳補助金ハ三十三年度ヨリ六十二年度マデ三十個年、毎年壹萬五千圓ヅ、下附ノ管ナリシモ、先年撤下御物拜觀所獻納以來維持費トシテ毎年七百圓ヲ控除セラレ、四十三年度分マデハ下附ヲ仰ギ、其後ノ分ハ徵古館、農業館等獻納ニ付維持費ニ充用セラル、管故、本會解散ト共ニ下附金ハ自然維持金トナル譯ト存ジマス

本月中、地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

島根縣簸川郡長千代延聰建、外郡長三名ニ委員長ヲ囑託シ、前任者四名ノ囑ヲ解ク、  
德島縣名東郡長天野雨石、外郡長四名ニ委員長ヲ囑託シ、前任者三名ヲ解囑ス、  
長野縣南佐久郡長岩戸市三郎、外郡長二名ニ委員長ヲ囑託シ、前任者三名ヲ解囑ス、  
同縣南佐久郡書記一名ノ委員ヲ解キ更ニ其後任一名ニ囑託ス、  
島根縣隱岐島長村上壽夫、外郡長一名ニ委員長ヲ囑託シ、前任者二名ノ囑ヲ解ク

五月二日、橫濱市元濱町勳三等大谷嘉兵衛ニ監事ヲ囑託ス。

十日、午後、雨風北東ヨリ來リ終夜激烈、詰朝ニ至ルモ止マズ、午後十時漸ク晴ル、初夏ノ候、未ダ曾テ此例アルヲ聞カズ、本會被害ヲ檢スルニ、倉田山庭園内、新栽樹木凡百株ヲ傾倒シ、徵古館裏面懸崖凡二十五坪ヲ壞裂シ去ル、皆直ナニ修復スベシ、徵古館内各室、飛沫窓ヲ犯シ、點滴壁ヲ汚サルハナシト雖モ、屋上漏雨ノ痕ヲ視ルコトナシ、乃チ狀ヲ具シテ正副會頭ニ申報ス。

二十三日、四十三年度事業補助金ニ關スル支出豫算承認申請ニ對シ、神宮大宮司子爵三室戸和光ノ承認ニ接ス。  
本月、地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

三重縣三重郡長西山武雄、外郡長四名ニ委員長ヲ囑託シ、其轉任又ハ退官ニ依ル前任六名ノ囑ヲ解ク

長野縣事務官森本泉ニ委員副總長ヲ囑託シ、其前任者ノ囑ヲ解ク

六月初旬、倉田山庭園殆ンド完成ヲ告グ、本會之ヲ監護シテ以テ公眾ノ散步遊覽ニ供セント欲セリ、然レドモ制規ナクンバ遊覽ヲ妨グ或ハ風致ヲ害スルノ徒ナキヲ保スベカラズ、乃チ庭園規程ヲ設ケ、先ツ所員ヲシテ其要旨ヲ會得セシメ、未ダ之ヲ實施スルニ至ラズ、其後、本規程ノ要旨ヲ摘記シテ路傍ニ標示ス。

倉田山庭園規程

第一條 本會所有地内南方國道分岐點ヨリ、北方國道分岐點ニ至ルマデヲ倉田山

庭園ノ區域トス

第二條 本庭園ハ公眾ノ遊覽隨意タルベシ

第三條 本庭園ノ使用ハ公共ノ行爲ヲ以テ本旨トス、之ヲ使用セント欲スルモノハ其要旨及行爲ヲ詳記シ本會ノ承諾ヲ得ルヲ要ス

第四條 有志者ノ團體及組合ニシテ公共ノ行爲ト認ムルトキハ、前條ニ準ジ取扱ヲ爲スベシ

第五條 使用ノ本旨公共ニ在リト雖モ、庭園荒廢ノ虞アリト認ムル行爲ハ渾テ之ヲ謝絶スベシ

第六條 本庭園ニ於テ遊戯喧噪爛醉シ、遊覽ノ妨アリト認ムルトキハ之ヲ謝絶スベシ

第七條 本庭園内ハ各自營業ニ屬スル遊技、演藝、若クハ露店ヲ設ケ物品ヲ販賣スル者ハ立入ベカラズ

但本會ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ非ズ

第八條 本庭園ニ於テ乞食勸財及之ニ類似ノ者ハ立入ベカラズ

第九條 本庭園内ニ於テ發砲ヲ爲シ、或ハ火藥爆發ノ危害アル物品ヲ携帶スベカラズ

第十條 本庭園内ノ道路ニ於テ、荷車及馬車乘馬、人力車ハ標示アル場所ノ外、狼リニ置ベカラズ

第十一條 本庭園内ニ於テ自轉車ヲ用ヒ道路ヲ疾走シ、遊歩ノ妨ヲ爲スベカラズ

第十二條 本庭園内ノ道路勾配強キ場所ニ、馬車及人力車ヲ挽キ入ルベカラズ

第十三條 本庭園内ニ於テ左ノ八號ヲ制止ス

一 草花ヲ拔取り樹木ノ枝ヲ折リ草木ノ實ヲ採取シ樹木ニ攀登スル事

一 芝生地及花壇ニ動物ヲ牽入ル事

一 芝生地及花壇ニ踏入又高邱ヲ登降スル事

一 建造物ニ落書ヲ爲ス事

一 道路池濠等ニ塵芥ヲ棄テ、鳥魚蟲類ヲ捕ヘ、焚火ヲ爲シ土石ヲ投ジ、薪柴ヲ拾ヒ取ル事

一 牛馬其他動物ヲ樹木及電信柱或ハ標示杭ニ繫留スル事

一 斃レタル鳥獸ヲ棄ル事

一 寫眞器ヲ携帶シ撮影ヲ爲ス事

第十四條 糞尿其他汚穢物ヲ運搬スル者ハ、本庭園内ノ道路ヲ通過スベカラズ

但庭園内ノ汚穢物ヲ運搬スル者ハ、可成午前八時以前、午後五時以後ニ於テス

ベシ

第十五條 本庭園内ニ於テ俄ニ疾病ニ罹リ或ハ物品紛失等ノ場合ハ本庭園内ノ

巡查派出所ニ届出ラルベシ

右ノ條々堅ク相守ルベキモノナリ

明治四十三年

神 苑 會

五日、花房會頭、市川技師、來リテ倉田山庭園ヲ巡視ス。

朝香宮鳩彦王殿下、同妃允子内親王殿下、成婚ノ大典ヲ告ゲ給ヒ、

本月五日 神宮ニ御參拜アラセラル。御拜既ニ了リ倉田山ニ台臨

ノ命アリ、花房會頭、桑原、太田、兩理事、玉駕ヲ錦水橋畔ニ奉迎シ、滿岡

理事ハ徵古館階下ニ奉迎ス、貴賓室ニ茶菓ヲ獻ズルノ後、會頭ノ先導ニ館内各室及農業館ヲ台覽アラセラル。

六日、有田三重縣知事、子爵三室戸大宮司、木野戸少宮司、今村度會郡長、北川宇治山田市長并ニ鈴木同助役、本會囑託技師市川之雄、及御木本幸吉、村井恒藏等ヲ五二會館ニ招キ、理事列席晚餐ヲ共ニシ倉田山工事ノ完成ヲ祝ス。

八日、周布副會頭來リテ倉田山ノ庭園ヲ視ル、樞密院顧問官子爵清浦奎吾、東京府知事阿部浩等モ相前後シテ來觀ス。

今ヤ徵古館ノ竣功ニ次グニ庭園ノ完成ヲ以テシ、本會ノ事業茲ニ終了ヲ告ントス、獨リ府縣ノ募金未ダ遽カニ結了ニ至ラズ、是レ客歲以還豫メ本月ヲ期トシテ專ラ督促ヲ加フル所ナリト雖モ、猶ホ全局ヲ收拾シ難キヲ認ム、即チ九月ヲ以テ募金ノ終期トナシ、會務

ノ完了ト併セテ募金ヲ完結セント欲シ、本月下旬、道廳府縣委員總長ニ對シテ左ノ通牒ヲ發ス。

拜啓、源君ノ候益御清穆奉賀候、陳ハ過般御東上ノ際、富士見軒ニ於テ周布副會頭ヨリ親ク申述候通リ寄附金取纏方、曩ニ本月ヲ期シ終局ノ豫定ニ有之候處、追々御送金相成候向モ有之、本會モ亦積年業務ノ繁榮、帳簿整理等途ニ全斑ノ會務ヲ完了致兼候ニ付、右旁寄附金集纏期ヲ本年九月末日迄相延シ、自今專ラ會務完了ニ服事候間、宜御承引ノ上、各委員長其他へ御示達被成下、有志者ノ寄附金ハ可成至急結了候様御配慮相蒙度此段特ニ得貴意候也 敬具

明治四十三年六月

神苑會副會頭男爵 周布 公平  
神苑會會頭子爵 花房 義質

道廳各府縣委員總長宛

會テ農業館ニ屬セシ工藝館一棟并ニ其陳列品ハ、曩ニ明治二十六年七月、三重縣ノ寄贈ニ係ル所ナリ、本會既ニ造營物ヲ倉田山ニ移